

岡山県立大学 社会貢献年報2019



社会貢献年報 2019 の発刊にあたって

岡山県立大学
学長 沖 陽子

令和 2 年が明けてまもなく、中国の武漢市から始まった新型コロナウイルスの感染は全世界を駆け巡り、わが国においても未曾有の影響を受け、教育界も卒業式が中止されるという混乱した状況で年度末を迎えました。

本誌は、本学の社会貢献の拠点である「地域共同研究機構」を中心に展開された令和元年度(2019 年度)の活動を詳細に掲載しています。まずは「地(知)の拠点としての活動」を報告し、その後に機構と機構を構成する各センターの活動並びに学部資金等を記載しています。

「地(知)の拠点としての活動」に大きく関与した、文部科学省による「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の代表校としての活動は、本年度が最終年度となり、その成果を「教育改革」、「域学連携」、「産学連携」ごとに記しています。大学間・地域・行政・企業等との連携が過去 5 年間の「地方創生推進事業(COC+)」にて深まりました。地域志向型人材育成も軌道に乗り、昨年度の 28 名に引き続き、本年度は 27 名が「地域創生推進士」の称号を授与することができました。また、昨年度に地域創生推進士の称号を得た学生達の県内就職率は 64%でした。

一方、地域の企業、公的機関及び本学で構成する岡山県立大学協力会には、本学の社会貢献、特に産学連携の推進に大きく寄与して頂きました。ここに、感謝致すと共に今後のさらなる良好な連携活動を望んでおります。

令和の新時代は、第 4 次産業革命を迎え日本の社会構造が大きく変化し、「ヒト・データ」が中心の経済社会に移行すると、前号の巻頭言で記しました。その時には、「未知なる感染症」が日本のみならず世界の社会構造を、急速に変化させるとは予想していませんでした。今後の社会貢献の在り方も変化すると予測されます。対応策としては、地域・行政・企業等の皆様方との協働で、変化する社会に適応する術と人材を生み出すことが大学に求められます。本誌をご高覧頂き、今後の社会貢献活動についてご示唆を賜れば有難く存じます。引き続き力強いご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

2020 年 6 月

目 次

社会貢献年報 2019 の発刊にあたって

1	本学の社会貢献についての概要	1
2	地（知）の拠点としての活動	3
2. 1	地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）	4
2. 1-1	事業の概要	4
2. 1-2	「教育改革」に関する活動	4
2. 1-3	「域学連携」に関する活動	9
2. 1-4	「産学連携」に関する活動	17
2. 1-5	シンポジウムの開催	23
2. 2	地域への貢献	25
2. 2-1	公開講座	25
2. 2-2	吉備創生カレッジ	27
2. 2-3	高大連携活動	28
2. 2-4	附属図書館の活動	29
2. 2-5	異文化理解の活動	32
2. 2-6	健康・スポーツ推進の活動	34
2. 2-7	ボランティア活動	36
2. 3	行政への貢献	37
2. 3-1	岡山県への貢献	37
2. 3-2	市町村への貢献	37
2. 3-3	各種委員・講師の応嘱（行政関係）	39
2. 3-4	共同研究・受託研究等（行政関係）	39
2. 4	企業等への貢献	40
2. 5	人材の育成・輩出	41
2. 5-1	保健福祉学部・大学院保健福祉学研究科	41
2. 5-2	情報工学部・大学院情報系工学研究科	45
2. 5-3	デザイン学部・大学院デザイン学研究科	47
2. 6	その他の貢献	49

2. 6-1	各種委員等への派遣（行政関係以外）	49
2. 6-2	職員表彰	50
3	県立大学の各組織での活動	53
3. 1	地域共同研究機構	54
3. 1-1	体制	54
3. 1-2	重点領域研究	55
3. 1-3	OPU フォーラム 2019	57
3. 1-4	情報発信	63
3. 2	産学官連携推進センター	64
3. 2-1	企業等と連携した研究活動	64
3. 2-2	アクティブ・ラボ	65
3. 2-3	学外組織との連携・協働活動	67
3. 2-4	岡山県立大学協力会	69
3. 3	地域連携推進センター	75
3. 3-1	地域連携プロジェクト	75
3. 3-2	各種連携活動	77
3. 3-3	各種研究会活動	78
3. 3-4	岡山県立大学子育てカレッジ	84
3. 4	社会連携教育推進室	89
3. 4-1	副専攻「岡山創生学」の推進	89
3. 4-2	副専攻「岡山創生学」のカリキュラム改革	90
3. 4-3	地域創生推進士	91
4	外部資金	93
4. 1	令和元年度の実績	94
4. 2	科学研究費	96
4. 3	今後の課題	96
	巻末資料	97

1. 本学の社会貢献についての概要

1 本学の社会貢献についての概要

令和という新しい時代を迎えた本年度は、第3期中期計画の初年度にあたるが、地域と協働し岡山県民の誇りとなる岡山の地(知)の拠点として社会に貢献することが、本学の使命であることに変わりはない。本報告は、令和元(2019)年度の社会貢献活動をまとめたものであり、その概要は以下の通りである。

地域共同研究機構としては、社会のニーズに応える取り組みとして、本学の多岐にわたる研究シーズや知識・技術をベースに、全国的な競争資金及び学内特別資金を活用した「重点領域研究」や OPU フォーラムなどを継続して実施した。

産学官連携推進センターでは、教員とコーディネータが企業に出向く「アクティブ・ラボ」を推進するとともに、地域の企業、公的機関及び本学で構成する岡山県立大学協力会と共催で、画像処理などの最先端技術講習会、企業・教員・学生の交流会、業種説明会などを実施した。

COC+推進室では、文部科学省の COC+として採択された「地域で学び地域で未来を拓く‘生き生きおかやま’人材育成事業」の最終年度を迎え、教育改革では、社会連携推進室と協働で、副専攻「岡山創生学」を開講し、外部評価を受けた修了生 27 名に「地域創生推進士」を授与した。域学連携については、地域連携推進センターとともに、地域連携事業、コモンズキャンパスなどを実施した。産学連携については、企業人材育成事業、技術講習会を継続して実施した。

地域連携推進センターでは、上記の COC+の他に、独自で岡山県立大学子育てカレッジ、糖尿病相談室、各種研究会を実施した。

他方、健康づくり支援、子育て支援、福祉・健康の増進、委員の派遣、並びに、共同研究などの貢献活動については、これまでと同様のアクティビティを進めた。

令和2年度には、これまで本学の社会貢献活動を担ってきた地域共同研究機構を発展的に解消し、ボランティア活動の支援業務を加えた地域創造戦略センターを発足する。したがって、地域共同研究機構が担当する報告としては本年度が最後になることを申し添える。

2. 地（知）の拠点としての活動

2. 1 地（知）の拠点大学による

地方創生推進事業（COC+）

2. 2 地域への貢献

2. 3 行政への貢献

2. 4 企業等への貢献

2. 5 人材の育成・輩出

2. 6 その他の貢献

2. 地（知）の拠点としての活動

2. 1 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

2. 1-1 事業の概要

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、若者の東京一極集中に歯止めをかけ、地域に定着させることを目的として、平成27年度、文部科学省と総務省が取組みを開始した事業である。このCOC+に対して、本学を代表校とする29機関が申請し、選定された「地域で学び地域で未来を拓く『生き活きおかやま』人材育成事業」(以下、本事業という)は、若者の地元定着率の10%向上を目的として、教育改革、域学連携及び産学連携により地域を志向する人材の輩出とその受け皿づくりを行う事業である(機関の数は現在30)。教育改革では、岡山創生学を副専攻として新設して、実践的な専門性と高い地域志向を有する人材の育成を図る。また、平成29年度より導入されたクォーター制に伴い、長期インターンシップやボランティアに係る科目を開講・実施する。域学連携では、自治体、NPO等と協働で子育て、高齢者・障害者支援等を実践し、住みやすい地域づくりに貢献する。産学連携では、地場産業の支援による産業活性化を推進し、魅力的な雇用創出に努めるとともに、雇用マッチングシステムを運用することで雇用開拓と若者の地域への就業機会を拡大する。そして、協働機関との連携の場として地域創生commonsを設置し運営する。

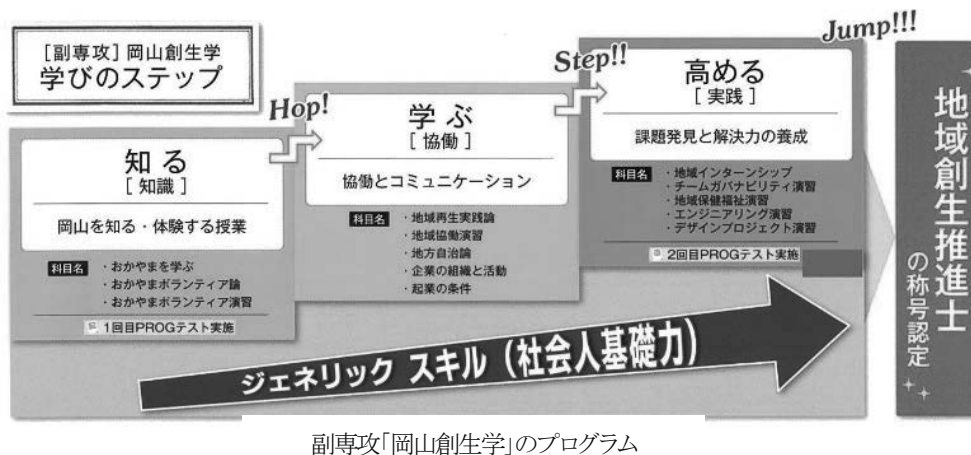


2. 1-2 「教育改革」に関する活動

(1) 副専攻「岡山創生学」

本事業における三つの柱の一つである「教育改革」において、「おかやま」を志向する学生を育成するための副専攻「岡山創生学」を平成28年度から開設している。本副専攻では、学生が、学部・学科における専門教育(主専攻)とは異なる分野の知識や考え方を学び、専門教育を補完するだけでなく、社会に対する視野を広げ、柔軟な発想力や応用力を養うことを目的としている。次図に「岡山創生学」における学びのプロセスを示す。まず、地域を知り、体験することから始まり、コミュニケーションと協働を通じた学びを経て、地域の抱える課題の発見およびその解決プロセスを考えることに取り組む。このような学びの流れに沿って構築した段階的なカリキュラムの履修を通して、社会の中での自分の役割を考え、様々な課題に向き合い、解決できる知識や技術を身に付け、社会で活躍するために必要なジェネリックスキル(社会人基礎力)を磨く。最終的には、認定基準を満たす学生に「地域創生推進士」の称号を授与することとし、平成31年3月に初めて「地域創生推進士」が誕生し、2年の累計では55名となった。

平成28年度から継続して、全学部1年次生に対して、地域を知る機会のある場として「おかやまボランティア論」、「おかやまを学ぶ」の講義科目、さらに地域活動の体験の場としての演習科目「おかやまボランティア演習」を開講し、平成29年度から継続して、2年次生に対しては、協働のアプローチを学ぶ場として「地域再生実践論」、及び地域との協働活動の場として「地域協働演習」の演習科目を開講した。さらに、平成30年度には、3年次生に対して、4週間の長期インターンシップを自治体で実施する「地域インターンシップ」及び企業で実施する「エンジニアリング演習」(2.1-4-2を参照)を新規に開講し、副専攻「岡山創生学」が完成して2年目を迎えた。



(2) 「おかやまを学ぶ」

第2クォーターに開講した「おかやまを学ぶ」では、地域活動をリードする外部講師から、地域課題が地域経済、社会に与える影響を学び、地域の魅力を知り、地域志向への意識を持つことを目的とした。学生は、毎回の講義から地域課題を議論し、地域の抱える課題に関心を持ち、自らが考えるようになった。8回の担当者、及び講義風景を次の図に示す。今年度からは、寄附講座として開講された。

【副専攻必修科目】

「おかやまを学ぶ」

「おかやま」の理解を深め、その魅力を学ぶとともに、地域課題を学び、地域志向への意識を持つ。

◆1年次生/第2クォーター・共通教育必修科目(417名)

外部講師等により、地域の課題を学び、地域の魅力を知るオムニバス講義

【担当講師等】

第1回	岡山県総合政策局 増田真一氏	備前焼ミュージアム 臼井洋輔氏
第2回	一般財団法人 岡山経済研究所 宮前義充氏	岡山県産業労働部マーケティング推進室 川上信弘氏
第3回	丸五ゴム工業(株) 藤木達夫氏	津山信用金庫 松岡裕司氏
第4回	RSK山陽放送(株) 原 憲一氏	
第5回	公益財団法人特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会 園友道一氏	
第6回	(株)山陽新聞社編集局編集委員室 岡山一郎氏	
第7回	岡山電気軌道(株) 磯野省吾氏	岡山市都市整備局交通政策課公共交通係 湯浅聡文氏
	総社市政策調整課 内田和弘氏	交通政策課 平田啓介氏
第8回	本学地域共同研究機構客員准教授 小畑千晴	本学コーディネーター 笠木秀樹



「おかやまを学ぶ」の担当者と講義風景

(3) 「おかやまボランティア演習」

夏季休業期間を中心に実施した「おかやまボランティア演習」では、「おかやまを学ぶ」での学習を踏まえ、184名の学生が3日間の実習を行った。第1回目の授業では、地域活動に参加するための事前学習として、活動先ごとのグループでの顔合わせや諸注意、活動を通しての目標設定等のグループワークを実施した。その後、6月から12月までの期間に自分で選んだ団体等で実施した。活動内容は、子どもの活動見守り・遊びの環境づくり・学習支援や、地域イベント、自治会活動への参加などである。最終回に実施した事後学習では、活動をまとめ、発表した。学生は主体性を持って取り組み、地域活動や社会貢献の意義について実体験し、地域を理解することができた。また、活動後も、受け入れ先の活動に継続して参画する学生もみられ、体験的な学びから持続的な地域活動へと広がっている。次の図に実習概要と受け入れ先を示す。

【副専攻必修科目】

「おokayamaボランティア演習」

自らボランティア活動を行い、ボランティア活動や社会貢献の意義について理解を深める

◆1年次生/夏季休業期間・共通教育選択科目(184名)

実習概要	受け入れ先
<ul style="list-style-type: none"> ◇事前学習 オリエンテーション ◇実習3日間 グループごとの活動 ◇事後学習 振り返り・発表・まとめ 	NPO法人総社商店街筋の古民家を活用する会(総社市)/吉備路ボランティア観光ガイド協会(総社市)/公益社団法人岡山青年会議所(岡山市)/岡山県立倉敷商業高校、(倉敷市)/岡山県立総社高校(総社市)/片上地区支えあい実行委員会(備前市)/総社市服部地区社会福祉協議会(総社市)社会福祉法人恵神会(真庭市)/社会福祉法人笠岡市社会福祉協議会(笠岡市)/社会福祉法人真庭市社会福祉協議会(真庭市)他



「おokayamaボランティア演習」の概要と受け入れ先演習風景

(4) 「おokayamaボランティア論」

第3クォーター開講の「おokayamaボランティア論」は、岡山創生学の基礎科目であり、これから社会人となる大学生が市民としてのボランティア活動とは何かを考える、そのきっかけづくりの場となることを目指した。地域人材からの講義により、地域の実態や具体的な課題、課題解決のためにどのような形で市民が主体的に参画し、協働的な活動を行っているかを学び、自ら課題解決の方策を考え、参画する意義について理解を深めることを目的とした。次の図に「おokayamaボランティア論」の講義担当者と講義風景を示す。今年度からは、寄附講座として開講された。

【副専攻必修科目】

「おokayamaボランティア論」

これから社会人となる大学生が市民活動としてのボランティア活動とは何かを考える

◆1年次生/第3クォーター・共通教育必修科目(421名)

外部講師によるオムニバス講義によってアクティブラーニングを実施

【担当講師等】

- | | |
|-----------------------------|------------------------------------|
| 第1回 本学保健福祉学科 岩満賢次准教授 | |
| 第2回 NPO法人ハートアートリンク 田野智子氏 | NPO法人ロボット技術子ども育成協会 川野社一氏 |
| 医療法人創和会しげい病院 河原秀明氏 | |
| 第3回 認定NPO法人ハーモニーネット未来 宇野均恵氏 | 認定NPO法人おokayamaエネルギーの未来を考える会 廣本悦子氏 |
| 第4回 マルシン物流(株) 延原正浩氏 | タカヤ(株) 藤井逸平氏 |
| 第5回 レッドライスカンパニー(株) 難波友子氏 | (株)長崎鐵工所 長崎信行氏 |
| 第6回 総社市役所総合政策部 野村周弘氏 | |
| 第7回 総社市社会福祉協議会地域福祉課 石原寛大氏 | |
| 第8回 本学保健福祉学科 岩満賢次准教授 | |



「おokayamaボランティア論」の担当者と講義風景

(5) 「地域再生実践論」

第1クォーターに開講した「地域再生実践論」は、2年次生を対象とした講義科目であり、地域づくりの現状と課題を理解させるとともに、地域の活性化に向けた取り組みにより地域を創生する力を身につけさせ、地域活性化への関心を高め、課題に取り組む意欲を身につけることを目的とした。地域人材やCOC+事業協働機関である笠岡市、備前市、真庭市の3市から講師を招聘し、実践活動の紹介、課題解決の困難さ等を学び、学生は、地域の現状を認識するとともに、自分たちがどのように課題に取り組んでいけばいいのかを考えることができるようになった。8回の担当者、及び講義風景を次の図に示す。今年度からは、一部、寄附講座として開講された。

【副専攻必修科目】

「地域再生実践論」

地域の抱える問題やグローバル化に対応した地域活性化や新事業創生の在り方について学ぶ

◆2年次生/第1クォーター・共通教育選択科目(131名)

外部講師により地域の課題を学ぶとともに、協働へのアプローチを学ぶオムニバス講義

【担当講師等】

- | | | |
|-----|-------------------------|---------------------|
| 第1回 | 本学地域共同研究機構客員准教授 小畑千晴 | |
| 第2回 | 岡山大学地域総合研究センター准教授 山田一隆氏 | |
| 第3回 | NPO法人英田上山棚田団 水柿大地氏 | 備前市総務部財政課 川崎 誠氏 |
| 第4回 | 鶴田石材(株) 鶴田康範氏 | 田中実業(株) 田中康信代氏 |
| 第5回 | (株)アールケア 山根一人氏 | (株)大和エス・イー・シー 甲斐國平氏 |
| 第6回 | 真庭市林業・バイオマス産業課 田村奨太氏 | |
| 第7回 | 元 鳥おこし海援隊(笠岡市) 重見圭一氏 | |
| 第8回 | 本学地域共同研究機構客員准教授 小畑千晴 | |



「地域再生実践論」の概要と講義風景

(6) 「地域協働演習」

第2クォーターから夏季休業期間を中心に実施した「地域協働演習」は、2年次生を対象とした演習科目であり、地域課題を認識、発見し、解決への方策を考えるとともに、地域課題解決に向け、他者との協働の有効性、重要性、必要性を理解し、学部・学科の専門性が、どのように地域社会に貢献できるかを考えることを目標とした。53名の学生が10日間の実習を行った。第1回の授業では、地域活動に参加するための事前学習として、活動先ごとのグループでの顔合わせや諸注意、活動を通しての目標設定等のグループワークを実施した。その後、7月6日から9月20日までの期間に実施した。活動内容は、地域の課題の掘り出し、課題解決の企画立案、実施等である。最終回に実施した事後学習で、学生は地域の人々の温かい心に触れ、その人々に寄り添うことの大切さなど多くのことを学んだなどと体験を発表した。その後も、地域のイベントや報告会等に参加し、地域との関りを深めていっている。実習のテーマ及び受け入れ先、実習風景を次の図に示す。

【副専攻必修科目】

「地域協働演習」

地域をフィールドに、地域課題を見つけ、それを解決する実践力を身につける

◆2年次生/通年・共通教育選択科目(53名)

実習概要

テーマ・受け入れ先

- ◇事前学習
オリエンテーション
- ◇実習7日間
グループごとの活動
- ◇事後学習
振り返り・発表・まとめ

- 「英語を学び、英語で遊ぶ、こどもたちと創ろう」英PLAYキッズ夏祭り” 英PLAY(総社市)
- 「こども造形ひろば」そうじゃ(ぼっけえ造形の会(総社市)
- 「地域住民の情報を基にした商店街通りを活気づける方法の提示」NPO法人総社商店街筋の古民家を活用する会(総社市)
- 「生活体験を通じた地域の魅力理解と実践および提案」六島まちづくり協議会(笠岡市)
- 「移住政策を進めるために」片上地区支えあい実行委員会(備前市)
- 「木山HOLY TRAIL Project」木山郷土保存会(真庭市)



「地域協働演習」の受け入れ先と演習風景

(7) 「地域インターンシップ」

夏季休業期間を中心に実施した「地域インターンシップ」は、3年次生を対象に本年度新設された演習科目であり、4週間、自治体でインターンシップ(就業体験)を行うものがある。アルバイトとは異なる「働く(就業体験)」を通して、職場の雰囲気、社会の基本的なルールやマナーに触れ、自分自身の将来の職業に関する意識を形成することを目的としている。12名の学生が、岡山県、岡山市、総社市、笠岡市、赤磐市において実施した。事後学習では、体験を振り返り、活動報告を発表した。受入先、実習風景等を次の図に示す。



【副専攻必須科目】

「地域インターンシップ」

連携自治体で就業体験、地域の持続的発展を考える

◆3年次生/通年・共通教育選択科目(12名)

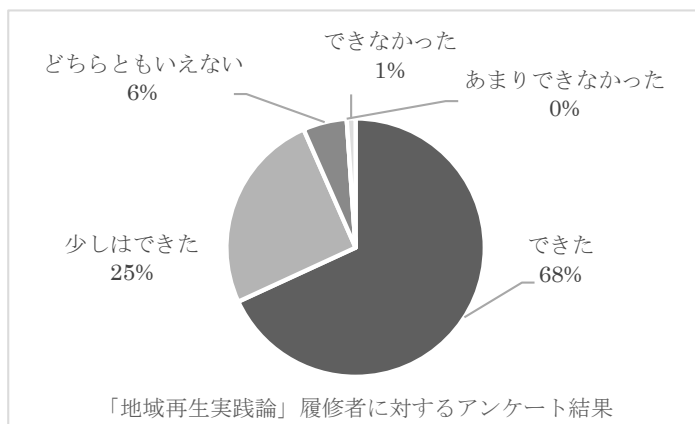
実習概要	テーマ・受け入れ先
◇事前学習 オリエンテーション	<input type="checkbox"/> 事前指導 令和元年4月26日(金)・6月21日(金) <input type="checkbox"/> マナー講座 令和元年7月5日(金) <input type="checkbox"/> インターンシップ
◇実習21日間 インターンシップ	岡山県 3名 令和元年8月13日～10月6日(21日) 岡山市 1名 令和元年8月1日～9月13日(21日) 総社市 5名 令和元年8月1日～11月10日(21日) 笠岡市 1名 令和元年7月8日～11月7日(21日) 赤磐市 1名 令和元年7月4日～9月9日(21日)
◇報告会	<input type="checkbox"/> 報告会 令和元年11月14日(木)3・4時限

「地域インターンシップ」の受け入れ先と演習風景

(8) アンケート結果

「地域再生実践論」でアンケートを実施した。その問いのうち、「地域社会には、様々な問題が潜んでいることについて視野を広げることができたか」に関する問いへの回答結果を右図に示す。アンケート結果によれば、「少しはできた」を含めると、90%を越える多くの学生が、肯定的な態度を表明している。「できた」という回答だけをみても、昨年の48.8%から67.4%へと過半数以上に増加し、「あまりできなかった」を含めできなかったという否定的な態度を表明した学生はほとんどない。このように授業を通して、地域課題についての興味、関心が高い傾向を示しており、取り組む姿勢が顕著に表れているといえる。



(9) 地域創生推進士

「おかやま」への深い理解と熱い情熱を持ち、「おかやま」の創生に貢献したいという強い意思を持った学生に授与する称号で、副専攻「岡山創生学」の必要単位を取得し、おかやまCOC+シンポジウム、OPUフォーラム等の公開イベントにおいて発表を行うことを授与の要件としている。

令和2年3月2日に認定証の授与式を実施し、地域創生推進士27名(保健福祉学部:17名、情報工学部:8名、デザイン学部:2名)が誕生した。



認定証の授与



集合写真

2. 1-3 「域学連携」に関する活動

本事業の三つの柱の一つである「域学連携」活動の一環として、学生の地域志向教育の場、また、産学官民の地域活動の場として、連携自治体に設置された「地域創生コモンズ」を拠点として、COC+参加大学、自治体、NPO 等と連携して、域学連携活動を実施した。

2. 1-3-1 地域創生コモンズ

「地域創生コモンズ」は、参加大学や自治体、NPO 等の事業協働機関が連携して、活動する拠点となるものである。さらに、地域課題の掘り起こしや解決策に対して、「岡山創生学」の地域実践科目である「地域協働演習(2.1-2(6)参照)」との連携も図りながら学生の参加を促し、地域を志向した教育を推進するための拠点としての機能も持つ。

本事業では、事業協働機関であり、本学と連携協定を締結している総社市、笠岡市、備前市、真庭市、赤磐市(平成30年～)、岡山市(平成30年～)に設置した。協働の場である「地域創生コモンズ」の施設等のハード面の提供及び運営は自治体が行い、日常的に地域の様々なセクターの方々との対話の場としての機能も持つ。

- ◎地域創生コモンズ まいこわ
【開所】平成28年4月25日(月)
【場所】真庭市勝山振興局内(真庭市勝山53-1)
【担当】真庭市勝山振興局地域振興課
※平成30年8月～ 真庭市立中央図書館に分室を設置

- ◎地域創生コモンズ そうじゃ
【開所】平成28年10月14日(金)
【場所】総社市清音福祉センター内(総社市清音軽部1135)
【担当】総社市総合政策部政策調整課

- ◎地域創生コモンズ びぜん
【開所】平成28年11月9日(水)
【場所】備前市日生総合支所内(備前市日生町日生630)
【担当】備前市総合政策部企画課
※平成29年12月～ 日生地域公民館から移転

- ◎地域創生コモンズ かさおか
【開所】平成29年3月18日(土)
【場所】笠岡諸島交流センター内(笠岡市笠岡2435-2)
【担当】笠岡市政策部企画政策課

- ◎地域創生コモンズ あかいわ
【開所】平成30年7月31日(火)
【場所】赤磐市熊山支所内(赤磐市松木623)
【担当】赤磐市総合政策部秘書企画課

- ◎地域創生コモンズ おかやま
【開所】平成30年9月20日(木)
【場所】さんかく岡山(岡山市男女参画社会推進センター)内(岡山市北区表町3丁目14-1)
【担当】岡山市政策局政策企画課

2. 1-3-2 自治体等との協働事業

(1) 「コミュニティキャンパスおかやま」

地域と大学の連携事業の一環として、拠点である「地域創生コモンズ」等で、一般的な教員の講演だけでなく、学生も参加し、地域住民との関わりをもった講座を実施した。学生にとっては学外でのコミュニケーションを育む機会となり、充実した学びを得ることができた。また、実技を含む講座も設計したことで、参加した地域住民に対して、より有意義なプログラムを提供することができた。さらに、本学だけではなくCOC+参加大学からも講師派遣を行い、参加大学との連携も深められた。

実施概要は以下の通りである。(教員の肩書は、開催日時点のもの)

① コミュニティキャンパスおかやま：親子で学ぶプログラミング教室

日 時:令和元年8月3日(土) 12:30～16:30 (受付12:00～)

場 所:岡山県立大学 情報工学部棟2階

担 当:岡山県立大学 情報工学部 坂口浩一郎 助教、荒井剛 助教、小椋清孝 助教、高林健人 助教、滝本裕則 准教授

連 携:総社市総合政策部 政策調整課

参加者:総社市民 43 名

参加学生:岡山県立大学 情報工学部 情報通信工学科 4 名

概 要:ビジュアルプログラミング言語である「Scratch」を使って、親子で簡単なゲームプログラミングを学習した。



コンピュータ演習室で学習しました！



熱心にゲームプログラミングに取り組む親子

② コミュニティキャンパスおかやま：子どもとともに楽しむ外国語教育

日 時:令和元年8月20日(火) 9:30～11:30

場 所:総社市中央公民館

担 当:吉備国際大学 外国語学部 池上真由美 教授

連 携:総社市教育委員会

参加者:総社市民 10 名

概 要:児童生徒とともに楽しみながら英語教育に取り組むために、学校現場で役立つ学習活動や指導方法を紹介した。



学校現場で活かせる教材について学ぶ

③ コミュニティキャンパスおかやま：“歩得”健康商品券 健康講座①

日 時:令和元年9月11日(水) 7:00～8:00

場 所:総社市役所周辺(3km ウォーキングコース)

担 当:岡山県立大学 情報工学部 綾部誠也 教授

連 携:総社市保健福祉部 健康医療課 健康増進係

参加者:総社市民 20 名

概 要:総社市内中心部に設置された3km ウォーキングコースにて、健康づくりのための最適な歩き方を指導した。

④ コミュニティキャンパスおかやま：歩得・食得 元気なからだ教室（調理実習編）

日 時:令和元年9月12日(木) 9:30～13:00

場 所:岡山県立大学 調理実習室

担 当:岡山県立大学 保健福祉学部 平松智子 准教授

連 携:総社市保健福祉部 健康医療課 健康増進係

参加者:総社市民 36 名

参加学生:岡山県立大学 保健福祉学部 栄養学科 8 名

概 要:「簡単」、「時短」を目標に「秋の食材を使ったレシピ」と題して家庭でできる糖尿病予防のための調理実習を行った。



調理実習の内容を説明する学生



各グループに学生も参加し、楽しく調理しました！

⑤ コミュニティキャンパスおかやま：おもしろたのしい科学実験

日 時: 令和元年9月21日(土) 10:00~12:00

場 所: 備前市市民センター

担 当: 岡山理科大学 科学ボランティアセンター 高見寿 氏

連 携: 備前市中央公民館

参加者: 備前市民 12 名

概 要: 身近な素材でできる「くるくる風車」や思考力が試される「ワンカット折り紙」の工作教室を実施した。



工作の説明を聞く参加親子たち



くるくる風車を作る参加児童

⑥ コミュニティキャンパスおかやま：歩得・食得 元気なからだ教室（運動編）

日 時: 令和元年10月24日(木) 10:00~11:30

場 所: 岡山県立大学 体育館

担 当: 岡山県立大学 情報工学部 綾部誠也 教授

連 携: 総社市保健福祉部 健康医療課 健康増進係

参加者: 総社市民 36 名

参加学生: 岡山県立大学 保健福祉学部 栄養学科 4 名

概 要: 食習慣改善を主たる目的とする事業であり、その効果をさらに確実なものにするための運動についての講話・実技指導を実施した。



運動の必要性について説明を聞く参加者



歩行速度など実技指導を受ける参加者

⑦ コミュニティキャンパスおかやま：備前市こども応援フェスタへの協力

日 時: 令和元年11月9日(土) 10:30~14:00

場 所: 備前市総合運動公園内体育館

担 当: 岡山県立大学 保健福祉学部 柏まり 教授

連 携: 備前市保健福祉部 子育て支援課

参加者: 備前市民 100 名

参加学生: 岡山県立大学 保健福祉学部 保健福祉学科 8 名

概 要: 未就学児を対象に「新聞紙プール」、就学児を対象に「大型オセロ」を出展し、多くの子どもたちが参加した。



多くの子どもたちが新聞紙プールで楽しみました！



大型オセロで大学生にチャレンジ！

⑧ コミュニティキャンパスおかやま：笠岡市健康まつり in かさおかへの協力

日 時:令和元年11月10日(日) 12:30~15:30

場 所:笠岡市保健センター

担 当:岡山県立大学 情報工学部 綾部誠也 教授

連 携:笠岡市健康福祉部 健康推進課

参加者:笠岡市民 180名

概 要:身体の骨の測定を分担し、多くの来場者に対して、骨の健康に対する市民の高い関心に応えた。



健康まつり in かさおかのPRチラシ



骨密度測定には多くの方が来場されました！

⑨ コミュニティキャンパスおかやま：“歩得”健康商品券健康講座②

日 時:令和元年11月18日(月) 9:00~11:00

場 所:サンロード吉備路周辺5kmウォーキングコース

担 当:岡山県立大学 情報工学部 綾部誠也 教授

連 携:総社市保健福祉部 健康医療課 健康増進係

参加者:総社市民 22名

参加学生:岡山県立大学 情報工学部 人間情報工学科 4名

概 要:サンロード吉備路から五重塔などの市内名所を巡る5kmコースを、フォームや疲労度を確認しながら歩いた。



早朝からみんなでウォーキング！

⑩ コミュニティキャンパスおかやま：誰でも楽しく学べるバイオリン体験教室

日 時:令和元年11月18日(月) 10:00~11:30

場 所:真庭市立中和小学校

担 当:岡山県立大学 保健福祉学部 安久津太一 教授

協 力:就実大学

連 携:真庭市生活環境部 スポーツ・文化振興課

参加者:真庭市民 30名

概 要:バイオリンを触るのが初めての中、グループで練習し、教えあいながら、最終的にはみんなで演奏を合わせた。



みんなで音出しの練習中！



最後に記念撮影を

⑪ コミュニティキャンパスおかやま：タウンミーティング in 真庭市別所地区

日 時:令和元年12月1日(日) 10:00~11:30

場 所:くるみの館(真庭市別所)

担 当:岡山県立大学 保健福祉学部 岩満賢次 准教授

連 携: 真庭市総合政策部 交流定住推進課、落合振興局地域振興課

参加者: 真庭市民 23 名

参加学生: 岡山県立大学 デザイン学部 3 名

概 要: 人口問題についてや小学校跡地の廃校利用の事例などを紹介後、参加した学生らと地域住民の方とともに将来の別所地区の夢や現在の課題を考えるワークショップを実施した。



岩満准教授による講話



ワークショップのまとめを発表する学生

⑫ コミュニティキャンパスおかやま：手作りおもちゃ教室 in あかいわ

日 時: 令和元年 12 月 15 日(日) 14:00~16:00

場 所: 赤磐市熊山英国庭園

担 当: 岡山県立大学 保健福祉学部 山本孝司 教授

連 携: 赤磐市政策推進課

参加者: 児童 28 名(保護者含め 48 名)

参加学生: 岡山県立大学 保健福祉学部 2 名

概 要: 子どもたちを対象としたスライムづくりと凧づくりのワークショップを実施した。



スライムづくりの説明をする学生



みんなでスライムづくりにチャレンジ!

⑬ コミュニティキャンパスおかやま：手作りおもちゃ教室 in カブトガニ博物館

日 時: 令和 2 年 2 月 16 日(日) 10:00~11:30

場 所: 笠岡市カブトガニ博物館

担 当: 岡山県立大学 保健福祉学部 山本孝司 教授

連 携: 笠岡市カブトガニ博物館、大島おやじの会

参加者: 児童 16 名(保護者含め 28 名)

参加学生: 岡山県立大学大学院 保健福祉学研究科 2 名

概 要: 子どもたちを対象としたカブトガニ型の凧づくりのワークショップを実施した。



カブトガニの説明をする学芸員



子どもたちにつくり方を教える大学院生

(3) 自治体等との域学連携事業

① 真備町川辺復興プロジェクトあるく 子どもの居場所作り活動ボランティア

日 時:令和元年8月21日(水) 9:00~15:30

令和元年8月22日(木) 9:00~15:30

場 所:倉敷市真備公民館 川辺分館

担 当:COC推進室 域学分野担当コーディネーター 村井聡紀

連 携:真備町川辺復興プロジェクトあるく

参加者:21日)児童35名、22日)児童10名

参加学生:保健福祉学部2名、情報工学部2名、デザイン学部6名

概 要:21日の午前中は、真備児童館が主導のもと、手作りおもちゃ作りのサポートを行い、午後から合流された中央大学の学生とともに昼食をとりながら、児童と一緒に交流した後、中央大学が準備してきたレクリエーションを一緒に楽しんだ。22日は、学習支援として、夏休みの宿題を取り組んだ後、アルミホイルや新聞紙を使って、動物や昆虫などの模型を作る工作を実施した。



みんなでカレーを食べました



夢中でアルミホイルを使って工作をしました！

② 総社市健康インセンティブ事業 歩き方・健康講座

日 時:令和元年9月11日(水) 7:00~8:00 (コミュニティキャンパスおかやまとして実施)

令和元年11月18日(月) 9:00~11:00 (コミュニティキャンパスおかやまとして実施)

令和2年1月25日(木) 10:30~12:00

場 所:総社市役所3kmコース(9/11) / サンロード吉備路5kmコース(11/18) / 総社北公園

担 当:情報工学部 人間情報工学科 綾部誠也 教授

連 携:総社市保健福祉部 健康医療課 健康増進係

参加者:総社市民 20名(9/11)、22名(11/18)、18名(1/25)

概 要:総社市保健福祉部との連携事業として、歩得健康商品券事業の支援を行なった。本事業に参加する総社市民を対象に健康づくりのための歩行や歩数計の活用に関する実技指導を行なった。運動習慣形成を通じて医療費を抑制することにより総社市の財政適正化も期待されており、本学は運動指導のみならず、健診結果や医療費などの分析を行い、科学的根拠に基づく健康づくり施策の推進に貢献している。

③ 第4回総社芸術祭2019「総社の力」への協力

日 時:平成30年8月2日(木)~令和元年5月5日(日)

場 所:総社市総合文化センター(リサーチ、ミーティング、作品展示)、岡山県立大学(ミーティング、作品制作)

担 当:デザイン学部 造形デザイン学科 島田清徳 教授

連 携:総社市、総社芸術祭実行委員会、デザイン学部卒業生(大学院修了生)

参加者:約2,000名(会期:平成31年4月21日(日)~令和元年5月5日(日))

参加学生:デザイン学部 造形デザイン学科 8名

概 要:第4回総社芸術祭2019において、テキスタイル素材による野外造形作品を制作し、総社市総合文化センター・カミガツジプラザに設置した。大学院修了OG(リーダー)と有志学生8名により制作された作品9点は、古墳や温羅伝説、総社の豊かな自然・風景をモチーフとして、野外メインステージとその周辺に展示され、効果的な空間演出として、華やかにそして力強く総社芸術祭のムードを高めた。



企画会議



実行委員会へのプレゼンテーション



出品作品「温羅のあし」

④ 歩得・食得 元気なからだ教室

日 時: 令和元年7月1日(月) 9:00~11:00、
 令和元年7月26日(金) 10:00~11:30、
 令和元年8月29日(木) 10:00~11:30、
 令和元年9月12日(木) 9:30~13:00 (コミュニティキャンパスおかやまとして実施)
 令和元年10月24日(木) 10:00~11:30 (コミュニティキャンパスおかやまとして実施)
 令和元年11月21日(木) 10:00~11:30

場 所: 岡山県立大学 講義室(7/1、7/26、8/29、11/21)、調理実習室(9/12)、体育館(10/24)

担 当: 保健福祉学部 栄養学科 平松智子 准教授、情報工学部 人間情報工学科 綾部誠也 教授

連 携: 総社市保健福祉部 健康医療課 健康増進係

参加者: 総社市民 40名(7/1)、40名(7/26)、40名(8/29)、36名(9/12)、36名(10/24)、40名(11/21)

参加学生: 保健福祉学部 栄養学科 8名(7/1)、4名(7/26)、3名(8/29)、8名(9/12)、4名(10/24)、4名(11/21)

概 要: 糖尿病発症あるいは悪化防止を目的に総社市民を対象に食事療法に関する講話や調理実習、運動指導等を取り入れた糖尿病教室を行った。集団指導介入前のデータとして、空腹時血糖、脂質(TG/HDL-C/LDL-C)の測定のため採血を行い、また普段の食事摂取状況として食物摂取頻度調査(BDHQ)を実施した。



食事調査について参加者に説明



塩分とうまい付き合い方について学生がスライドで説明



糖尿病食事療法の実践としての調理実習



運動も大切な要素です

⑤ 要援護者避難行動検証調査

日 時: 平成31年4月24日(水) 13:30~16:30

場 所: 総社市下原公会堂

担 当: 保健福祉学部 保健福祉学科 佐藤ゆかり 准教授

連 携: 下原地区自治会・自主防災組織、総社市、総社市社会福祉協議会、消防庁、神戸大学、名古屋大学

概 要: 西日本豪雨発生時に、要援護者が全員無事に避難できた要因を分析し、今後の災害対策に資する基礎資料を収集することを目的とした。地元の自主防災組織と支援機関(総社市、総社市社会福祉協議会、消防庁、神戸大学、名古屋大学、岡山県立大学等の研究者)が一堂に会し、検証調査の方向性や内容について検討を行った。

⑥ 第2回 要援護者避難行動検証調査（中間報告会、聞き取り調査、住民との避難行動ワークショップ）

日 時:令和2年1月23日(木) 13:00~17:30

場 所:総社市下原公会堂

担 当:保健福祉学部 保健福祉学科 佐藤ゆかり 准教授

連 携:下原地区自治会・自主防災組織、総社市、総社市社会福祉協議会、消防庁、神戸大学、名古屋大学

参加者:総社市民 30名

参加学生:保健福祉学部 保健福祉学科 4名

概 要:要援護者避難行動検証調査の2回中間報告会とともに、構内総代への聞き取り調査、住民との避難行動ワークショップを開催した。地元の自主防災組織と支援機関(総社市、総社市社会福祉協議会、消防庁、神戸大学、名古屋大学、岡山県立大学等の研究者と学生)が実施した聞き取り調査をもとに、避難行動の分析結果を共有するとともに、今後の検討の方向性についてディスカッションを行った。



中間報告会を公聴



避難行動の分析結果の共有

⑦ 令和元年度県大メディカルフィットネス講座

日 時:令和元年9月26日(木)~令和2年2月20日(木) 10:00~11:30 (開催:16回)

場 所:岡山県立大学 体育館

担 当:情報工学部 人間情報工学科 綾部誠也 教授、齋藤誠二 准教授、大山剛史 助教

保健福祉学部 看護学科 住吉和子 教授

保健福祉学部 栄養学科 入江康至 教授、久保田恵 教授、井上里加子 助教

デザイン学部造形 デザイン学科 齋藤美恵子 准教授

連 携:総社市保健福祉部 健康医療課 健康増進係

参加者:総社市民 1152名(講座申込登録数:100名)

参加学生:延べ68名

概 要:平成28年度から始まり、昨年度末までに延べ2000名以上が参加し、メタボ改善を主とした効果をあげ、総社市の保健行政の発展に貢献する実績を上げてきた。本年度は、本学の重点領域研究の一つとして、生活習慣改善に伴う身体への応答・適応の評価と総社市の保健政策の充実を目的に開催した。



充実したプログラムに参加する受講者



食生活と骨の健康についてヒアリングする学生ら



みんなで運動プログラムに参加



多くの方が毎週参加しています

2. 1-4 「産学連携」に関する活動

本事業の三つの柱の一つである「産学連携」活動の一環として、産業振興活動、雇用マッチングシステムの運用、長期インターンシップ(エンジニアリング演習)の実施に取り組んだ。

2. 1-4-1 産業振興・人材育成

(1) 岡山県立大学協力会事業と連携

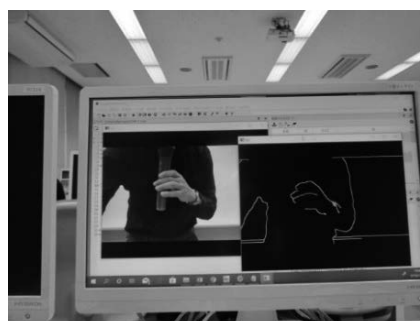
① ものづくりに関する技術講習会の開催

マイクロものづくり岡山の分野別研究会の一つである解析シミュレーションネット OKAYAMA 画像解析等グループと岡山県立大学協力会が、おかやまCOC+推進協議会と共催で、「画像解析に関する技術講習会」を開催した。

この講習会では、「OpenCV による画像処理入門」と題して、画像処理アプリケーションソフトウェアの開発を体験した。OpenCV(正式名称:Open Source Computer Vision Library)はオープンソースの画像処理用ライブラリで、コンピューターで画像や動画を処理するのに必要な種々の機能が実装されている。BSDライセンスで配布されていることから学術用途だけでなく商用目的でも利用できるという特徴を持つ。実施概要は下記の通りである。

【画像解析に関する技術講習会(基礎編)】

1. 日 時:令和元年11月30日(土)13:00~17:00
2. 場 所:岡山県立大学(8122室)
3. 参加者:19名
4. 講 師:小枝正直 准教授(大阪電気通信大学)
中村恭之 教授(和歌山大学)
山内 仁 准教授(岡山県立大学)
5. スケジュール
13:00~13:05 開会
13:05~16:30 OpenCV の紹介
WinPython と OpenCV を用いた画像処理(基礎編)
講師:小枝正直 准教授、中村恭之 教授、山内 仁 准教授
16:30~17:00 質疑応答



技術講習会風景

② 第1回業種説明会の開催

岡山県立大学協力会では、キャリア教育の一環として本学の全学年・全学部を対象とした第1回業種説明会を開催した。

2020年会社説明会は3月1日に開始されるが、今回の業種説明会は、就職活動が本格的にスタートする前に本学学生が地元企業の事業内容、事業展開等を直接企業担当者から聴取することにより、当該企業の魅力を直接感じるにより進路選択の一助となることを目的として開催した。

1. 日 時:令和元年 12月6日(金) 13:00~15:30
2. 場 所:岡山県立大学 2203・2204・8105・8203 講義室
3. 参加者:94名
4. スケジュール

- 13:00~13:15 開会挨拶
- 13:15~13:30 学生受付
- 13:30~14:00 第1回企業説明・質疑応答
- 14:00~14:30 第2回
- 14:30~15:00 第3回
- 15:00~15:30 第4回
- 15:30~16:00 質疑応答(希望学生)



開会あいさつ



学生受付



企業情報収集



会社説明



会社説明



会社説明

岡山県立大学協力会主催
全学部・全学年対象

業種説明会

2019.12.6(金)

開催時間
受付開始13時15分~
13時30分~16時

会場
学部共通棟(北)
1階:8105講義室
2階:8203講義室
情報工学部棟2階
2203・2204講義室
計4室で開催

参加企業など詳しい内容ははっちりに掲示しています。

事前申込み不要!
業界研究のチャンスです。
1~2年生の皆さんも奮って参加ください。

問合せ先
岡山県立大学協力会事務局(8204 産学官連携推進センター内)
Tel:0866-94-2205 Fax:0866-94-2206
e-mail: secretary_commu@oka-pu.ac.jp

参加企業一覧		
企業名(団体名)	業種	本社所在地
1 株式会社安田エンジニアリング	各種産業機械研究開発・製造	倉敷市
2 アサゴエ工業株式会社	金属製品製造	岡山市南区
3 株式会社アステア	自動車部品製造	総社市
4 井原精機株式会社	自動車部品製造	井原市
5 内山工業株式会社	自動車部品製造	岡山市中区
6 オージー技研株式会社	各種産業機械製造	岡山市中区
7 オカネット工業株式会社	農業機械開発・製造	岡山市東区
8 株式会社岡山情報処理センター	情報処理・ソフトウェア開発	岡山市北区
9 片山工業株式会社	輸送用機械器具製造	井原市
10 倉敷化工株式会社	ゴム製品製造	倉敷市
11 株式会社ケイエスビー	ソフトウェア開発	岡山市北区
12 ヌアテック株式会社	各種産業機械製造	総社市
13 ナノヤス電機株式会社	造形	大浜市北区
14 三徳機軸株式会社	各種産業機械製造	浅口郡東庄町
15 山陽電研株式会社	電気機械器具製造	岡山市中区
16 株式会社山陽マルナカ	スーパー・ストア	岡山市南区
17 株式会社システムエンタープライズ	ソフトウェア開発	岡山市北区
18 株式会社システムズナカシマ	ソフトウェア開発	岡山市東区
19 株式会社システムタイズ	情報サービス・ソフトウェア開発	岡山市北区
20 シャーパタカ電子工業株式会社	電子部品製造(半導体)	浅口郡東庄町
21 セリオ株式会社	ソフトウェア開発	岡山市中区
22 タカヤ株式会社	電気機械製造	井原市井原町
23 株式会社トスコ	ソフトウェア開発	岡山市南区
24 株式会社トライエス	ソフトウェア開発	岡山市北区
25 株式会社トンプ	ユニフォーム製造	岡山市北区
26 株式会社ナテック	各種産業機械製造	倉敷市
27 株式会社N.I.C.S	ソフトウェア開発	倉敷市
28 阪屋工業株式会社	金属製機械器具製造・販売	倉敷市
29 ビーブルソフトウェア株式会社	ソフトウェア開発	倉敷市
30 ビヨシステム株式会社	ソフトウェア開発	岡山市南区
31 株式会社ビザビ	広告・出版・人材サービス	岡山市北区
32 ヒルタ工業株式会社	部品製造	小田市
33 富士ベークライト株式会社	プラスチック製品製造	白田郡矢野町
34 株式会社ベネッセインフォシエル	情報処理・ソフトウェア開発	岡山市北区
35 丸五ゴム工業株式会社	自動車部品製造	倉敷市
36 みのる産業株式会社	農業機械開発・製造	井原市
37 ヌアシステム機器株式会社	各種産業機械製造	岡山市北区
38 株式会社岡備システムズ	情報サービス	岡山市南区

③ 岡山県立大学協力会ガイドブック作成

平成 30 年 4 月に岡山県立大学協力会が設立され、会員企業の魅力を教員・在学生及び父兄に PR するため「岡山県立大学協力会企業ガイド」を作成した。(発行部数 1,200 部)



総合索引（会員一覧）			
※2019.9.30現在 50頁載			
正会員			
ページ	ページ	ページ	ページ
1	株式会社英田エンジニアリング	25	シャースタカヤ電子工業株式会社
2	アサゴエ工業株式会社	26	セリオ株式会社
3	株式会社アステア	27	タカヤ株式会社
4	板野機工株式会社	28	タツモ株式会社
5	井原精機株式会社	29	株式会社トスコ
6	株式会社魚宗フーズ	30	株式会社トリエス
7	内山工業株式会社	31	株式会社トンボ
8	オーエム機器株式会社	32	株式会社ナイカエアークット
9	オーエム産業株式会社	33	株式会社ナテック
10	オーゾー技研株式会社	34	株式会社NICS
11	オカネット工業株式会社	35	藤原工業株式会社
12	株式会社岡山情報処理センター	36	ピースソフトウェア株式会社
13	片山工業株式会社	37	ピコシステム株式会社
14	昌徳化工株式会社	38	株式会社ビザビ
15	株式会社ケイエスピー	39	ヒルタ工業株式会社
16	コアテック株式会社	40	富士ベークライト株式会社
17	興南設計株式会社	41	株式会社ベネッセインフォシエル
18	サノヤス造船株式会社	42	丸五ゴム工業株式会社
19	三陽機器株式会社	43	みのる産業株式会社
20	山陽電研株式会社	44	ユアリ工機株式会社
21	株式会社山陽マルナカ	45	ユアシステム機器株式会社
22	株式会社システムエントースライス	46	株式会社両編システムズ
23	株式会社システムズナカシマ	47	両編ホールディングス株式会社
24	株式会社システムタイズ	48	ローム・ワコー株式会社
賛助会員			
ページ			
49	岡山県 岡山県経済団体連絡協議会 公益財団法人 岡山県産業振興財団 岡山県商工会連合会 一般社団法人 岡山工業会 一般社団法人 システムエンジニアリング岡山 総社市		

④ 第1回研究交流会の開催

岡山県立大学協力会の主催で食品メーカー2社を大学に招き、各社の研究開発体制および開発している新製品開発等の説明を受けた。各企業からは、直接開発に携わっている研究者から具体的事例を含め説明があり、参加者からは熱心な質疑応答がなされた。

また、本学の保健福祉学部栄養学科研究室の研究内容等の紹介がなされた。

1. 日時: 令和元年 11 月 18 日(月) 15:00~17:00
2. 場所: 岡山県立大学 学部共通棟 8901 室
3. 参加企業: オハヨー乳業(株) 備前化成(株)
4. 参加者: 37 名(内学生 20 名)

岡山県立大学協力会主催

第1回 **研究交流会**

2019年11月18日(月) 15:00~17:00
岡山県立大学 学部共通棟東 8901室

1. 岡山県内企業による研究・会社説明
 - オハヨー乳業株式会社
 - 備前化成株式会社
2. 栄養学科研究室紹介
 - 田中晃一研究室
 - 山本登志子研究室
3. 意見交換会

学生参加大歓迎!!

意見交換会では、学生さんからの積極的な質問や意見を歓迎します。

お問い合わせ 保健福祉学部 栄養学科 山本 登志子



オハヨー乳業(株)



備前化成(株)



田中教授研究室



山本教授研究室



意見交換

⑤ 第40回岡山新材料技術融合フォーラムの開催

岡山新材料技術融合フォーラム主催で開催されたセミナーに岡山県立大学協力が後援として協力した。

セミナーでは、めっき業界の新規表面処理技術開発で活躍されているオーエム産業(株)及びIH(誘導加熱)のパイオニアである高周波熱錬(株)のエンジニアの方から新技術開発等に向けた試行錯誤の貴重な講演を頂いた。

また、本学情報工学部人間情報工学科教授より、ゆらぎを利用した青色光による目の疲労を軽減する方法や無疲労 LED 照明を野菜工業に活用すると植物の成長が良くなることについて説明を行った。

1. 日時: 令和元年 10 月 17 日 (木) 14:00~16:30
2. 場所: 岡山国際交流センターB1F レセプションホール
3. 参加者: 34 名
4. 話題提供
 - ・「難めっき材料へのダイレクトめっき技術」 オーエム産業(株)
 - ・「高周波焼入れのコンピューター・シミュレーション」 高周波熱錬(株)
 - ・「無疲労 LED 照明の仕組みと応用」 岡山県立大学情報工学部人間情報工学科



会長開会挨拶



オーエム産業(株)



高周波熱錬(株)



岡山県立大学人間情報工学科

2. 1-4-2 長期インターンシップ

事業協働機関が連携し、地域を志向する人材の輩出とその受け皿づくりを行うことを目的とした取り組みの一つとして、平成 30 年度に長期インターンシップ(地域インターンシップ、エンジニアリング演習)を実施した。「地域インターンシップ」は、3 年次の共通教育科目として開講し、「エンジニアリング演習」は、3 年次の専門科目として、情報工学部を中心として開講した。長期インターンシップは、4 週間の期間で実施しており、業種や職種選択時におけるミスマッチの回避、社会人基礎力に関する自己レベルの把握等、キャリア教

「長期インターンシップ」

1カ月にわたる、地域+産官学協働キャリア教育

背景		これまでのインターンシップとは一線を画す	
キャリア教育支援と就職支援が分断 受け入れ先は提供のみ（社会貢献活動）		キャリア教育支援と就職支援を一貫して、 受け入れ先・学生・大学がWin-Win-Winの関係に	
副専攻「岡山創性学」講義科目			
「おかやまボランティア演習」 「地域協働演習」		専門科目	
「地域インターンシップ」		「エンジニアリング演習」	
1week	2week	3week	4week
オリエンテーション	まちづくり・人づくり 【企業戦略】 【企画政策部】 【子ども未来部】 子育て支援 困窮家庭対策	観光施設整備 【環境部】 【観光宣伝部】 【商工観光部】 【都市整備部】 【都市整備部】 公園緑地整備 街なみ整備	評価振り返り 政策提言
オリエンテーション	製品イメージ策定 マーケティング 【企画部】 【営業部】	〇〇向けサポートの開発 【開発部】 【設計部】 事前評価 【製造部】 【製作部】 材料調達	品質評価 性能評価 品質管理部 評価振り返り 成果報告

◇参加表明企業:34社 ◇企業訪問:270社

「エンジニアリング演習」に関する受け入れ企業の開拓活動としては、県内経済団体加盟企業、一般社団法人システムエンジニアリング岡山加盟企業等を対象とした訪問依頼を実施した。その結果、34社が受入を表明し、その内12社で8月～9月の期間、16名の学生が実習を行った。また、「地域インターンシップ」については、12名の学生が、岡山県、総社市、笠岡市、赤磐市で実習を行った。（「地域インターンシップ」の詳細は2.1-2-(7)を参照）

【エンジニアリング演習】

実習学生:16名(情報工学部 情報通信学科2名・情報システム工学科3名・人間情報工学科11名)

実習期間:令和元年8月19日(月)～9月20日(金)

派遣先企業一覧

企業名	所在地
(株)アステア	総社市真壁 1597
(有)アクセス	倉敷市老松町 4-8-20
(株)イタミアート	岡山市南区新保 660-15
内山工業(株)	岡山市中区小橋町 2-1-10
オージー技研(株)	岡山市中区海吉 1835-7 (瀬戸内市邑久町向山 77)
岡山ネットワーク(株)	岡山市北区新屋敷町 1-1-18
興南設計(株)	倉敷市粒江 20-36
(株)システムズナカシマ	岡山市北区中島田町 2-3-19
(株)トンボ	岡山市北区厚生町 2-2-9 (玉野市八浜町大崎 1212)
ヒルタ工業(株)	笠岡市茂平 1410 (総社市久代 2211-5)
松芝エンジニアリング(株)	岡山市北区幸町 8-29 三井生命岡山ビル 3F
タカヤ(株)	井原市井原町 661-1 (井原市下出部町 2-20-5)

2. 1-4-3 雇用マッチングシステム

(1) 概要

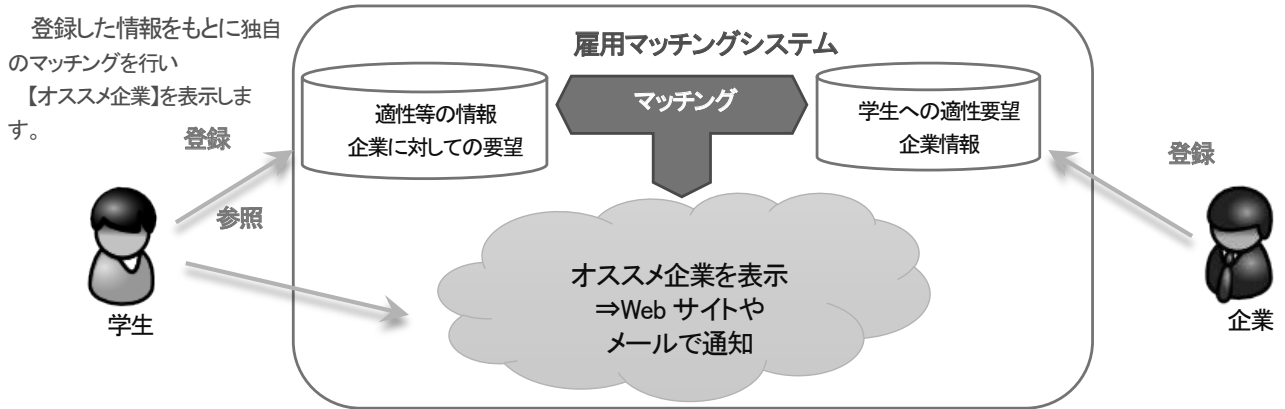
開発した「雇用マッチングシステム」は、従来の業種、勤務地などの情報のみによるマッチングではなく、

- I. 企業が求める人材イメージと学生の能力やキャリアの間のマッチング
- II. 学生が求める企業イメージと企業の理念や職場環境などの企業情報の間のマッチング

を行い、それらを総合して、マッチングの度合いが高い順に並べた企業リストを提示するシステムである。

I. においては、社会人基礎力と学力に関する39の項目について、学生の能力に対する客観的評価結果と企業が望む結果とのマッチングを取る。II. においては、初任給、勤務地などの他、理念、社風など37項目についてマッチングを取る。ここでは、学生が求める企業イメージを文章等で記述し、自然言語処理を用いてマッチングを取る。マッチングに利用する項目については、企業側で指定可能としている。平成30年6月より本格稼働しており、アクセス件数(利用件数)は現在1,009件となっている。(令和2年1月末現在)

■ 雇用マッチングシステムのイメージ ■



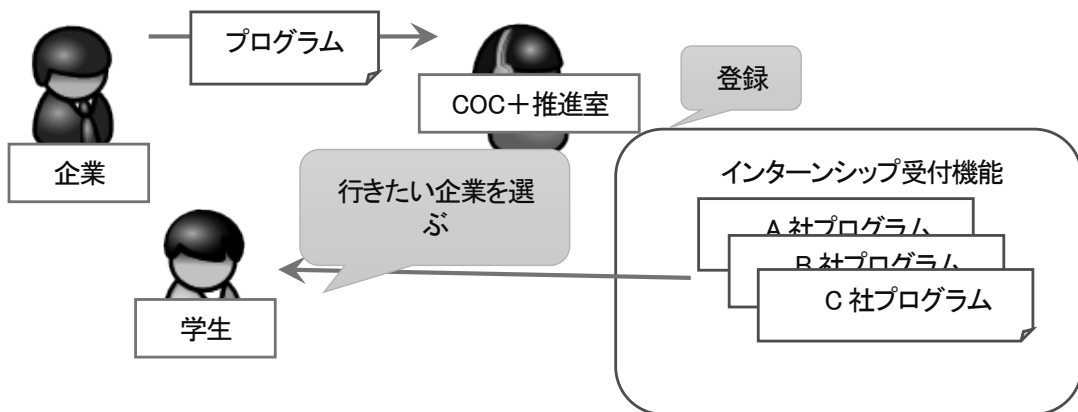
(2) 登録企業の状況

本学は、情報工学部・デザイン学部・保健福祉学部の3学部で構成されている。平成28年度より企業登録及びシステム開発を進めてきたが、特に情報工学部の学生にターゲットを当てて登録企業の勧奨を進めてきた経緯がある。したがって、製造業(ものづくり企業)の登録が中心となっている。登録企業数は現在87社で、業種は、製造業(自動車部品製造・電子部品製造・繊維製品製造・食品製造等)・情報サービス業(情報処理・システム開発等)・総合建設業・小売業(スーパー)・銀行業・マスコミ・旅館業と多岐にわたっているが、製造業・情報サービス業が全体の約8割を占めている。

(3) 利用促進の取組

インターンシップ希望学生が雇用マッチングシステムを活用することで、登録された対象企業のインターンシッププログラムを閲覧できるようになり、企業選択に有効活用できるようになった。

このことにより、雇用マッチングシステムの利用促進が図られてきた。



事業所名称	井原精機(株)
受入の可否	可
次年度以降の受入の可否	未定
受入可能人数	4人まで
受入可能学年	3年生以上
事業所所在地	〒719-0000 岡山県〇〇〇〇〇〇〇〇
実習予定地	〒719-0000 岡山県□□□□□□□□
受入可能期間	〇月〇日(月)~〇月〇日(金) 〇日間
就業時間	〇〇:〇〇~〇〇:〇〇 〇〇時間 総時間数 〇〇時間
実施プログラム	実施プログラム
1日目	〇月〇日(月) 内容は□□□□□□□□
2日目	〇月〇日(月) 内容は□□□□□□□□
3日目	〇月〇日(月) 内容は□□□□□□□□
4日目	〇月〇日(月) 内容は□□□□□□□□
5日目	〇月〇日(月) 内容は□□□□□□□□

2. 1-5 シンポジウムの開催

(1) おかやまCOC+シンポジウム2020の開催

今回のシンポジウムは、昨年度から引き続き「地域創生推進士が創るシンポジウム」と題して、「地域創生推進士」の候補となる学生が、計画段階から参画して、全体の統括や当日の総司会、パネリスト、コーディネーター等も務めるものであり、その内容は以下のとおりであった。

□日 時:令和2年2月17日(月) 13:30~17:00

□場 所:ホテルメルパルク岡山 1階「泰平」

□参加者:201名(大学21名、高等学校3名、自治体17名、企業21名、その他8名、
本学教職員100名、地域創生推進士候補学生等31名)

□概 要

・開催挨拶 沖 陽子(おかやまCOC+推進協議会委員長)
伊原木 隆太(岡山県知事)

・おかやまCOC+の総括説明
説明者:沖 陽子(おかやまCOC+推進協議会委員長)

・パネルディスカッション

テーマ:「おかやまCOC+のこれまでとこれから」

パネリスト:仁子 将大(地域創生推進士候補・岡山県立大学3年)

太田 圭祐(地域創生推進士・岡山県立大学4年)

本原 琢己(岡山理科大学4年)

井上 勇一(就実大学4年)

根石 憲司(岡山県総務学事課 課長)

野村 周弘(総社市総合政策部 部長)

高橋 邦彰(岡山県商工会議所連合会 専務理事)

コメンテーター:香西 健次(文部科学省地域学習推進課 課長補佐)

中田 晃(一般社団法人公立大学協会 常務理事)

コーディネーター:高橋 似奈、石田 朋也(地域創生推進士候補・岡山県立大学3年)



総括説明風景



パネルディスカッション風景

・ポスター発表

「若者が集まる場の創造ラボ」

岡山理科大学 本原 琢己、工藤 遥、濱田 竣太、和泉 颯汰

「高梁市吹屋ふるさと村の観光振興の課題」

就実大学 井上 勇一、于雅 馨、遠藤 彰人、木下 祐一郎、大下 勝真、和田 佳奈子、小林 浩之、元濱 勝貴

「地域協働演習 移住政策を進めるために」

岡山県立大学 高原 明日香、矢野 智美

「私たちがめざす 地域創生推進士」

岡山県立大学 伊加 汐音、島田 遥、西岡 奈津、服部 未歩、

「インターンシップを経て～自治体と企業の連携～」

岡山県立大学 石田 朋也、神原 充、陶山 朋佳、田口 晃佑、遠藤 祐貴

「岡山の企業を知る エンジニアリング演習」

岡山県立大学 安藤 未来、中川 千怜、村上 源、山田 美裕宇

「チームガバナビリティ演習で学んだ多職種連携」

岡山県立大学 森 はるか、池上 桃加、柳澤 千尋、村上 幸美

「自立を配慮した地域保健福祉演習」

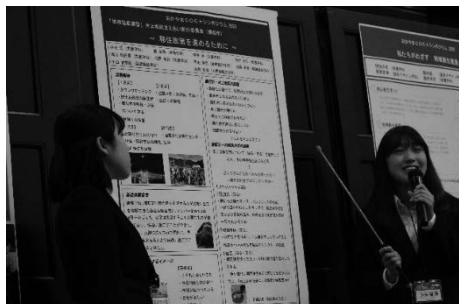
岡山県立大学 神田 えみり、佐野 悠花、伊勢 菜摘、桐山 舞

「地域における管理栄養士の役割」

岡山県立大学 木山 夏乃、早川 千怜、椋代 萌絵

「専門分野を活かした地域創生推進士を目指して」

岡山県立大学 高橋 似奈、仁子 将大、藤原 瑠真美、藤森 裕大



ポスター発表風景

・閉会挨拶 末岡 浩治(おかやまCOC+推進協議会 副委員長)

・情報交換会(17:00～18:00、3階「錦」にて開催)

参加者:68名(学外14名、学内54名)

□学生の役割分担

役割	氏名
全体統括	神原 充
統括補佐	早川 智紗
舞台転換	安藤 未来、中川 千怜、村上 源、山田 美裕宇、遠藤 祐貴
総司会	藤森 裕大、陶山 朋佳
パネリスト	仁子 将大
コーディネーター	高橋 似奈、石田 朋也
パネルディスカッション時計係	伊加 汐音、服部 未歩
ポスター発表進行	田口 晃佑、木山 夏乃
受付	村上 幸美、森 はるか、池上 桃加、柳澤 千尋、椋代 萌絵
案内	佐野 悠花、伊勢 菜摘、神田 えみり、桐山 舞、藤原 瑠真美
情報交換会進行	島田 遥、西岡 奈津



受付風景



集合写真

□準備状況

学生ミーティングを3回開催した。

- ・令和元年11月14日(木)16:00～ 学部共通棟北 8203
- ・令和元年12月11日(木)16:00～ 学部共通棟北 8203
- ・令和2年2月14日(金)16:00～ 学部共通棟南 8210

2. 2 地域への貢献

2. 2-1 公開講座

(1) 概要

本学では毎年、県民を対象とした公開講座を開催している。本年度の公開講座では、共通教育部が初めて担当し、「テキストの中の〈世界〉」をテーマに、2日間2講座を実施した。

(2) 日程等

テ ー マ：テキストの中の〈世界〉

担 当 学 部：共通教育部

受 講 対 象：県内居住者、あるいは県内に通学・通勤している人

そ の 他：全体の3分の2以上出席の者に修了証書を交付した。

日 程		テ ー マ	講 師
9月7日 (土)	10:20~10:30	開 講 式	学 長 沖 陽 子
	10:30~11:30	ことばの国のアリス —『不思議の国のアリス』を紡ぐ「ことば」たち	教 授 杉 村 藍
	11:30~12:30	『嵐が丘』を「語り」の視点から読む	
9月14日 (土)	10:20~11:20	海外メディアが見た東日本大震災の〈世界〉	教 授 関 根 紳 太 郎
	11:20~12:20	海外メディアが見た西日本豪雨災害の〈世界〉	
	12:20~12:30	閉 講 式	部 長 樋 笠 勝 士

(3) 開催状況

(1) 参加者

居住地	人数	比率
総社市	15	40.5%
倉敷市	8	21.6%
岡山市	8	21.6%
その他	6	16.2%
計	37	100.0%

- ・受講者数:37名
- ・修了証交付者数:23名

年齢	人数	比率
10歳代	1	2.7%
20歳代	0	0%
30歳代	1	2.7%
40歳代	9	24.3%
50歳代	5	13.5%
60歳代	6	16.2%
70歳以上	12	32.4%
不明	3	8.1%
計	37	100.0%

○ 開催状況



(2) 参加者からの意見・感想

- 技術的な観点を意識しながら文を読むことは余りないので、内容を印象づけるための技術的工夫が意識的にされていることが勉強になった。
- 母国語ではない言葉がどのような表現技法を持っているのか、非常に興味があったので大変意義深い講義になった。
- 世界観(英語圏と日本人の考え方)に興味があった。

(4) 今後に向けて

今回の講座は、「テキストの中の〈世界〉」をテーマに、語学教育担当教員の研究内容を取り入れた講義を実施した。一見すると難解に思えるテーマではあったが、誰もが知る書籍や、近年の災害を観点とした内容であったため、授業後には、積極的な質疑応答がなされ、受講者の学習意識の高さが窺えた。

本学の公開講座は、例年 40 代以上の中高年者が圧倒的に多く、テーマを問わず受講くださるリピーターも存在する。今後も高度な専門的知識を得たいという受講生の要望に応えつつ、地域住民に幅広く学習機会を提供するとともに、大学において蓄積した知識、技術ならびに研究シーズをより多くの地域住民に、身近に感じてもらえる工夫をしていくことが必要である。

2. 2-2 吉備創生カレッジ

岡山県は、全国的に見ても充実した高等教育機関の集積地である。このため、県内 15 の四年制大学が相互に連携・協力し、県内の高等教育全体の資質向上や地域社会への貢献等を目指す目的で、平成 18 年 4 月に「大学コンソーシアム岡山」が発足し、現在では正会員として 17 大学が参加している。さらに、特別会員として 5 短期大学及び 1 高等専門学校が加わっている。

「大学コンソーシアム岡山」は、事業のひとつとして社会人教育事業「シティ・カレッジ」を県内各地で開講したが、同時に、山陽新聞社でも、県内の大学の協力を得て、生涯学習講座「山陽新聞カレッジ」を開始した。この 2 つの事業は、趣旨・目的がほぼ同様であることから、受講生にわかりやすくするため、平成 19 年度から「吉備創生カレッジ講座」として統合された。

本学は、中期計画及び年度計画で講師派遣を行うこととしており、本年度は下表の 6 講座を提供した。開催場所はいずれも吉備創生カレッジ・さん太キャンパスであり、講義開催日数は 3 日であった。

期	日時	担当教員	講座名	内容
前期	R1.6.12 ～7.10	保健福祉学部 准教授 名越 恵美 准教授 實金 栄	人生の最終段階で支え あい (医療福祉講座)	私のエンドオブライフと、私の大切な誰かのエンドオブライフ。住み慣れた地域で支え支えられ、安心して人生の最終段階を迎えられる地域づくりについて一緒に考える。
	H31.4.13 ～R1.5.11	情報工学部 教授 渡辺 富夫	身体的コミュニケーション (科学講座)	うなずきや身振りなどの身体的リズムの引き込みをロボットや CG キャラクタのメディアに導入することで、対話者相互の身体性が共有でき、一体感が実感できる身体的コミュニケーション技術を紹介する。
	R1.5.15 ～6.21	デザイン学部 助教 石 王美	ウェブデザインング (教育講座)	ウェブデザイナーはデザイン能力、jQuery, CSS, JAVA script などコーダー能力も要求されている。bootstrap フレームワークを応用してフロントエンドウェブを学ぶ。
後期	R2.1.8 ～2.12	保健福祉学部 教授 山本 孝司	『若草物語』の教育論 (教育講座)	19 世紀アメリカの少女文学として知られる『若草物語』(Little Women)の作者であるレイザ・オルコットの父ブロンソンの思想から今日の教育(子育て)へのヒントを得る。
	R1.10.12 ～11.9	情報工学部 教授 穂苺 真樹	日常生活に関わるセンシング (科学講座)	センサは日常生活でも広く利用され重要な役割を果たしています。本講座では、センシング技術とその適用事例について解説し、最後に地域の抱える問題点の解決法について受講生皆さんと考える。
	R1.10.31 ～11.28	デザイン学部 講師 尾崎 洋	生活の中のデザイン (文化講座)	美しさや使いやすさなど、さまざまなモノやコトはデザインされています。それを支える技術や仕組みを解説・観察しながら、生活の中にあるデザインについて講義を進める。

2. 2-3 高大連携活動

高校名	担当学部	教員名		講義内容等	受講人数	学年	実施日
岡山南	保健福祉	教授	高戸 仁郎	「介護予防について」講義・実技指導	20	3	R1.5.13
倉敷古城池	保健福祉	准教授	池田 理恵	研究紹介・県大保健福祉学部の紹介	49	1-3	R1.6.17
総社	保健福祉	准教授	佐々木 新介	土曜講座「看護師とその将来について」	50	3	R1.6.22
瀬戸南	保健福祉	准教授	岡崎 愉加	性教育講演会	466	1-3	R1.7.8
勝間田	保健福祉	教授	井村 圭壯	福祉・医療・保育等の専門職の魅力と重要性について	47	1-3	R1.7.8
邑久	保健福祉	教授	井村 圭壯	福祉に関する様々な仕事、県立大学社会福祉系学部で学べること、等	5	2、3	R1.7.30
倉敷中央	保健福祉	教授	井村 圭壯	保健・福祉系進路の魅力と大学での学び	20	2	R1.9.19
倉敷南	保健福祉	教授	入江 康至	「キャリアⅠ」学問の哲人講座：習慣的甘酒摂取の腸内環境に対する影響	19	2	R1.10.3
	保健福祉	准教授	名越 恵美	「キャリアⅠ」学問の哲人講座：求められる看護職の役割	32	2	R1.10.3
総社	保健福祉	准教授	岩満 賢次	土曜講座「福祉とその現状・将来性について」	25	2	R1.9.14
	保健福祉	教授	山本 孝司	土曜講座「幼児教育とその現状について」	30	2	R1.10.19
	保健福祉	准教授	井上 幸子	土曜講座「看護とその将来性について」	25	2	R1.11.9
岡山商科大学 附属	保健福祉	教授	井村 圭壯	大学の学問について 大学進学にあたり、高校生活で必要なこと	20	1	R1.10.16
総社	デザイン	准教授	朴 貞淑	住環境1, 2※	15	2	R1.10.1 10.15
	デザイン	教授	真世土 マウ	セラミックデザイン※ (中南米土器)	15	2	R1.10.21 10.28
	デザイン	准教授	益岡 了	ユニバーサルデザイン、等 ※	15	2	R1.11.12 11.19
岡山南	保健福祉	教授	高戸 仁郎	「高齢者の健康」について	80	2	R1.10.16

※ 講義内容等の※印は連携講座(高校が単位認定を行うことができるもの。)

2. 2-4 附属図書館の活動

(1) 地域への一般開放

本館は、平成21年度より教育研究に支障のない範囲で、一般開放を行っている。館内では自由に蔵書の閲覧ができるほか、OPAC専用端末による蔵書検索や所蔵している文献の複写、DVD・ビデオなどの視聴が可能となっている。また、平成28年度から18歳未満の方の利用も可能としている。

なお、学外の方が入館するには、申込書への記入及び下表に示す証明書等の提示が必要となっている。更に、利用者カードを申請することにより図書の貸出も可能である。貸出の対象と冊数及び期間は下表に示すとおりである。

利用資格

区 分		入 館 に 必 要 な も の
県 内 (注1)	18歳未満の方(注2)	学生証(生徒手帳)又は身分が証明できるもの
	大学関係者(注3)	所属大学の学生証又は身分が証明できるもの
	上記以外の 18歳以上の方	身分が証明できるもの(注4)
県 外	県外の方	

(注1) 県内居住者等とは、岡山県内に居住又は通勤・通学をされている方

(注2) 小学生以下の方がご利用の場合は、保護者の同伴及び申込書への署名が必要

(注3) 岡山県大学図書館協議会加盟校の方

(注4) 運転免許証・保険証等又は公共料金郵便物の住所が記載されているもの(コピー可)

貸出の対象、貸出冊数及び貸出期間

貸出の対象	貸出冊数	貸出期間
(1) 岡山県大学図書館協議会加盟校の教職員・学生	5冊まで (図書のみ)	14日以内
(2) 本学卒業生など		
(3) 県内に居住または通勤・通学し、許可を受けた方	3冊まで (図書のみ)	

貸出については、本学における教育研究を優先するため、定期試験開始日の2週間前から試験期間終了日までの約1ヶ月間は行わないこと、ならびに、貸出期間内でも返却の依頼をする等の制約を設けている。平成21年度から利用者カードを発行し、令和2年3月末現在までの発行枚数は3,046枚、今年度の学外の方への新規利用者カード発行枚数は142枚であった。また、次ページ表より、学外者の中でも一般の方が全体の85%を占め、総社市内のみならず広い地域の方々に利用されているのがわかる。令和元年度の一般の方への貸出は305冊であった。

学外者図書館利用実績(H31.4.1～R2.3.31)

区 分	延人数 (人)	比率 (%)
他大学の学生	40	3.5
他大学の研究者	8	0.7
大学以外の学生	26	2.3
大学以外の研究者	1	0.1
本学卒業生	91	7.9
上記以外(一般の方)	982	85.5
計	1,148	100.0

居住地別のカード交付実績

(H31.4.1～R2.3.31)

区 分	人数(人)
総社市	47
岡山市	41
倉敷市	39
県内他の市町村	14
県 外	1
計	142

(2) 岡山県内図書館との連携

本館は、岡山県立図書館(以下「県立図書館という」)が中心となって行っている「岡山県図書館横断検索システム」、「岡山県図書館間相互貸借システム」に参加している。このシステムは岡山県内の公共図書館や加盟している大学図書館の図書資料を一括で検索することができるほか、借りたい資料が近隣の図書館にない場合でも、県立図書館を通して県内の他の図書館から無料で取り寄せることが可能となっている。令和元年度にこのシステムを通じて県民へ貸出した冊数は、67冊であった。

また、本館は県立図書館の返却窓口及びインターネット予約資料の受渡館にも指定されている。県立図書館で直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却することができるうえ、県立図書館の本をインターネット予約で借りる際、受渡館に「岡山県立大学附属図書館」を選択することにより予約した本を本学の図書館カウンターで受け取ることができる。令和元年度に返却窓口として利用された本は508冊、インターネット予約で受渡館として利用された本は478冊であった。

平成30年11月から学内者に限り、県立図書館と協力し、利用者カードの発行を行えるようになった。これまでのカード発行枚数はのべ17枚である。

(3) 高校生のための大学授業開放に伴う臨時開館

8月24日(土)に行われた「高校生のための大学授業開放」では、臨時開館を行い高校生及び保護者の方84名が館内を見学した。来館した高校生は、興味深げに館内を見学し、大学図書館の専門書の多さや専門性に驚きつつ、入学して図書館で勉強したいと感想を語っていた。

(4) 大学見学に伴う館内案内の実施

高校生以下の学生が、授業の一環として本学の施設見学を行った際、館内の案内を行った。生徒たちは電動書架を動かしてみたり、興味のある本を閲覧したり、職員に質問したりと熱心に館内を見学していた。見学を行った学校は次のとおり。

- | | | | |
|-----------------------|-------------|---------------|-------------|
| ・愛媛県立今治北高等学校
大三島分校 | 生徒20名・引率者3名 | ・岡山県立西大寺高等学校 | 生徒42名・引率者2名 |
| ・岡山県立総社高等学校 | 生徒18名・引率者3名 | ・岡山県立岡山御津高等学校 | 生徒6名 |
| ・総社市立総社東小学校 | 生徒11名・引率者4名 | ・岡山県立倉敷工業高等学校 | 生徒39名・引率者2名 |
| | | ・香川県立琴平高等学校 | 生徒16名・引率者1名 |



総社高校



総社東小学校

(5) 大学祭に伴う臨時開館及びリユース市の開催

大学祭初日に開館し、一般の参加者も館内を自由に見学した。

また、リユース市(図書館所蔵図書のうち、重複や改版等により除籍とした図書を有効活用することを目的とし、低価格にて販売)を開催し、学外からも89名が来場した。



リユース市会場の様子(1)



リユース市会場の様子(2)

(6) 中学生の職場体験

職場体験学習の場として、中学生4名(大安寺中等教育学校2名・総社東中学校2名)を受け入れた。図書館の利用方法や蔵書検索の仕方、貸出・返却時の対応などの指導を行った後、実際にカウンターで貸出・返却業務、配架作業、雑誌の受入や整理、館内の清掃などを体験した。生徒から「書架整理や日本十進分類法など、たくさんのことを教わった。図書館員は本と利用者を結びつける役目があると学び感心した。」という感想の手紙が届いた。



図書の貸出をしている様子



返却図書の配架をしている様子

(7) 総社市健康インセンティブ事業への協力

総社市健康インセンティブ事業「歩いて獲得健康商品券」への協力として、図書館エントランスに事業参加者が利用できるリーダーとモバイルルーターの設置を昨年度に引き続き行っている。

機器利用者の中には、エントランスで新聞を読んだり、館内で図書を借りる方も見受けられた。

(8) 学術情報の発信

本学の研究成果を学内外の方に広く活用してもらうため、岡山県立大学学術情報リポジトリにより、本学発行紀要(岡山県立大学保健福祉学部紀要、岡山県立大学デザイン学部紀要及び岡山県立大学教育研究紀要)のほか、学術雑誌に掲載された論文等を公開している。

(9) NBR研究会主催ワークショップへの支援

11月30日(土)図書館エントランスにおいて、本学令和元年度重点領域プロジェクトNBR研究会主催によるワークショップ「季節のリースづくり」が開催された。図書館長の難波久美子教授が講師をつとめ、地域の親子が参加し、自然溢れるキャンパスで採集した葉や実を使って、楽しみながらそれぞれにリースをつくり上げた。

図書館内では、「自然を感じるワークショップ関連図書」の展示を行い、連携を図った。



リース



リースづくりの様子

2. 2-5 異文化理解の活動

語学教育推進室では、全学対象の語学教育の責任を担いつつ、同時に地域に開かれた組織を目指し、国際社会を生き抜くために必要とされる語学力や異文化理解を促す事業を企画、地域の方々にも広く公開し、参加を呼びかけている。グローバルに事象を見て考え、ローカルに行動できる人材作りを目標する際に、異文化・多文化理解は必須である。

(1) 映画上映会 (国際交流センターとの共催)

語学力の向上や異文化・多文化理解のために外国語映画の上映会を開催した。本年度は、英語音声映画(日本語字幕付き)を3本、韓国語映画(日本語字幕付き)を1本、上映した。内訳は以下のとおりである。上映は、5・6・11・12月の木曜日の午後であり、場所は国際交流センターであった。

映画上映の内訳

日時	種別	上映時間	参加人数
5月30日(木)	英語	120分	4
6月27日(木)	英語	120分	7
11月21日(木)	韓国語	120分	27
12月12日(木)	英語	120分	5

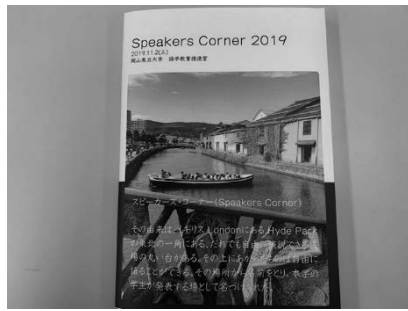
(2) スピーカーズ・コーナー

スピーカーズ・コーナーは、コンテストという競争形式ではなく、学生の自由な発想のもとに外国語でのスピーチをすることができるイベントである。学生の語学力向上と地域社会とのつながりを目指し、毎年秋の大学祭1日目に行われる恒例行事となっている。本年度は、11月2日(土)9:30~11:00、学部共通棟8903教室において開催された。出場者は、英語のみならず、韓国語、ドイツ語の出場者も含まれた。英語以外の言語による発表が増えてきた。参加者は、発表者16名を含め50名となった。以下、出場者の所属と演題を示す。

発表の内訳

発表者	演題
栄養学科1年生	What is SDGs?
栄養学科1年生	サッカーで比べるドイツと日本
人間情報工学科1年生	
栄養学科1年生(3名)	日韓文化の違い(衣・食・住)
情報システム工学科3年生	Enjoying Extensive Reading
デザイン工学科1年生	私の人生の転機となった韓国での生活
保健福祉学科2年生	Sesame Street
造形デザイン学科2年生	空間芸術
保健福祉学科2年生	Memories of Summer Vacation
情報通信工学科2年生	僕が日本を好きな理由
栄養学科4年生	私が韓国語を勉強する理由
情報通信工学科1年生(2名)	国家勢力
保健福祉学科4年生	韓国の芸能について

なお、各出場者(チーム)に対して、フォトブックを作成し、広報に役立てた。



フォトブック



英語によるスピーチ

(3) 岡山県立大学公開講座

毎年行われている岡山県立大学公開講座を、今年度は共通教育部が担当し、語学教育推進室が中心となって講義を行なった。テーマは「テキストの中の〈世界〉」で、9月7日(土)、9月14日(土)の2日にわたり、どちらも10:20~12:30に2クラスずつ開講された。詳細については2.2-1「公開講座」を参照されたい。

(4) 海外研修等

語学教育推進室では、学生の異文化理解を進めるために海外研修にも携わっている。本年度は4月25日(木)3限に、学部共通棟8206教室において平成30年度の海外研修等の報告会が行われた。

令和元年度は、語学文化研修として、英国バンガー大学(夏、5名)の研修が行われ、語学教育推進室の教員が引率した。スタディーツアーとして実施された米国ポートランド州立大学での語学研修(夏)には、7名の学生が参加した。韓国・梨花女子大学(夏)への研修は国際情勢を考慮して、また、豪州アデレード大学(春)に関しては新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、これら2つの研修は中止となった。海外研修(保健福祉学)に関しては、ウソン大学・保健福祉分野(15名)、豪州・アデレードTAFE等(9名)が実施された。香港理工大学・看護分野については、国際情勢を考慮して、危機管理の面から中止された。

上記研修のうち実施されたものについては、語学教育推進室の教員が国際交流センターと協力体制を取り、安全で充実した研修に向け事前事後指導等を行なっている。

2. 2-6 健康・スポーツ推進の活動

(1) 概要

岡山県立大学健康・スポーツ教育推進室は、大学におけるスポーツ関連の授業や課外活動が安全かつ円滑に行える環境を確保し、スポーツを通じた学生・教職員の親睦と健康維持を推進している。さらに、大学のスポーツ施設の有効利用を可能な限り学外にも広げ、健康・スポーツの面から地域に貢献することを目指している。

(2) 管理体制の実質化

岡山県立大学の運営規程におけるスポーツ関連施設の管理責任者は事務局長であるが、施設の状況に精通した教員による実質的な「スポーツ施設管理者主任」を2名置いている。

屋内スポーツ施設管理主任(体育館・プール)

屋外スポーツ施設管理主任(陸上競技場・野球場・グラウンド(サッカー場)・テニスコート)

スポーツ施設管理主任の所掌事項は主に以下の3点である。

- ①施設・用具の点検と要望の把握
- ②施設・用具の補修補充に関する協議・実行・報告
- ③施設・用具の安全使用と整理整頓等の啓発

(3) 施設・設備の充実

スポーツ施設の地域開放をにらみ、野球場の表土の補充、陸上競技場フィールド内の芝の養生を行った。体育館プラザに設置していたトレーニング機器のうち、老朽化が著しく危険なものを廃棄し、トレーニングベンチを新規に導入した。安全に施設を利用できるよう、老朽化して使用者に危険が及ぶ可能性がある設備について調査、適切な処分を行った。

(4) 公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項

平成21年10月より実施してきた本学の体育施設の地域開放の対象を、岡山県内に住所を有する者及び勤務する者を主な構成員(1/2以上)とする団体へと拡大している。

(5) 大会・行事

① 地域貢献スポーツ大会

岡山県立大学杯第7回少年少女サッカー大会

日時: 令和元年12月15日(日)

場所: 陸上競技場・サッカー場

参加人数: 約200名超

(6) 今後の展望と課題

地域へのスポーツ施設の貸し出し実績について、小学生・中学生を中心とした貸付利用数は増加傾向にある一方で、学生の課外活動、産学官連携事業等による利用も増加しており、利用状況に変化がみられる。今後は、産学官連携事業等を通じて幅広い世代が本学の体育・スポーツ施設を活用できるような体制づくりも必要と思われる。一方で施設の老朽化も進んでいるため、安全で快適に利用できる対策の再検討も含め、補修・管理をしていく予定である。

(7) 関連資料

体育施設の地域開放について(公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項)平成21年11月から貸付対象施設の貸し出しを開始した。

① 貸付対象施設および本年度貸付実績

野球場 14件

グラウンド(サッカー場) 3件

② 貸付対象者

- 1) 岡山県内に住所を有する者及び岡山県内に勤務する者を主な構成員(1/2以上)とする団体
- 2) その他理事長が特に使用を認めた者

③ 利用可能時間帯

- 1) 時期 通年(12月29日から翌年1月3日を除く)
- 2) 時間 9:00～日没まで(19:00を限度)

④ 予約申込

受付は、平日 9:00～17:00 まで、事務局総務課窓口

⑤ 受付期間

希望日の前月の 1 日から 15 日の間

⑥ 貸付許可

理事長が、健康・スポーツ教育推進室長の意見を聞いて適当と認められるときに許可する。なお、施設使用の公平を図るため必要があるときは、同一申請者が施設を使用する回数又は時間を制限する場合がある。

⑦ 利用料金

施設名	金額(1 時間当たり)	
	一般	2,000 円
野球場	高校生以下	500 円
	一般	2,000 円
グラウンド(サッカー場)	高校生以下	500 円

⑧ 貸付条件

- 1) 施設使用に当たっては、本学の諸規程や指示に従うとともに、使用開始時及び使用終了時に体育施設管理人に報告し、確認を受けること。
- 2) 施設の使用中に生じた事故及び損害について、借受人がその一切の責任を負うこと。

⑨ 問い合わせ先

岡山県立大学事務局総務課 TEL:0866-94-2111(代)

2. 2-7 ボランティア活動

(1) 地域ボランティア

大学へ寄せられた県内の市町村や社会福祉法人などからの学生ボランティアの募集について、学生支援団体PZL(パズル)に情報提供したほか、学内掲示板への掲示による告知や関係する部・サークルへの連絡調整を行った。

大学を経由して依頼を受けたボランティアに参加した部・サークルは4団体あり、計19件のボランティアに参加した。内訳は、奇術部6件、手話部1件、ボランティア部ひまわり11件、ロボット研究会メヒヤニカ1件。

○ロボット研究会メヒヤニカによるロボットプログラミング教室

令和元年8月3日(木) 13:00~17:00

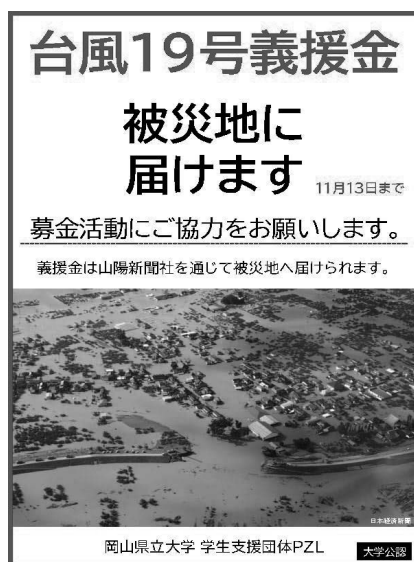
小学生を対象とし、プログラミングロボット mBot を使ったプログラミング教室



(2) 台風19号義援金

学生支援団体PZLでは、台風19号により被害を受けられた方々の力になりたいという思いから、大学祭実行委員会の協力のもと、大学祭開催時を含む令和元年10月31日(木)から11月13日(水)まで募金活動を行った。

義援金は、総額67,089円となり、令和元年11月15日(金)に山陽新聞社本社に届けた。



義援金募集チラシ



山陽新聞本社 義援金受付

2. 3 行政への貢献

2. 3-1 岡山県への貢献

本学の設置者である岡山県へは各種の委員会やイベントで多くの貢献を行ってきた。本学は保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部から構成されており、委員の応嘱状況は下記のとおりである。

	岡山県	岡山県 教育委員会	合計
保健福祉学部	34	2	36
情報工学部	8	0	8
デザイン学部	11	0	11
合計	53	2	55

保健福祉学部では、介護保険審査会、社会福祉審議会、子ども・子育て会議、食の安全・食育推進協議会など学部の特性に応じた委員会の他に、環境審議会、都市計画審議会、などに貢献している。情報工学部では、高度情報化推進協議会、工業技術センター外部評価委員会などに貢献している。デザイン学部では、都市計画審議会、建築士審査会などの他に、土地開発審査会、環境影響評価技術審査会などにも貢献している。

また、共同研究・受託研究等の詳細は3.2-1を参照されたい。デザイン学部では学部の特色を活かし、共同研究としてポスターやグッズ等のデザイン、動画やウェブサイトの作成等を行っている。

2. 3-2 市町村への貢献

県内市町村及び県外への委員の応嘱状況は以下のようになっている。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
国	1	10	0	11
総社市	19	1	5	25
岡山市	7	1	7	15
倉敷市	1	0	7	8
笠岡市	1	0	0	1
備前市	1	2	0	3
浅口市	2	1	1	4
瀬戸内市	0	0	2	2
高梁市	1	0	0	1
赤磐市	0	0	1	1
津山市	1	0	0	1
矢掛町	1	0	0	1
美咲町	0	0	1	1
早島町	3	0	1	4
愛知県小牧市	2	0	0	2
奈良県	1	0	0	1
奈良県三郷町	1	0	0	1
滋賀県守山市	1	0	0	1
三重県亀山市	0	0	1	1
愛媛県今治市	0	0	1	1
合計	43	15	27	85

活動の内容は、地域の福祉、介護、子育て、健康などに関するものが多くを占めている。なお、総社市との間では、平成20年に締結した包括連携協定に基づき様々な活動を行っており、本学が有する知識や情報、研究成果を地域に還元する一方、総社市からはインターンシップの提供等のサポートを受ける相互支援体制を形成している。

[連携活動において地域に貢献したもの]

① 共同研究等の実施

【共同研究・受託研究等実績(行政関係)2.3-4を参照】

② 市民向けPR事業

ア「夏休み県大探検」【8月22日(木)AM、3学部対応】

- ・参加者 96名(市内小学生61名と保護者35名)
- ・テーマ 「お米からお菓子を作ってみよう」
「不思議なカメラを使って遊ぼう！」
「ロボットやキャラクターに話しかけてみよう！」
「目の錯覚と手の錯覚を体験してみよう！」
「アトリエ棟探検・ものづくりの仕組みを見てみよう！」

イ「夏休み工作教室」【8月23日(金)PM、デザイン学部対応】

- ・参加者 16名(小学生高学年10名と保護者6名)
- ・内容 「昆虫を作って学ぼう！昆虫工作教室」

③ 岡山県立大学子育てカレッジ

【地域連携推進センター実績(3.3-4)を参照】

[連携活動において支援を受けたもの]

① 共通教育講義「大学で学ぶ」への講師派遣【4月24日(水)】

「人間力」(講師:片岡市長) ※ 新入生約400名を対象

② インターンシップの実施【8月1日(木)～11月10日(日)】

インターンシップ報告会では学生一人ひとりが体験で得た成果を報告するとともに総社市へ提言を行った。

③ 河南科技大学の日本語・日本文化生活体験研修【7月17日(水)～25日(木)】

本学が語学研修生を受入れ実施

(中国河南科技大学13名)

総社市はホームステイの実施等を支援

2. 3-3 各種委員・講師の応嘱（行政関係）

本学における令和元年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区 分	国・独立 行政法人	県	市町村	計
保健福祉学部	1	36	42	79
情報工学部	10	8	5	23
デザイン学部	0	11	27	38
合 計	11	55	74	140

※ 公表を制限されているものを除く

本学における令和元年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区 分	国・独立 行政法人	県	市町村	計
保健福祉学部	0	10	21	31
情報工学部	0	1	1	2
デザイン学部	0	8	3	11
合 計	0	19	25	44

2. 3-4 共同研究・受託研究等（行政関係）

（1）共同研究

相手方	題目	研究代表者
笠岡市	笠岡市子どもの生活実態調査	保健福祉学部 近藤理恵教授
総社市	大学生の出産・育児に対する意識調査	保健福祉学部 近藤理恵教授
総社市	総社市救急搬送者のデータを調査及び救急要請要因の解明	保健福祉学部 佐々木純子准教授
総社市	“歩得”健康商品券事業に係る参加者への事業の効果増進と効果分析	情報工学部 綾部誠也教授
総社市	県大メディカルフィットネス講座参加者への事業効果増進と効果分析	情報工学部 綾部誠也教授

（2）受託研究

相手方	題目	研究代表者
赤磐市	赤磐市是里産ブドウの成分分析及び産地比較	保健福祉学部 伊東秀之教授
岡山県 (都市計画課)	岡山後楽園における年間パスポート(特別版)のデザイン開発(3種類)	デザイン学部 西田麻希子准教授
岡山県 (防災保安課)	消防団防災啓発劇に係る動画作成事業	デザイン学部 嘉数彰彦教授

2.4 企業等への貢献

この節では 2.3-4 で述べた自治体以外の共同研究、受託研究等について記載する。企業等との関連では、共同研究・受託研究・教育研究奨励寄附金・その他の 4 つに分類できる。学部別の件数は以下のようになっている。金額については第 4 章を参照されたい。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
共同研究	12	26	12	50
受託研究	3	8	5	16
教育研究奨励寄附金	10	25	9	44
合計	25	59	26	110

2. 5 人材の育成・輩出

2. 5-1 保健福祉学部・大学院保健福祉学研究科

A. 看護学科

(1) 教育状況

看護学科では、人々が健康で豊かなその人らしい人生が実現できるように、看護の専門知識と技術を活かして、地域におけるあらゆる健康レベルの人々(家族・集団・地域)の生涯を通じた健康を支援し地域社会に貢献できる看護専門職の育成を目指している。看護学科で取得可能な資格は、看護師国家試験受験資格と助産師国家試験受験資格(4名)であり、4年間で看護師と助産師の国家試験受験資格を得ることができる県内唯一の大学である。本学科の卒業生は、地域を見守る看護専門職者として、県民の健康増進及び健康回復に貢献している。

(2) 就職・進学状況

平成30年度看護学科の就職および進学の率は95%であった。就職者は33名で、就職先は、岡山大学病院、倉敷中央病院、岡山市立総合医療センター岡山市立市民病院等、川崎医科大学総合医療センター、倉敷成人病センターなどの県内屈指の医療施設であり、県内就職率は69.7%であった。進学者は5名で、岡山県立大学大学院博士前期課程保健福祉学研究科看護学専攻に3名、兵庫県総合衛生学院1名等であった。また、令和元年度看護学科の就職および進学の率は98%であった。就職者は34名で、就職先は、岡山大学病院、倉敷中央病院、川崎医科大学総合医療センター、倉敷成人病センターなどの県内屈指の医療施設であり、県内就職率は47.1%であった。進学者は8名で、岡山県立大学大学院博士前期課程保健福祉学研究科看護学専攻に6名、県立広島大学助産学専攻1名、島根県立大学別科助産学専攻1名であった。

(3) 国家試験の合格状況

国家試験合格率は、看護師・保健師・助産師のいずれにおいても、5年連続で全国平均を上回っていた。

	国家試験合格率(%)								
	看護師			保健師			助産師		
	本学	全国		本学	全国		本学	全国	
H27年度	105回	97.6	89.4	102回	100	89.8	98回	100	99.9
H28年度	106回	97.7	88.5	103回	100	90.8	99回	100	93.0
H29年度	107回	100	91.0	104回	87.5	81.4	100回	100	98.7
H30年度	108回	97.5	89.3	105回	100	81.8	101回	100	99.6
R1年度	109回	97.7	89.2	106回	100	91.5	102回	100	99.4

B. 栄養学科

(1) 教育状況

栄養学科では、超高齢社会の到来や生活習慣病予防が重視されている現代社会において、食と健康の相互関係を科学理論によって理解し、未知なる事象の解明に向けて研究する姿勢を身につけ、栄養学を人の健康・維持増進、疾病の予防、治療へと応用し、広く地域社会に貢献できる人材の育成を目指している。

(2) 就職・進学状況

平成30年度の進路状況は、就職希望者に対する就職率は100%(40名)、大学院進学は3名であった。就職先の内訳は病院・社会福祉施設18名(41.9%)、行政・学校18名(30.2%)、企業9名(20.9%)、そのうち大学院を除き、管理栄養士・栄養士として就職したものは29名(72.5%)、事務、食品開発・販売等が11名(27.5%)であった。主な就職先としては岡山県(学校栄養職員・講師)、兵庫県(学校栄養職員・講師)、富山県(学校栄養職員・講師)、岡山市(学校栄養職員・講師)、神戸市(栄養教諭)、倉敷市、総社市、浜松市、井原市等、医療機関は川崎学園、倉敷中央病院、重井医学研究所附属病院、心臓病センター榊原病院、旭東病院、富山赤十字病院等であり、企業は岡山市農業協同組合、(株)山田養蜂場、(株)ABC Cooking Studio等多岐にわたる。また、進学先は岡山県立大学大学院であった。これらの職務に対応可能な多数の優秀な卒業生を輩出している。

令和元年度の進路状況は、就職希望者に対する就職率は100%(33名)、大学院進学は2名であった。就職先の内訳は病院・社会福祉施設14名(42.4%)、行政・学校4名(12.1%)、企業15名(45.5%)、そのうち大学院を除き、管理栄養士として就職したものは25名(75.8%)、事務、食品開発・販売等が11名(24.2%)であった。主な就職先としては大阪府・徳島県(栄養教諭・講師)、津山市(栄養

教諭・講師、倉敷市等、医療機関は川崎学園、岡山赤十字病院、笠岡第一病院、姫路聖マリア病院、松江市民病院、福山循環器病院等であり、企業は藤徳物産、(株)源吉兆庵、津山調剤薬局等多岐にわたる。また、進学先は岡山県立大学大学院であった。これらの職務に対応可能な多数の優秀な卒業生を輩出している。

(3) その他

・国家試験の合格状況

栄養学科で取得可能な資格は下表上のとおりである。また、管理栄養士国家試験合格率は、平成30年度は97.7%であった。これまでも90%以上の高い水準を保持しており(下表下)、高度な専門知識と技術の習得を行っている。

栄養学科で取得可能な資格

- ・栄養士
- ・管理栄養士国家試験受験資格
- ・食品衛生管理者(任用資格)
- ・食品衛生監視員(任用資格)
- ・栄養教諭一種免許状

過去5年間の管理栄養士国家試験合格率(%)

卒業年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1
本学	95.2	100	97.5	95.2	97.7	94.2
管理栄養士養成課程 全国・新卒	95.4	85.1	92.4	95.8	95.5	92.4
全体(既卒・栄養士養成校含)	55.7	44.7	54.6	60.8	60.4	61.9

・岡山県内専門職との連携及び支援

栄養学科教員は各自の専門性を活かし、岡山県内で活躍している卒業生を含む各職域の管理栄養士・栄養士等の専門職と連携して教育・研究事業を実施した。表にこれまで実施した一例を示す。

・集団給食従事者(保育園、学校、病院、高齢者施設等)に対する支援:各職域別に特定給食施設を通じた地域における健康増進施策の推進に関する講演や地域の健康づくりのための行動変容の手法、地域における減塩活動の普及に関しては、本学地域貢献特別研究で実施した地域住民の主体的な健康づくりの支援プログラムを用いた研修で、栄養管理の向上に努めた。

H27	瀬戸内市、矢掛町
H28	総社市、瀬戸内市、備北保健所給食従事者研修会
H29	備中保健所給食従事者研修会、備前市
H30	美作保健所・備中保健所・備北保健所新見支所 給食従事者研修会、総社市保育協議会、岡山県乳幼児保育従事者研修会
R1	岡山県乳幼児保育従事者研修会、真庭保健所 給食従事者研修会

・行政栄養士に対する支援:保健所および市町村行政栄養士が行う健康増進計画や食育推進計画の評価・策定業務に関するスキルアップ研修会や栄養改善協議会での研修会講師、および地域の実態把握のための調査研究の実施・分析を担当し、保健所が実施する健康増進事業に関する助言指導をおこなった。

H27	備前市、総社市、美作市、浅口市栄養改善協議会
H28	岡山市栄養改善協議会、備前市、総社市
H29	岡山県勝英保健所、備前市、総社市
H30	岡山県勝英保健所、備前市、総社市、久米南町
R1	岡山県、備中保健所、美作市、久米南町、備前市、早島町

・岡山県との連携

保健福祉行政: 保育所での栄養管理や食育推進に関する研修会で講師を務めた。食の安心安全推進委員会委員として、食の安心と地産地消の推進に関する業務に携わった。教育行政: 教職課程担当教員を中心に栄養教諭免許更新講習を主宰し、栄養教諭のリカレント教育の機会を提供するとともに講師を務めた。

栄養教諭免許更新講習会の実施(主催岡山県立大学)

- H29 岡山県栄養教諭・学校栄養職員研修会
- H29 岡山県乳児栄養管理者研修会講師
- H29 第2次健康おかやま21 推進会議委員
- H30 栄養教諭免許更新講習
- R1 岡山市学校給食運営委員会委員

C. 保健福祉学科

(1) 教育状況

複雑化・高度化された社会において、人々が抱える生活問題に十分に対応するためには、保健と福祉の両面の政策・サービスが融合された、新しい制度・サービスの構築が必須である。このような時代背景のもと、保健福祉学科は、日本で初めて保健福祉学の名称を用いた学科として平成5年4月に開学した。伝統的な社会福祉学に加え、保健学(健康科学)、心理学、障害科学分野の教員も加わり、新しい保健福祉学の創造と発展、現代的ニーズにマッチした知識と技術を有する社会福祉士の育成に力を注いできた。以来、多数の優秀な人材を福祉分野に輩出しており、彼らの中には現在では、それぞれの職場や地域で管理職・リーダーとして活躍している者も少なくない。また、平成9年度からは大学院修士課程を、平成15年度からは博士課程を設置し、高度専門職や教育・研究者を社会に送り出している。施設長、職場の管理職・リーダー、団体代表、大学教員などとして活躍している卒業生の中には、全国レベルで活動している者や、帰国後母国で保健福祉学の教育・実践に携わっている者も多い。さらに、平成25年度からは、保健福祉学科は「社会福祉学専攻」「子ども学専攻」の2専攻に分かれ、それぞれの教育理念に基づき、社会福祉士と介護福祉士、幼稚園教諭と保育士の養成を柱として、少人数制教育による本格的な専門職育成および大学院における高度専門職・研究者育成に取り組んでいる。また、令和元年度からは、社会福祉学専攻において、精神保健福祉士と認定スクールソーシャルワーカーの養成を行っている。

(2) 就職・進学状況

保健福祉学科の就職率は、直近3年間(平成28-30年)ではほぼ100%である。平成30年度、社会福祉学専攻においては、①公務員14名、②医療ソーシャルワーカー5名、③社会福祉協議会3名、④社会福祉施設14名、⑤大学事務員1名、⑥企業5名、⑦大学院進学1名、合計43名が就職・進学した。令和元年度、社会福祉学専攻においては、①公務員8名、②医療ソーシャルワーカー6名、③社会福祉協議会1名、④社会福祉施設13名、⑤企業6名、⑥団体等事務員3名、⑦大学院等進学3名、合計40名が就職・進学した。

平成30年度、子ども学専攻においては、①公務員1名、②公務員(幼稚園・保育所・子ども園関連)9名、③公務員(非正規)2名、④社会福祉法人(保育所)2名、⑤社会福祉法人(施設)1名、⑥企業4名、⑦大学院進学1名、合計20名が就職・進学した。また、令和元年度、子ども学専攻においては、①公務員2名、②公務員(幼稚園・保育所・子ども園関連)2名、③公務員(非正規)1名、④学校法人(こども園)1名、⑤社会福祉法人(保育所)8名、社会福祉法人(施設)3名、⑦企業2名、⑧大学院等進学2名、合計21名が就職・進学した。

就職活動へのサポートとしては、①本学就職資料室及び就職相談(カウンセラー)の利用に関する情報提供及び本学就職ガイダンス開催の案内、②本学求人NAVIシステム利用に関する指導、③学科就職担当教員による個別就職相談対応及び指導、④医療・福祉事業所合同就職説明会の開催、⑤3年次生就職ガイダンス(4年生就職体験談)の実施、⑥就職掲示板への求人票の掲示やメール等による求人情報の提供など積極的に実施している。

(3) その他

・社会福祉士国家試験合格状況

社会福祉士の国家試験において、本学科はこれまで全国的にも高い合格率を示している(右表)。学科では、国家試験合格に向けて模擬試験の実施、学生による自主的な学習会のサポート等を行うなど、国家資格取得に向けた学生の意欲向上に努めている。

	合格率 (%)	全国福祉系大学内順位 (10人以上受験校)	全体合格率 (%)
平成27年度	82.8	10/215	26.2
平成28年度	71.8	22/212	25.8
平成29年度	79.5	13/214	30.2
平成30年度	92.7	12/208	28.9
令和元年度	82.5	15/207	29.3

表 過去5年間の社会福祉士合格率

※合格率は新卒、全国福祉系大学内順位は新卒と既卒を合わせたものである。

D. 看護学専攻(博士前期課程)

(1) 教育状況

看護学専攻では、学際的で高い看護の専門的知識と基礎的な研究能力を活かして、保健医療福祉分野における課題を解決し、国内外の看護における実践・教育・研究の場で社会のニーズに応え、貢献できる人材の育成を目指している。なお、保健師教育は法改正(修業年限延長)を機に、平成25年度から大学院博士前期課程で行っており、全国では2番目の開設である。

(2) 就職・進学状況

平成30年度及び令和元年度看護学専攻の就職率は100%であった。就職先は、岡山県、岡山市、大阪市、岡山県等の保健所、大学教員等であった。

E. 栄養学専攻（博士前期課程）

（１）教育状況

栄養学専攻では、食品の機能性や臨床栄養などの人の健康に関連した栄養学的な諸問題を解決できる優れた専門性を備えるとともに、豊かな創造力と問題解決能力を身に付け、それぞれの領域で活躍できる人材の育成を目指している。

（２）就職・進学状況

栄養学専攻では、平成30年度末に3名が修了し、その内2名が岡山県外へ就職(就職率67%)した。就職先業種は、菌興椎茸協同組合、交洋ファインケミカル(株)の研究職などである。令和元年度末に4名が修了し、その内1名が岡山県内へ、2名が岡山県外へ就職(就職率75%)し、1名は岡山県立大学学院保健福祉学研究科博士後期課程へ進学(進学率25%)した。就職先業種は、厚生労働省栄養技官、(株)山田養蜂場、(株)テクノプロR&D社などの専門職・研究職などである。それぞれの業界で活躍する人材を育成している。

F. 保健福祉学専攻（博士前期課程）

（１）教育状況

保健福祉学専攻では、保健福祉学の理論と技術を修得する組織的な教育研究を行い、保健福祉に関連した臨床や政策の諸問題を解決できる優れた専門性を備えた人材の育成を目指しています。

（２）就職・進学状況

保健福祉学専攻では、平成30年度末に7名が修了した。その内、3名が社会人院生であった。それ以外には、大学院博士後期課程への進学の他、鳥取県警、病院、企業と、幅広い職種で活躍する人材を育成している。令和元年度末には3名が修了し、その内2名が社会人院生であり、1名は博士後期課程に進学した。

G. 保健福祉科学専攻（博士後期課程）

（１）教育状況

保健福祉科学専攻では、人間の健康問題に関して、看護・生命や栄養・福祉・教育などの各方面からアプローチし、保健福祉科学の係る学問をさらに深化させることにより、国内外の保健福祉関連の問題解決策を提案できる高度な見識を備えた各専門領域の実践者、指導者、研究者および教育者などの育成を目指しています。即ち、人間の健康に関する諸問題を解決するために、専門の知識や技術、高度な学問的見識を修得し、自立して研究できる研究者を目指す学生、国内外における保健福祉関連の問題を掘り起こして、その対策を立案し、国内に限らずグローバルにおける制度や計画作りに参加し、リーダーシップを発揮できる研究者を目指す学生、教育機関や企業、各種研究機関において自立して高度な教育研究に取り組める教育者及び研究者を目指す学生の育成を目指しています。

（２）就職状況

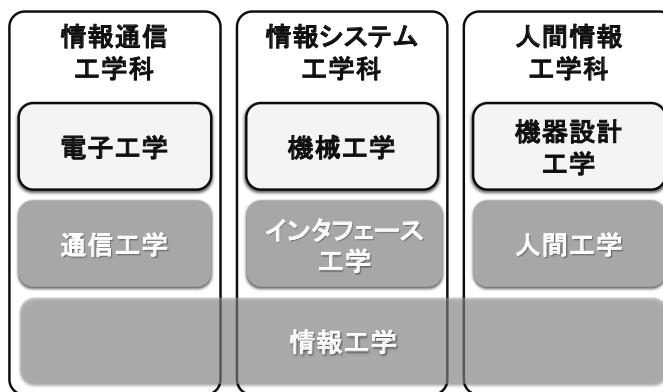
保健福祉科学専攻では、大学教員、企業、研究所等で研究者又は教育者として修了生を輩出している。平成30年度においては、インドネシアからの留学生1名が修了し、インドネシアのハサヌディン大学で教員として従事している。令和元年度においては、本学博士前期課程から進学した1名が修了し、大学教員として従事している。

2. 5-2 情報工学部・大学院情報系工学研究科

情報工学部では、情報技術を活用して、人間および自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に貢献できる技術者の育成を目指し、3つの学科を設置している。すなわち、3学科に共通する基盤技術としての情報工学に加え、各学科の関連工学分野の知識と、それらを活用できる能力を育成することで、将来を見据えた技術者人材を輩出しており、平成30年度末までに2,804名の卒業生を世に送り出している。

大学院情報系工学研究科では、情報工学部における学士課程の教育目標の延長線上にその教育目標を置き、情報技術を活用して、人間及び自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に

大いに貢献できるグローバル人材の育成を目指している。本研究科には博士前期課程(2年)および、それに続く博士後期課程(3年)を設置しており、平成30年度末までに996名に対して修士(工学)の学位を、64名に対して博士(工学)の学位を授与している。



3学科の工学分野

A. 情報通信工学科

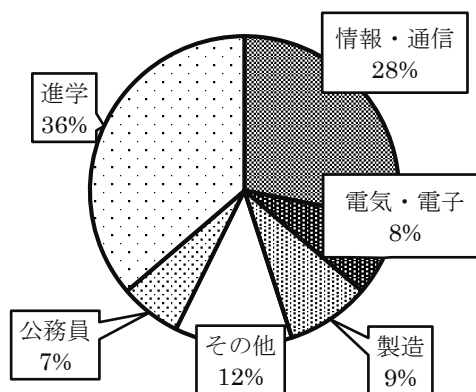
(1) 教育状況

情報通信工学科は、日々進歩し続ける情報通信技術(ICT)を支えている情報工学、通信工学、電子工学の3つの学問領域を共通の基盤として、各種情報システムの知能化等に必要となるソフトウェア技術及びシステムの超高速化等に欠かせないハードウェア技術を有し、情報通信技術(ICT)の利用者視点を理解するとともに、グローバルな視野に立って社会に貢献できる人材の育成を目指している。令和元年5月1日現在の在学者数は239名である。

(2) 就職・進学状況

平成30年度(令和元年度)には、57名(53名)が卒業し、その内、進学者は18名(19名)、就職者は38名(33名)であり、就職希望者に対する就職率は97.4%(97.1%)である。岡山県内への就職者は19名(10名)であり、就職者の50.0%(30.3%)である。就職先業種は、右図(平成28~30年度の実績)に示すとおり、情報通信工学科の育成方針に沿った情報・通信業および電気・電子関係が中心である。

情報通信工学科



情報通信工学科の就職・進路内訳
(H28~H30年度卒業生)

B. 情報システム工学科

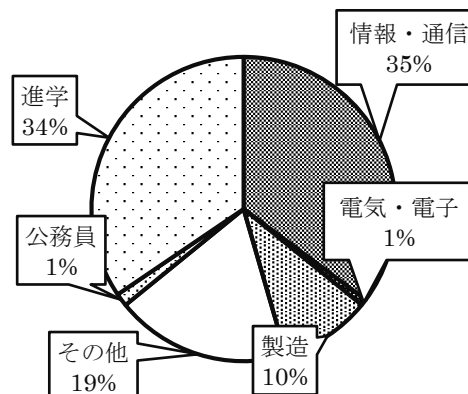
(1) 教育状況

情報システム工学科は、コンピュータの発展に貢献できる情報工学、力学に基礎を置くものづくりのための機械工学、人間と機械やコンピュータを結び付けるインタフェース工学などの学問を身に付け、領域横断型のエンジニアとしてのセンスを持って、新たな工学的価値の創出に積極的に参加できる人材の育成を目指している。令和元年5月1日現在の在学者数は240名である。

(2) 就職・進学状況

平成30年度(令和元年度)には、46名(54名)が卒業し、その内、進学者は20名(17名)、就職者は26名(34名)であり、就職希望者に対する就職率は100.0%(94.4%)である。岡山県内への就職者は16名(11名)であり、就職者の約61.5%(32.4%)である。就職先業種は、右図(平成28~30年度の実績)に示すとおり、情報システム工学科の育成方針に沿った情報・通信業および製造業が中心である。

情報システム工学科



情報システム工学科の就職・進路内訳
(H28~H30年度卒業生)

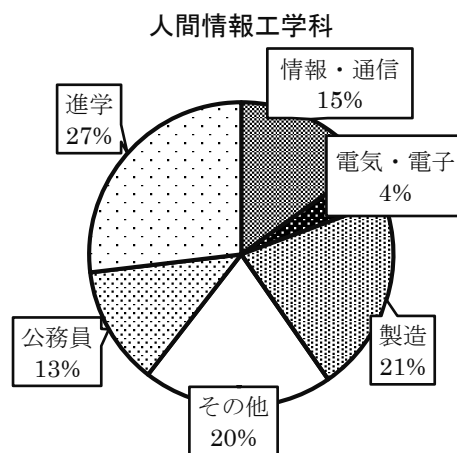
C. 人間情報工学科

(1) 教育状況

人間情報工学科の教育研究のキーワードは「人間中心の設計思想」である。身体とその「うごき」を扱う人間系のサイエンス並びに情報・コミュニケーションと密接に関連する情報系のエンジニアリングを融合的に学び、使う人の様々な特性やニーズの視点に立った「もの」や「サービス」の設計能力を身に付けた人材の育成を目指している。令和元年5月1日現在の在学者数は190名である。

(2) 就職・進学状況

平成30年度(令和元年度)には、39名(53名)が卒業し、その内、進学者は10名(14名)、就職者は29名(39名)であり、就職希望者に対する就職率は100.0%(100.0%)である。岡山県内への就職者は11名(17名)であり、就職者の約38%(43.6%)である。就職先業種は、右図(平成28～30年度の実績)に示すとおり、半数は、人間情報工学科の育成方針に沿った情報・通信業および製造業が中心であるが、公務員比率が他学科と比べて大きい。



人間情報工学科の就職・進路内訳
(H28～H30年度卒業生)

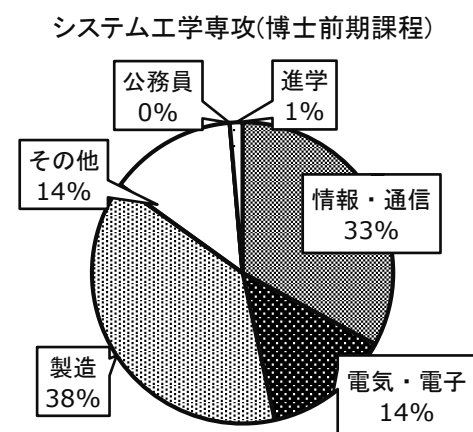
D. システム工学専攻(博士前期課程)

(1) 教育状況

システム工学専攻(博士前期課程)では、研究者あるいは技術者の立場から、高度情報化社会の中核となって産業社会の発展を支えていく人材、幅広い技術的基盤を基に「実システム」の創造的な設計ができる人材、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた人材、環境変化や産業構造の変化に柔軟に適應できる判断力とコミュニケーション能力を持つグローバル人材の育成を目指している。令和元年5月1日現在の在学者数は89名である。

(2) 就職・進学状況

システム工学専攻(博士前期課程)では、平成30年度(令和元年度)に42名(40名)が修了し、その内の40名(39名)が就職した。就職希望者に対する就職率は95.2%(97.5%)である。岡山県内への就職者は10名(3名)であり、就職者の25.0%(7.7%)である。就職先業種は、右図(平成28～30年度の実績)に示すとおり、システム工学専攻(博士前期課程)の育成方針に沿った情報・通信業、電気・電子および製造業が中心である。



システム工学専攻(博士前期課程)の
就職・進路内訳(H28～H30年度卒業生)

E. システム工学専攻(博士後期課程)

(1) 教育状況

システム工学専攻(博士後期課程)では、今後ますます多様化、複雑化する社会からの要請に応えるべく、公的研究機関のみならず民間企業において、情報系の学術分野を現実課題の解決に適應できる研究者及び高度専門技術者を養成することを目標に、専門領域の深化と統合を通じて、新たな問題を発掘し解決する能力を持つグローバル人材の育成を目指している。令和元年5月1日現在の在学者数は13名であり、その大部分は社会人である。

(2) 就職・進学状況

システム工学専攻(博士後期課程)では在学生の大部分が社会人のため、就職・進学状況は省略する。

2. 5-3 デザイン学部・大学院デザイン学研究科

優れたデザインは時代を映す象徴になり、時代を超えて支持される。デザイン学部では、本学の理念に沿う実学の体現者として、変化する社会のなかで、豊かな生活と新たな文化の形成に必要なデザイン力とマネジメント能力を備え、地域と世界に貢献できる人材の育成を目指している。大学院デザイン学研究科は、造形性に富み、多様化したデザイン環境に対応する高度な専門知識・能力・技術と総合的な視野を備えた、将来予想される問題を優れたデザインの創出により解決し、豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材の育成を目指している。

平成30年度には、83名が学部を卒業、4名が大学院(修士課程)を修了した。就職率は97.2%(大学院75.0%)で、このうち岡山県内への就職者は学部生27名(就職者の約38.6%)、大学院修了生1名となっている。令和元年度には、85名が学部を卒業、4名が大学院(修士課程)を修了した。就職率は93.3%(大学院100%)で、このうち岡山県内への就職者は学部生27名(就職者の約36%)、大学院修了生0名となっている。大学院への進学は景気の回復基調とともに減少傾向である。卒業生は、岡山県内のみならず、日本全国各地での活躍が期待されているが、近年、一般企業からの求人も多く、就職先業種は、一般企業の広報部門からデザインの専門職まで多岐にわたっている。中には、起業や作家活動をする卒業生・修了生もいる。今後とも、岡山県内だけでなく、日本全国あるいは世界に向けた信頼されるグローバルな活躍ができるデザイナーの育成に取り組んでいく。

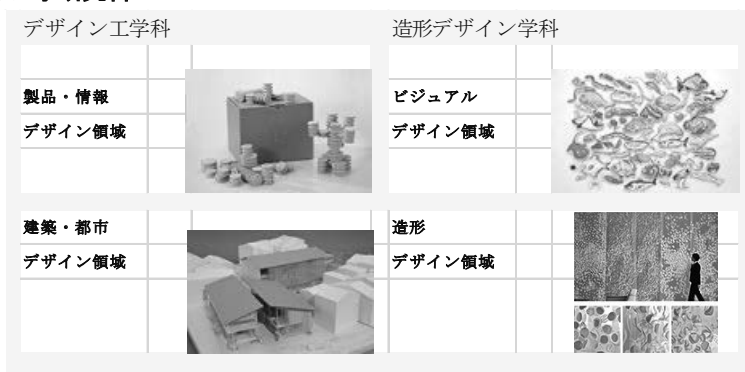
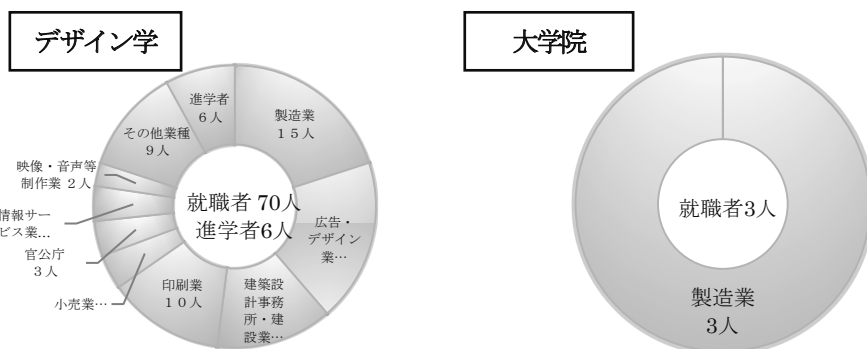


図 平成30年度卒業制作



図 平成30年度コンペ最優秀賞・修了制作



デザイン学部及びデザイン学研究科の就職・進路内訳 (平成30年度卒業)

A. デザイン工学科

(1) 教育状況

デザイン工学科では、共通教育に加えて、製品・情報デザイン領域あるいは建築・都市デザイン領域での専門教育により、これらの関社会の持続的発展のために、その能力を長きにわたって発揮できる、デザイナー・建築家等の実務担当者の育成を目指している。また、デザイン工学科では、本学卒業生を含むデザイナー・建築家・自治体関係者などを招いての授業や講演を数多く設定しているおり、実社会におけるデザインワークの体験的な理解を深めることを目指している。

(2) 就職・進学状況

平成30年度には、42名がデザイン工学科を卒業、就職率は100%で、このうち岡山県内への就職者は12名で就職者の約31%となっている。また、3名が大学院に進学した。令和元年度には、38名がデザイン工学科を卒業、就職率は97.0%で、このうち岡山県内への就職者は7名で就職者の約21%となっている。また、5名が大学院に進学した。

主な就職先は、都市部を中心に、製造業、情報サービス業のほか、印刷業、広告・デザイン業、官公庁まで幅広い分野への人材輩出を行っているが、近年の傾向として、県内の中堅企業への就職も増加している。

B. 造形デザイン学科

(1) 教育状況

造形デザイン学科では、共通教育に加えて、ビジュアルデザイン領域あるいは造形デザイン領域における専門教育により、素材の知識や技法の修得にとどまらず、デザインや造形を通してどう社会と関わっていくかまで企画提案するデザイン力やコミュニケーションを発揮できる、デザイナー・造形スペシャリスト等の実務担当者の育成を目指している。

また、造形デザイン学科では、地域との協働プロジェクトを授業課題に積極的に導入し、インターンシップ受入れ先を授業として開拓し学生に体験させるなど、専門的デザインスキルの向上やキャリアプランを強く意識させる場を多様なかたちで設け、将来を担うデザイナーとしての意識と能力向上を目指している。

(2) 就職・進学状況

平成30年度には、41名が造形デザイン学科を卒業、就職率は94.3%で、このうち岡山県内への就職者は15名(就職者の約45%)となっている。また、3名が大学院に進学した。令和元年度には、47名が造形デザイン学科を卒業、就職率は90.5%で、このうち岡山県内への就職者は20名(就職者の約48%)となっている。また、2名が大学院に進学した。

主な就職先は、都市部を中心に、広告・デザイン業、印刷業、映像・音声等制作業のほか、製造業、小売業まで幅広い分野への人材輩出を行っており、近年の傾向として、製造業、小売業への就職が増加している。

C. デザイン工学専攻

(1) 教育状況

デザイン工学専攻は、地域社会と産業界の要請に応えられる、高度な専門的知識・能力・技能をベースにした総合的な思考力を有する高度専門職業人として多様な価値創造が可能なデザイナー及び研究者の育成を目指している。

(2) 就職・進学状況

平成30年度には、2名が大学院(修士課程)を修了した。就職率100%で岡山県内への就職者は1名(50%)となっている。令和元年度も、2名が大学院(修士課程)を修了した。就職率100%で岡山県内への就職者は0名となっている。

D. 造形デザイン学専攻

(1) 教育状況

造形デザイン学専攻は、造形デザイン学の理論と技術を修得する教育研究を行い新たな造形デザイン構築において諸問題を総合的な視点から解決し、独創的で造形性豊かなデザイナー及び研究者を育成することを目指している。

(2) 就職・進学状況

平成30年度には、4名が大学院(修士課程)を修了した。就職率は75%で岡山県内への就職者は1名(33.3%)となっている。令和元年度も、4名が大学院(修士課程)を修了した。就職率は100%で岡山県内への就職者は0名となっている。

2. 6 その他の貢献

2. 6-1 各種委員等への派遣（行政関係以外）

本学における令和元年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区 分	教育機関	協議会・ 各種団体等	計
保健福祉学部	6	69	75
情報工学部	2	43	45
デザイン学部	3	12	15
合 計	11	124	135

本学における令和元年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区 分	教育機関	協議会・ 各種団体等	計
保健福祉学部	26	77	103
情報工学部	3	14	17
デザイン学部	1	7	8
合 計	30	98	128

本学における令和元年度の非常勤医師、非常勤講師及び役員の派遣の状況は、次のとおりである。

区 分	非常勤医師	非常勤講師	役 員	計
保健福祉学部	5	39	13	57
情報工学部	0	13	3	16
デザイン学部	0	13	0	13
合 計	5	65	16	86

2. 6-2 職員表彰

A. 学内表彰

本学の職員表彰規程に基づき、職務上の功績が顕著であった本学教職員29名が表彰され、1月21日に理事長(学長)から表彰状と記念品が授与された。

(1) 永年表彰

職名	名前	表彰理由	職名	名前	表彰理由
教授	井村 圭壯	勤続年数:26年	教授	山下 広美	勤続年数:26年
教授	川上 貴代	勤続年数:26年	教授	清水 恵	勤続年数:26年
教授	渡辺 富夫	勤続年数:25年6月	教授	金川 明弘	勤続年数:26年
教授	稲井 寛	勤続年数:26年	教授	大久保 賢祐	勤続年数:26年
教授	吉原 直彦	勤続年数:26年	教授	嘉数 彰彦	勤続年数:26年
教授	難波 久美子	勤続年数:25年	教授	村木 克爾	勤続年数:26年
教授	柴田 奈美	勤続年数:29年6月	教授	関崎 哲	勤続年数:29年
准教授	中島 伸佳	勤続年数:32年	准教授	坂本 豊和	勤続年数:26年
准教授	森下 賢幸	勤続年数:26年	准教授	市川 正美	勤続年数:25年
准教授	若林 秀昭	勤続年数:25年	准教授	朴 貞淑	勤続年数:26年
准教授	南川 茂樹	勤続年数:26年	准教授	北山 由紀雄	勤続年数:26年
准教授	島田 清徳	勤続年数:26年			

(2) 教育表彰

職名	名前	表彰理由
教授	吉原 直彦	平成5年4月1日の採用以来、学科・学部の教育改革に携わり、学科再編等に尽力された。特に「文部科学省選定取組」として平成22年「大学生の就職力支援事業」平成24年「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の2件の採択の申請および実施の中心としてデザイン学部の教育改革、本学の発展に尽くした功績は誠に顕著であった。

(3) 研究表彰

職名	名前	表彰理由
助教	芝 世式	コンピュータ将棋への人工知能の活用について研究を行い、第5回電王トーナメント準優勝、第28回世界コンピュータ将棋選手権優勝および第29回世界コンピュータ将棋選手権準優勝など、顕著な功績を上げ、本学の認知度向上に寄与した。

(4) 地域貢献表彰

職名	名前	表彰理由
教授	綾部 誠也	総社市、笠岡市等の自治体と県大コモンズキャンパス等に取り組むなど、非常に熱心に地域の人々のニーズを踏まえながら、本学で最も多く活動し、地域貢献に大きく寄与した。
COC+推進室長外所属職員	原英二	平成27年度の文部科学省「地(知)」の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択され以来、職員が一丸となって教育改革、産学連携、域学連携に取り組み、地域志向人材の輩出、持続的な雇用創出、魅力ある地域づくりにつなげるなど、教育研究を通じた地域貢献に顕著な功績をあげた。

(5) 国際貢献表彰

職名	名前	表彰理由
特任教授	阿部 淳二	平成24年4月の本学に着任以来、海外交流大学を積極的に開拓し、大学間MOU締結校を拡充、学生の海外研修制度の充実、留学制度に関する外部資金獲得への支援、国際交流センターの施設、整備に尽力し、本学における国際交流の発展に尽くした功績は誠に顕著であった。

(6) 環境改善表彰

職名	名前	表彰理由
総括副参事	小崎 敦史	長年の懸案であった売店のコンビニ化を実現するなど、学生の厚生施設の改善・充実を図ったほか、心身の問題により配慮を要する学生が増加傾向にある中、精神科学校医の確保や健康診断の実施体制を強化した功績は、他の模範となる顕著なものであった。

B. 学外表彰

保健福祉学部	特任教授	二宮 一枝	全国建築審査会協議会表彰
保健福祉学部	特任教授	二宮 一枝	ひまわり褒章2019 参加団体賞(母子保健関連)
保健福祉学部	准教授	新田 陽子	2020年度日本ビタミン学会奨励賞
保健福祉学部	准教授	岩満 賢次	国際公共経済学会 学会賞
情報工学部	准教授	石井 裕	Human-Agent Interaction 2019 (HAI2019) Best Poster Award
情報工学部	准教授	福田 忠生	第20回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 優秀講演賞
情報工学部	准教授	山内 仁	第20回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 優秀講演賞
デザイン学部	教授	向山 徹	日事連建築賞 小規模建築部門 優秀賞
デザイン学部	教授	村木 克爾	German Design Award 2020 (ドイツデザイン賞2020) Excellent Product Design カテゴリー、Utility Vehicles 部門 「Winner 賞」
デザイン学部	教授	村木 克爾	GOOD DESIGN AWARD 2019
デザイン学部	非常勤特任教授	塚本 カナエ	DFA Design for Asia Awards 2019 - Merit Award
デザイン学部	非常勤特任教授	塚本 カナエ	DEZEEN AWARD
デザイン学部	助教	林 秀紀	2019年度日本デザイン学会年間作品賞
デザイン学部	助教	林 秀紀	2019 日本感性工学会優秀発表賞
デザイン学部	教授	柴田 奈美	聖良寛文学賞

※職名は受賞当時のものです。

3. 県立大学の各組織での活動

- 3. 1 地域共同研究機構
- 3. 2 産学官連携推進センター
- 3. 3 地域連携推進センター
- 3. 4 社会連携教育推進室

3. 県立大学の各組織での活動

3. 1 地域共同研究機構

3. 1-1 体制

地域共同研究機構は、平成17年10月、県立大学の社会貢献体制を見直した結果、地域貢献活動を全学横断的に強力かつ効率的に推進するために発足した。発足以来、本学の教育研究活動を活性化し、地域社会や行政機関との連携を深め、地域産業の振興や福祉の充実を図るために様々な活動を行ってきた。また、地域連携推進センターを中心に、文部科学省のCOC+事業に併せて、本学と自治体との関係の強化に取り組んでいる。令和元年度地域共同研究機構の体制は、以下のとおりである。

所 属	役 職	氏 名	職 名	所 属 等
地域共同研究機構	機構長	佐藤 洋一郎	教授	人間情報工学科
	副機構長	高戸 仁郎	教授	保健福祉学科
		尾崎 公一	教授	情報システム工学科
		岩満 賢次	准教授	保健福祉学科
		原 英二	室長	COC+推進室
産学官連携推進センター	センター長	尾崎 公一	教授	情報システム工学科
	副センター長	田中 晃一	教授	栄養学科
		伊藤 信之	教授	情報通信工学科
		村木 克爾	教授	デザイン工学科
		井上 知章	室長	企画広報室
	運営委員	佐々木 純子	准教授	看護学科
		村 社 卓	教授	保健福祉学科
		横川 智教	准教授	情報システム工学科
		春木 直人	教授	人間情報工学科
		中西 俊介	准教授	造形デザイン学科
		武田 吉弘	C D	地域共同研究機構
地域連携推進センター	センター長	岩満 賢次	准教授	保健福祉学科
	副センター長	久保田 恵	教授	栄養学科
		石井 裕	准教授	情報システム工学科
		三原 鉄平	准教授	デザイン工学科
		原 英二	室長	COC+推進室
	幹 事	住吉 和子	教授	看護学科
		名越 恵美	准教授	看護学科(研究会担当)
		山本 孝司	教授	保健福祉学科
		若林 秀昭	准教授	情報通信工学科
		綾部 誠也	教授	人間情報工学科
		畠 和宏	助教	デザイン工学科
山下 万吉		准教授	造形デザイン学科	

所 属	役 職	氏 名	職 名	所 属 等
COC+推進室	室長	原 英 二	室 長	地域共同研究機構
	副室長	高 戸 仁 郎	教 授	保健福祉学科
	副室長 (総括コーディネータ)	犬 飼 義 秀	副室長	地域共同研究機構
	客員准教授	小 畑 千 晴	客員准教授	地域共同研究機構
	副参事	後 藤 大 輔	副参事	地域共同研究機構
	教育コーディネータ	笠 木 秀 樹	コーディネータ	地域共同研究機構
	産学コーディネータ	浦 上 良 巳	コーディネータ	地域共同研究機構
	域学コーディネータ	村 井 聡 紀	コーディネータ	地域共同研究機構
	事務職員	横 田 英 之	主 事	地域共同研究機構
社会連携教育推進室	室長	高 戸 仁 郎	教 授	保健福祉学科
	副室長	三 原 鉄 平	准教授	デザイン工学科
		駒 井 俊 彦	課 長	事務局 教学課
	運営委員	佐 藤 洋 一 郎	教 授	人間情報工学科
		樋 笠 勝 士	教 授	造形デザイン学科
		渡 辺 富 夫	教 授	情報システム工学科
		福 濱 嘉 宏	教 授	デザイン工学科
		岩 満 賢 次	准教授	保健福祉学科
都 島 梨 紗	講 師	栄養学科		

3. 1-2 重点領域研究

「人間尊重と福祉の増進」という本学建学の理念、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」という教育研究の理念に基づいて、平成19年度から、研究と社会貢献活動のレベルアップを目指した異分野複数教員の連携による「領域・研究プロジェクト」活動を推進してきた。平成29年度から「重点領域研究」と名称を改め本学として設定した「健康・福祉」、「地域・環境」、「モノ・コトづくり」の3重点領域を設定し、令和元年度は次の7研究を推進した。

令和元年度「重点領域研究」

領 域	■プロジェクト名、「研究課題」	内 容
	メンバー(○:代表者)	
健康・福祉	<p>■カリキュラムワーキング 「ヒューマンケアリングを中心としたカリキュラムの作成」 ○住吉和子 渡辺富夫、関根紳太郎、森本美智子、岡崎愉加、名越恵美、井上幸子、山形真由美</p>	<p>本学看護学科では、「ヒューマンケアリング」の担い手を育成することを掲げている。そこで今回は、「ヒューマンケアリング」を科目として学習したのちに、講義・演習・実習を通して継続的に学ぶことができるカリキュラムの構築を目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現カリキュラムとヒューマンケアリングについての関係の明確化。 2. 日本看護系大学協議会で求められているモデル・コアカリヤコンピテンシーとの比較。 3. ヒューマンケアリングを教授する科目と内容、評価方法の検討。 4. 「ヒューマンケアリング」講演会の主催。 5. 看護界を牽引している先生方から理念をカリキュラムに反映する講義の依頼。

領域	■プロジェクト名、「研究課題」	内 容
	メンバー(○:代表者)	
健康・福祉	<p>■第2段階に達した高齢社会に対する栄養・腸内環境からのアプローチ 「高齢者施設における栄養・腸内環境とフレイルの関係」</p> <p>○入江康至、井上里加子、原野かおり、平松智子、綾部誠也、佐藤ゆかり</p>	<p>平成30年ついに後期高齢者の人口が前期高齢者を上回り、高齢化は新たな段階に突入した。本研究では、後期高齢者において頻度が高く、また老衰(フレイル)とも強く関連する便秘・認知症・心不全に着目し、アンケート・食事調査・身体組成測定・血液検査・心エコー・次世代シーケンサーによる腸内細菌叢解析などの手法を用いて栄養状態・認知機能・腸内環境の関わりを検討する。</p>
健康・福祉	<p>■生活習慣改善に伴う身体の応答・適応の評価 「地域連携を基盤とする生活習慣改善に伴う身体の応答・適応の評価を目的とする介入試験」</p> <p>○綾部誠也 齋藤誠二、大山剛史、入江康至、久保田恵、住吉和子、井上里加子</p>	<p>本研究は、地域課題を科学的根拠の実践により解決することを目指すものであり、本学の高度な専門知識をもって高齢化や医療費高騰などの健康福祉分野の我が国の喫緊の課題解決に貢献できるエビデンス創出を目指す。本研究は、「ヒトを対象とする比較対照介入試験」を実施することにより、信頼性の高いエビデンスが得ることを特徴とする。</p>
地域・環境	<p>■NBGR 研究会 「岡山の自然資源を活用した多世代交流拠点の創生:キャンパス内緑地における自然教育プログラムの開発」</p> <p>○坂野純子 難波久美子、沖本克子、関根紳太郎、名越恵美、デスマレス・エリック、澤田陽一、畠和宏、渡辺富夫</p>	<p>本研究は、スウェーデンの農業科学大学と連携して、岡山の豊かな自然を「資源」として捉え、学生及び多様な市民の健康増進、教育等へ活用するための教育プログラムを開発し、その効果を科学的に検証することを目的とする。</p> <p>本研究成果の展望として、学際的かつ実践的教育プログラムの開発、多様な市民の社会参加の促進、農福連携等の機能が期待できる。</p>
モノ・コトづくり	<p>■ai-Okayama 2019 「ai-Okayama Society 5.0 インテグレーションコア」</p> <p>○岩橋直人 菊井玄一郎、中村光、忻欣、齋藤美絵子、杉村藍、山崎大河、芝世式、但馬康宏、ブルネリ・アンソニー</p>	<p>本研究の目的は、岡山において Society 5.0 を産学で共創するための学術的なコアを構築することである。昨年度実施した重点領域研究『岡山県産業振興のためのディープラーニングの研究』で築き上げた岡山人工知能産学連携基盤(ai-Okayama 2018)を分野横断的に展開する。</p>
モノ・コトづくり	<p>■身体的コミュニケーション技術 「人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術」</p> <p>○渡辺富夫 佐藤洋一郎、石井裕、伊藤照明、西田麻希子、高林範子、小川浩基(インタロボット/コアテック)、Irimi Giannopulu (Bond 大学)</p>	<p>うなずきや身振りなどの身体的引き込みをロボットやCGキャラクタのメディアに導入することで一体感が実感できる身体的コミュニケーション技術と、メディアの場にはたらきかけることで場を盛り上げる身体性メディア場の生成・制御技術を開発展開・統合・実用化して、生活基盤システム・環境としての本格的な感情移入インタフェースを構築する。</p>
モノ・コトづくり	<p>■デジタルエンジニアリング 「ものづくりを支援する数値解析法に関する研究」</p> <p>○尾崎公一 末岡浩治、佐藤洋一郎、村木克爾、福田忠生、山内仁、滝本裕則、金崎真人</p>	<p>複数分野の解析技術を融合して高いレベルの実学を創造するとともに、地域企業の解析ニーズに応えることを目的とする。さらには、新たな数値解析技術を開発し、実用化することも目指す。</p> <p>本年度は、次の4つのサブテーマに取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 材料試験分野における画像計測への適用 2. 演算時間性能向上に向けた改良 3. 超解像度用画像エンジンへの適用 4. 3次元姿勢変化観測における変形対応法の検討

3. 1-3 OPUフォーラム2019

教員の研究紹介や地域の企業・団体・市民との交流促進を目的として、毎年開学記念日頃に OPU フォーラムを開催している。令和元年度は「食とくらしの再発見」をテーマとし、本学講堂、体育館において、特別講演、研究ポスター展示、健康測定・体験コーナー、地域の食コーナーなどが行われ、約 1,100 名の来場があった。

○開催概要

日時 令和元年5月29日(水) 13:00～17:00

テーマ 食とくらしの再発見!

プログラム

■特別講演会 13:10～14:10(講堂)

演題:「個別健康の最大化へ向けて」

講演者:国立研究開発法人 理化学研究所 渡辺恭良 氏

■研究展示会 14:20～17:00 (体育館)

展示数 172 件(教員研究 128 件,企業・団体 30 件,その他 14 件)

■健康測定・体験コーナー 14:20～17:00 (体育館)

9コーナー(骨密度測定、体組成測定、口腔水分測定、ストレスチェック、育児体験、妊婦体験等)

■地域の食コーナー 11:00～売り切れまで(野外 10 テント)

OPU フォーラム 2019 展示テーマ一覧

区分	No	テーマ名	担当者名
健康・福祉・介護	1	そうじゃ健康応援プロジェクト:片山工業(株)・総社市との産学官連携事業	綾部誠也、齋藤誠二、大山剛史、井上里加子 他
	2	思春期男子の性に関する健康支援—悩み解消に向けた性教育プログラムの開発と評価—	岡崎愉加、川下菜穂子
	3	ヒトへの応用に向けた酢酸塩による肥満抑制効果の検討	丸田ひとみ、山下広美
	4	地域住民の健康寿命の延伸のための高血圧予防支援の検討	久保田 恵
	5	高齢社会に対応した健康寿命の延伸のための栄養学的支援の検討	久保田 恵、井上里加子、平松智子、綾部誠也 他
	6	運動介入による腸内環境への影響	井上里加子、綾部誠也、久保田 恵、入江康至
	7	高齢者の溜め込み傾向と関連する遂行機能の探索	澤田陽一
	8	県北地域の高齢者の健康を促進する地域力の要素と機能に関する研究	坂野純子、澤田陽一、上田篤嗣、矢嶋裕樹
	9	市営住宅における高齢者の健康を促進するプログラム実践および住民生活調査	坂野純子、澤田陽一
	10	家族介護者の介護離職の意向別にみた職場や仕事の特徴	桐野亘史
	11	若年性認知症者の経済支援における介護支援専門員の援助要請意向に関する研究	竹本与志人、杉山 京、仲井達哉、倉本亜優未 他
	12	介護福祉士が行う医療的ケアの実態と支援体制整備に関する研究	佐藤ゆかり、原野かおり、松田実樹、岡山県介護福祉士会調査研究委員会
	13	生活困窮者の福祉教育の実態に関する研究	岩満賢次
	14	生活困窮者自立支援制度の就労訓練事業者のコミショニング体制に関する研究	岩満賢次
	15	過疎地域におけるコミュニティアイデンティティの維持・強化に関するアクションリサーチ:鳥取県智頭町の事例	樂木章子
	16	韓国における不登校の子どもに対する体験活動支援に関する研究	近藤理恵

区分	No	テーマ名	担当者名
健康・福祉・介護	17	岡山県放課後児童クラブにおける支援プログラムの構築	周防美智子
	18	県行政史料『社会事業要覧』における施設・団体形成史研究－富山県を事例として－	井村圭壯
	19	世代間交流音楽活動が大学生の自己成長感に与える影響－事後アンケートの分析結果から－	大倉高志、坂野純子、岡崎順子
	20	歩行中の足部形状の変形	齋藤誠二
看護・医療	1	安全な手術看護を目指して ～腹腔鏡下手術に対する安全な看護法の確立～	高橋 徹、徳山葉月
	2	冷電法による皮膚からの熱移動と皮膚温度の変化	荻野哲也
	3	血圧測定のエビデンスを探索する基礎的研究 ～コトコフ音を可視化して分析する～	佐々木新介
	4	分娩介助技術習得におけるタブレット型端末を利用した学習効果の検証	川下菜穂子、岡崎愉加
	5	Audience Response System (クリック)を用いた双方向型授業の導入	佐藤美恵、高林範子
	6	身体性アバタを介したリフレクションによる看護コミュニケーション教育支援システム	高林範子、渡辺富夫、石井 裕
	7	就労がん患者の職務満足感に影響を及ぼす要因について	井上幸子、佐藤鈴菜
	8	在宅緩和ケアに関する訪問看護師の困難感と多職種連携に関する研究	名越恵美、山形真由美、後藤瑞貴
	9	糖尿病患者のセルフケア向上のための看護システム構築の試み	住吉和子、高林範子
	10	脳卒中患者の家族における統御力の獲得プロセスに関する研究	犬飼智子
	11	看護師の倫理的環境と倫理的問題	實金 栄、井上かおり、小薮智子、竹田恵子 他
	12	健康高齢者の事前意思表示への関連要因の検討	井上かおり、實金 栄
	13	総社市の要介護認定の適正化に関する介入研究	佐々木純子、河田恵子、川添佳奈、林 直方
	14	産後1か月の母親の睡眠の質は産後4か月のマタernalボンディングを予測できるか	池田理恵、笹尾由香
	15	乳幼児をもつ親の注意欠如・多動症(AD/HD)傾向と育児困難・育児支援に関する基礎的研究	網野裕子、沖本克子
	16	小児・思春期発症糖尿病患者の病気の開示に関する研究	沖本克子、網野裕子
	17	リポキシゲナーゼを標的とした非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)の新規予防法開発を目指す基礎研究方法	高橋吉孝、川上祐生、山本登志子
	18	外来糖尿病患者の健康状態と食生活との関連	平松智子、倉奥咲都子
	19	在宅医療の質に関する在宅医療従事者への意識調査	井上祐介
	20	失語症者における保続症状の発生とその抑制に関する研究	中村 光、京林由季子
食品・生活	1	高齢ラット骨格筋の萎縮に対する酢酸の効果	山下広美、川上貴代、入江康至、丸田ひとみ
	2	エラジタンニン代謝物の生体内挙動研究	伊東秀之、新實祐理、森 彩夏、岩岡裕二
	3	ピーナッツ種皮の機能性ポリフェノール成分	伊東秀之、細川夏菜乃、仲田 正
	4	アスコルビン酸由来の褐変物質とその中間体の抗酸化作用および神経突起形成促進作用	岩岡裕二、伊東秀之
	5	熱帯果樹の葉に含まれる成分による5-リポキシゲナーゼ阻害効果に関する研究	川上祐生、桐岡佐妃、山本登志子、高橋吉孝
	6	赤米プロアントシアニンによる5-リポキシゲナーゼ活性阻害と乾癬予防効果	戸田圭祐、伊東秀之、高橋吉孝、山本登志子 他

区分	No	テーマ名	担当者名
食品・生活	7	乳汁中生理活性脂質と乳腺炎との関係	山本登志子、長崎祐樹、岡崎愉加、高橋吉孝 他
	8	急性肝炎モデルにおけるジオスゲニンの抗炎症効果	津嘉山泉、川上祐生、高橋吉孝、山本登志子 他
	9	高齢者における米麹甘酒摂取による腸内環境への影響	入江康至、井上里加子、平松智子、綾部誠也
	10	若年世代の野菜摂取に関する研究	川上貴代、平松智子、田淵真愉美、久保田 恵
	11	米粉を利用した加工品の基礎的および応用的研究	田中晃一、伊東秀之、山下広美、久保田 恵 他
	12	高LDLコレステロール血症を改善する新規酵母の探索	田中晃一、澤田侑季、吾郷奈津子、萩原 歩
	13	おかやま県におけるブドウ栽培の温室の調査	福濱嘉宏
デザイン	1	英語による拡張現実インターネットサイトの設計に関する研究	ブルネリ・アンソニー
	2	シザーズ構造を用いた展開型角柱の静的荷重に対する構造特性	津田勢太、河野純平
	3	板倉構法による木造仮設住宅の再利用に関する研究-岡山県総社市での移築建設を例に-	畠 和宏
	4	尿失禁ケア用品主観的満足度尺度の開発とデザイン評価への適用	三原鉄平
	5	籐素材を使用したインテリア商品デザインの研究	三原鉄平
	6	間伐材を使用した造形物のサイズ変更によって生まれた新たなプロダクト展開の研究	南川茂樹
	7	教育効果のある木育玩具の研究開発	林 秀樹
	8	シルクスクリーンプリント技法を扱った演習科目の指導方法について	岡本汐加
	9	自社製品の開発を目指すものづくり企業を支援する実践的共同研究	村木克爾、山下明美、ブルネリ・アンソニー、三原鉄平 他
	10	総社市役所 来庁記念 AR 写真撮影システムの構築	齋藤美絵子、中村義弘、関藤克城
	11	蒲鉾店のビジュアル・アイデンティティの開発	西田麻希子
	12	景観デザインの形成要素としての社会インフラの機能転換手法の研究	助川たかね
	13	動物を対象とした高精細写真によるスティッチングに関する研究	北山由紀雄
	14	岡山県立大学附属図書館における映像プロモーションの活用～スマホを用いた撮影について～	山下万吉
	15	参加型デザインで制作する学校の記念碑	作元朋子
	16	勝央町の『勝ブランド』における、シンボルマーク・ロゴタイプを中心としたVIデザインの共同研究	野宮謙吾
	17	総社の水道パンフレットの作成	中西俊介
ものづくり技術	1	スタジアム形微小共振器のモード解析に関する研究	福嶋丈浩
	2	メタルスリットアレイ積層構造への誘電体の挿入効果	徳田安紀、坂口浩一郎、渡辺将伍 他
	3	音響メタマテリアルを用いた導波路の伝搬音遮断に関する検討	坂口浩一郎
	4	マイクロ波加熱のための 5.8 GHz 帯同軸線路型反応チャンバーの設計・解析	岸原充佳、漆原弘之
	5	パワーデバイス用大口径 CZ-Si 結晶の開発に関する基礎研究	末岡浩治、土屋大輝、山本秀和 他
	6	電力用変圧器の設計手順に遺伝的アルゴリズムを用いた機器定数推定	徳永義孝

区分	No	テーマ名	担当者名
ものづくり技術	7	ものづくりを支援する数値解析法に関する研究	尾崎公一、末岡浩治、佐藤洋一郎、福田忠生 他
	8	炭素およびシリコン粉末を予混合射出成形したマグネシウム合金の特性評価	福田忠生、山添照之 他
	9	自動車運転時におけるドライバーの心身状態の推定	穂苅真樹
	10	UA セルを用いたプロトタイプシートの構築と有用性の検討	大田慎一郎
	11	熱エネルギー輸送技術の高効率化に関する研究	春木直人
	12	圧電素子の焦電効果を用いた呼吸数検出法	吉田智哉
	13	「鳴るボトル」プロジェクト: 古代アンデスの笛付き土器の X 線 CT 分析、レプリカ製作と実験	真世士マウ
IT	1	深層学習と顔特徴を用いた写真を対象とした審美性推定に関する研究	滝本裕則、山内 仁、金川明弘、泉水長門 他
	2	深層学習を用いた動画像からの病害虫検出と識別	滝本裕則、金川明弘、葛原宏章、佐藤安弘
	3	岡山県産業振興のための人工知能基盤創成	岩橋直人 他
	4	ブロックチェーン技術とその応用	國島丈生
	5	エネルギーハーベスト技術を利用するコグニティブ無線の安定性に関する研究	榊原勝己、高林健人
	6	車間無線アドホックネットワークにおける不正車両の検出とその対策に関する研究	高林健人
	7	高速かつ高効率なデータ伝送システムに関する基礎研究	稲井 寛、若林秀昭、荒井 剛 他
	8	ジャイレータを用いた非可逆右手/左手系複合伝送線路の検討	大久保賢祐
	9	高周波発振器の高性能化に関する研究	伊藤信之
	10	高データレートに対応する高周波増幅器に関する研究	伊藤信之
	11	動的再構成を用いた並列処理プロセッサに関する研究	森下賢幸 他
	12	ZYNQ プロセッサにおけるハードウェアライブラリに関する研究	小椋清孝
	13	人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術	渡辺富夫、石井 裕、西田麻希子、高林範子 他
	14	アバタコミュニケーション場における身体的インタラクション設計	石井 裕
	15	組込みシステムの低消費電力化と高信頼化に関する研究	有本和民、横川智教
	16	「ロボットは東大に入れるか？」—深層学習で入試問題を解く—	菊井玄一郎
	17	コンピュータ大貧民のアルゴリズム	但馬康宏
	18	ソフトウェア要件管理の効率化に向けた技術開発に関する研究	天寄聡介
	19	世界最強のコンピュータ将棋プログラム	芝 世式
	20	内視鏡を用いた医用画像における管径可視化手法の高速化	佐藤洋一郎、上田 満 他
	21	定常状態観測に基づく異常検知システムにおける深層学習適用に関する研究	山内 仁
	22	高齢者の ITC 活用を助けるユーザーインターフェース研究	石 王美
教育・文化・地域づくり・スポーツその他	1	地域との協働による認知症カフェの実践	二宮一枝、親雅子、光山由美子、森 亮介 他
	2	看護師が臨床判断能力を向上する過程	名越恵美、犬飼智子、津曲真弥
	3	グローバルコミュニケーションの理論と実践—基礎的研究としてのヘルスケアコーパスの構築、分析、評価	関根紳太郎

区分	No	テーマ名	担当者名	
文化・地域づくり・教育・スポーツ・その他	4	地域においてどのような学びを得ているのかー正課外におけるNPOと協働した食堂運営活動を事例として	都島梨紗	
	5	被災地域の子どもの安心・安全な居場所提供事業に参加した学生ボランティアの学び	中野菜穂子、京林由季子	
	6	保育者による幼児の仲間関係の評定に関する検討	京林由季子、新山順子、中村 光	
	7	「学校問題」をめぐる「言説と実在化」研究:「いじめ問題」の言説空間	池田隆英	
	8	保育者の協働性と意図的保育から保育者の資質向上を考える-園内省察会を通して-	樟本千里	
	9	学生主体の海外研修活動がもたらす教育効果	趙 敏廷、原野かおり	
	10	外国籍の子どもの教育・保育の質を保障する支援体制構築に関する基礎的研究	柏 まり、佐藤和順	
	11	現代舞踊の対話的鑑賞方法の開発と実践ー現代舞踊公演「DANCE ALIVE」の挑戦ー	新山順子、岡本悦子	
	12	英語プレゼンテーション練習のための Web 教授法および評価法研究	杉村 藍	
	13	バナッハ空間の幾何学的定数の研究	三谷健一	
	14	吊台上のメロノームの同期現象:モデルパラメータの同定と実験検証	泉 晋作、忻 欣、山崎大河	
	15	非可換環の強準分離拡大	小松弘明	
	16	人間の運動制御機構のモデル化に関する研究	山崎大河、忻 欣、泉 晋作	
	17	劣駆動ロボットの制御系の新たな設計と解析法	忻 欣、山崎大河、泉 晋作	
	18	良いユーザーインターフェースのための明度に対する反応の左右差	大山剛史	
	19	スリランカ新国会議事堂の成立過程と設計手法に関する研究	岩本弘光	
	20	歴史的町並みの空き家活用による地域再生ー陣屋町足守「旧薬局・野崎邸」の活用ー	西川博美、朴 貞淑 他	
	21	地域資源を活かした持続可能なコミュニティの実現に向けてII	朴 貞淑	
	22	版を用いた表現の今日的意義ー幼児造形における版表現ー	関崎 哲	
	23	大学と文化施設による地域文化力を育む「連携型プログラム」の実践研究	島田清徳、難波久美子、真世土マウ、作元朋子 他	
	教育力向上支援事業	1	SBARを用いたシミュレーション演習プログラムの作成	名越恵美、犬飼智子、井上かおり、網野裕子 他
		2	看護アセスメント力向上のための看護理工学の導入 第I期	實金 栄、佐々木新介、池田理恵、沖本克子 他
		3	韓国又松大で校での調理実習を通じたグローバル教育の推進	新田陽子、趙 敏廷
4		「岡山創生学」科目としての保健福祉学部「チームガバナビリティ演習」の展開	中村 光、住吉和子、平松智子 他	
5		保育士養成課程の見直しに対応した岡山県立大学モデル・カリキュラムの開発	新山順子、中村 光、佐藤和順、岡崎順子 他	
6		建築学科(仮称)の教育体制構築に向けた課題調査	津田勢太、福濱嘉宏、西川博美、島 和宏 他	
7		デザイン学科(仮称)におけるDP・CP達成に関する教育状況調	野宮謙吾、益岡 了 他	

区分	No	テーマ名	担当者名
学 生 成 果 発 表	1	英語を学び・英語であそぶ子どもたちと創ろう“夏の英PLAY イベント”	
	2	こども造形ひろば・特別講座	
	3	地域の豊かな生活を創るイベント「あかりおひろい」魅力化プロジェクト	
	4	若者から見た白石島の魅力を発信するためのWEB 素材作成	
	5	漁業・海洋資源を生かした NEW ブランの提案	
	6	片山盆踊りの復活に向けて	
	7	木山寺発展プロジェクト	
	8	学生支援団体PZL	
企 業 ・ 団 体 展 示	展 示	(株)英田エンジニアリング、(株)アステア、井原精機(株)、(株)H+B ライフサイエンス、コアテック(株)、興南設計(株)、国立循環器病研究センター、松陽産業(株)、(株)中国銀行、(株)テオリ、東洋羽毛中四国販売(株)、萩原工業(株)、(株)ハローズ、備前化成(株)、富士ベークライト(株)、(株)フジワテクノアート、円岩盤石開発センター(株)、総合病院水島協同病院、(株)みゆきやフジモト、ユアサシステム機器(株)、勇心酒造(株)、ローム・ワコー(株)、岡山リサーチパークインキュベーションセンター、岡山県、赤磐市、岡山市、笠岡市、総社市、備前市、真庭市	
	地 域 の 食	ココ Deli Returns(岡山県立大学栄養学科)、お好み焼 三枝(みえ)、矢掛家具センター、総社地食パ公社、にいみ茶屋、お好み焼きあつちゃん、片山工業(株)、NPO 法人あゆみの会、備前の夢、あかいやんせ	

《開催の様子》



3. 1-4 情報発信

社会貢献活動の展開においては、本学の研究シーズ等の外部への発信と学内の教員等の情報入手・共有が極めて重要となる。本年度は、以下の取り組みを行った。

(1) 県内での情報発信の取り組み

研究シーズ等の情報発信では、各種産学連携イベントで積極的に行っている。教員の研究シーズを発信したものとしては、次のとおりである。

本年度は、3つのイベントで8件の発信を行った。

県内での産学連携イベント等での研究シーズ情報発信(学会等の発表を除く)

第10回 川崎医科大学 学術集会	
日時: 令和元年8月3日(土) 10:30~15:30	
場所: 川崎医科大学 講義室	
乳幼児期に発症した1型糖尿病の子供が小学校に入学する際の親の心配・困難とその対処	沖本 克子 教授
ウェアラブルモニタへの応用を鑑みた橈骨動脈及び指の脈波に基づく生理的ストレス評価の妥当性	綾部 誠也 教授

第24回岡山リサーチパーク研究・展示発表会	
日時: 令和元年12月17日(火) 13:00~16:30	
場所: テクノサポート岡山(岡山市北区芳賀5301)	※印は口頭発表者
粉末予混合射出成形法によるマグネシウム合金の機械的特性向上	尾崎 公一 教授
米粉の低価格化と普及に向けた取り組み	※ 田中 晃一 教授
ゆらぎによる無疲労型LED照明	伊藤 照明 教授

KMSメディカルアーク2020 with MTO	
日時: 令和2年2月6日(木) 10:00~17:00	
場所: 川崎医科大学附属病院 本館	
サーモグラフィを用いたバスキュラーアクセス描出に関する探索的研究	佐々木新介 准教授
アイトラッキング機能を付加した看護コミュニケーション教育支援システム	高林範子助教、渡辺富夫教授、石井裕准教授
視覚障害者が道路横断開始時に利用する歩行方向情報を提供するための触覚手がかりの開発	高戸 仁郎 教授

(2) 県外での情報発信の取り組み

本年度は、2つのイベントで3件の発信を行った。

イノベーション・ジャパン 2019	
日時: 令和元年8月29日(木)30日(金)	
場所: 東京ビッグサイト 青海展示棟Bホール(仮説展示棟)	※印は口頭発表者
人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術	※ 渡辺 富夫 教授
低価格米粉の特性を活かした食品の開発	田中 晃一 教授

2019年度 第3回ヘルスケア・医療福祉機器技術研究交流会	
日時: 令和元年11月18日(月)	
場所: 広島県民文化センター 5F 大講義室	※印は口頭発表者
輸入・新興感染症から医療従事者を守るための改良型感染防護具の開発	※ 森本 美智子 教授

3. 2 産学官連携推進センター

3. 2-1 企業等と連携した研究活動

令和元年度の実績は、共同研究 50 件(24,301 千円)、受託研究 16 件(40,049 千円)、教育研究奨励寄付金等 44 件(18,270 千円)であった。

令和元年度の目標は、共同研究、受託研究と教育研究奨励寄付金等の合計値で、件数 115 件以上、金額 80,000 千円以上のいずれかの達成であり、実績は件数 110 件(達成率 95%)、金額は 82,620 千円(達成率 103%)と辛うじて目標達成し、成果指標※1は[3]であった。

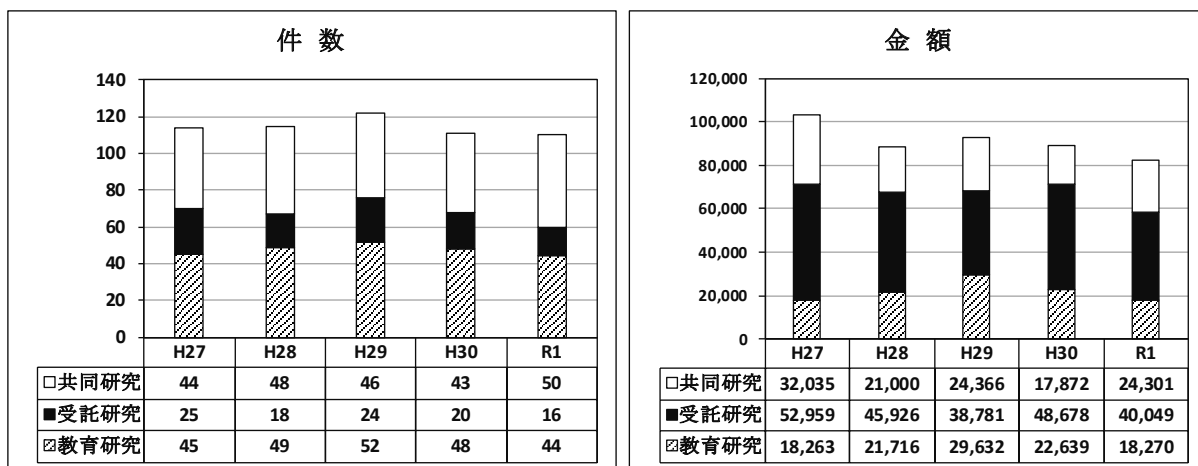
第 4 四半期は新型コロナウイルスの影響もあり経営環境は厳しく、コーディネータへの相談も減少傾向であり共同研究又は受託研究に繋がるものは依然として多くない。

学内全体・学部別実績は下表のとおりである。今後とも、地域に根ざした大学としての本学の存在感を出すべく、活発な産学官連携活動を進めるとともに、相談に対して『数居の低い大学』として地元企業に認められるよう、岡山県立大学協力会との協働、金融機関等の紹介を得て、積極的な努力をしていく必要がある。



共同研究の様子

共同研究、受託研究、教育研究奨励寄付金の実績



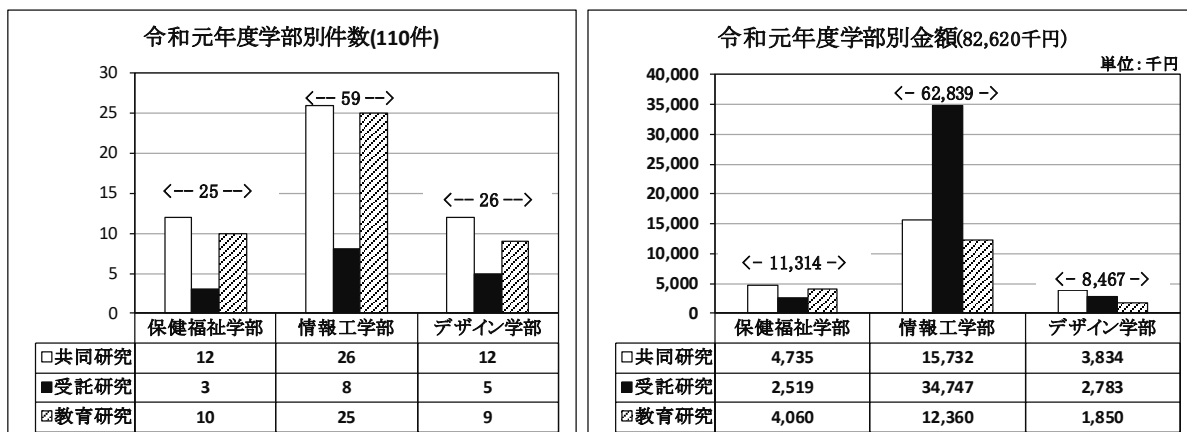
※1 成果指標

[4] … 130 件以上 又は 100,000 千円以上

[3] … 115 件以上 又は 80,000 千円以上 100,000 千円未満

[2] … 115 件未満 又は 80,000 千円未満

学部別実績



(1) 共同研究

産学官連携推進センターは普段から自治体、支援機関、金融機関、経済団体等が主催する各種交流会、セミナー及び展示会に参加することにより企業ニーズを探求してきた。近年、金融機関が産学金官の連携に注力していることから、紹介件数が増えている。各教員の学会活動や企業との交流会などの地道な努力により、本年の共同研究は50件・24,301千円であった。なお、過去5年間の平均は46.2件・23,914千円である。

(2) 受託研究

公的機関からの委託研究や民間企業と共同で公的競争的資金獲得に基づくものが多く、今年度は16件・40,049千円。内、公的機関12件・37,549千円、民間企業4件・2500千円であった。なお、過去5年間の平均は20.6件・45,278千円である。

(3) 教育研究奨励寄附金等

教育研究奨励寄附金は外部の企業・団体から本学の教育・研究奨励のために寄付されるもので、本学の日ごろの社会貢献活動が反映されているとも言える。また、本件数には各種財団の助成金を含んでおり、本年度は44件・18,270千円であった。なお、過去5年間の平均は47.6件・22,104千円である。

(4) 外部競争的資金への応募支援

産学官連携推進センターのコーディネータが関与する外部競争的資金としてはJST(科学技術振興機構)のA-STEP支援(試験研究並びに実証研究)、中国地域創造研究センターの新産業創出研究会などがある。

3. 2-2 アクティブ・ラボ

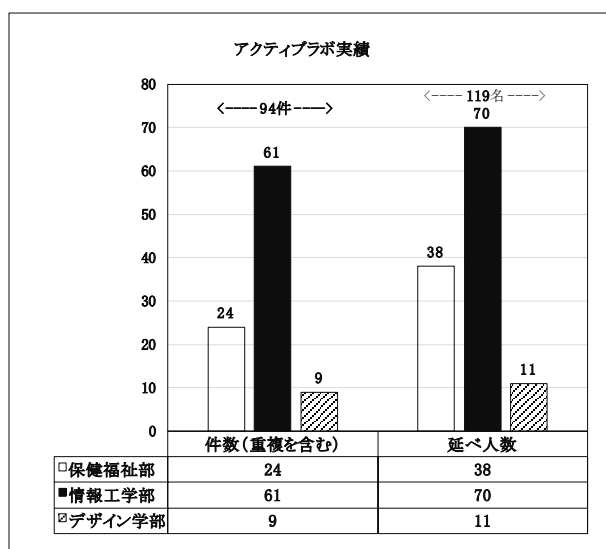
アクティブ・ラボ(出前研究室)は教員、コーディネータが企業・団体に出向き、また企業・団体が来学され、本学研究シーズの紹介並びに訪問先企業の抱えている課題のヒアリングや情報交換を行う場で、地域社会に役立つ実学を行う場として位置づけられている。訪問先または来学先は日常的な技術相談や産業支援機関・金融機関からの紹介で決まる場合が多いが、今年度は10月より本学協力会員企業48社を1年間を目途に訪問することで前向きにアクティブ・ラボを推進している。事前に企業情報を入手して概略の把握をしてから訪問している。訪問先で意見交換をする中でニーズとシーズがマッチして共同研究や受託研究に至るケースもある。



アクティブ・ラボ実施状況

実績は78件の訪問(ただし、同一企業への複数回の実施については1回として)で、延べ119名の教員が参加した。学部別では保健福祉学部が24件・延べ38名、情報工学部が61件・延べ70名、デザイン学部が9件・延べ11名であった。参加した教員の実数が全教員の20%程度であり、今後の共同研究の拡大のためには、参加教員数の増加が必須であると考えられる。

学部別実績



令和元年度 アクティブ・ラボ実績

(凡例) (保):保健福祉学部、(情):情報工学部、(デ):デザイン学部

No.	訪問日	教員名	No.	訪問日	教員名	No.	訪問日	教員名
1	4/02(火)	尾崎公一 教授(情)	27	6/21(金)	佐藤洋一郎 教授(情)	51	10/11(金)	佐藤洋一郎 教授(情)
		福田忠生 准教授(情)			山内仁 准教授(情)	52	10/11(金)	佐藤洋一郎 教授(情)
2	4/03(水)	佐藤洋一郎 教授(情)	28	6/28(金)	滝本裕則 准教授(情)	53	10/11(金)	佐藤洋一郎 教授(情)
		山内仁 准教授(情)			入江康至 教授(保)	54	10/15(火)	伊藤信之 教授(情)
		滝本裕則 准教授(情)			井上理加子 助教(保)	55	10/18(金)	尾崎公一 教授(情)
3	4/03(水)	山内仁 准教授(情)	29	6/28(金)	山本登志子 教授(保)	56	10/18(金)	尾崎公一 教授(情)
		滝本裕則 准教授(情)			津嘉山泉 助教(保)	57	10/18(金)	尾崎公一 教授(情)
4	4/04(木)	福田忠生 准教授(情)	30	7/01(月)	國島丈生 准教授(情)	58	10/31(木)	春木直人 教授(情)
5	4/08(月)	末岡浩治 教授(情)			滝本裕則 准教授(情)	59	11/12(火)	伊藤信之 教授(情)
6	4/09(火)	尾崎公一 教授(情)	31	7/02(火)	田中晃一 教授(保)	60	11/12(火)	伊藤信之 教授(情)
7	4/10(水)	尾崎公一 教授(情)			田淵愉美 准教授(保)	61	11/20(水)	佐藤洋一郎 教授(情)
8	4/12(金)	尾崎公一 教授(情)	32	7/03(水)	野宮謙吾 教授(デ)	62	11/22(金)	尾崎公一 教授(情)
9	4/16(火)	林秀紀 助教(デ)	33	7/03(水)	末岡浩治 教授(情)	63	12/03(火)	尾崎公一 教授(情)
10	4/17(水)	末岡浩治 教授(情)	34	7/05(金)	入江康至 教授(保)	64	12/13(金)	春木直人 教授(情)
11	4/19(金)	大田慎一郎 准教授(情)			井上理加子 助教(保)	65	12/13(金)	春木直人 教授(情)
		高戸仁郎 教授(保)	35	7/10(水)	末岡浩治 教授(情)	66	12/13(金)	春木直人 教授(情)
		吉田智哉 助教(情)	36	7/24(水)	佐々木純子 准教授(保)	67	1/14(火)	田中晃一 教授(保)
12	4/24(水)	末岡浩治 教授(情)	37	7/25(木)	福田忠生 准教授(情)			我如古菜月 助教(保)
13	4/26(金)	田中晃一 教授(保)	38	8/01(木)	山内仁 准教授(情)	68	1/15(水)	岩岡裕二 助教(保)
14	4/26(金)	田中晃一 教授(保)			山本登志子 教授(保)			畠和弘 助教(デ)
15	5/08(水)	中西俊介 准教授(デ)	39	8/08(木)	津嘉山泉 助教(保)	69	1/17(金)	春木直人 教授(情)
16	5/10(金)	末岡浩治 教授(情)			田中晃一 教授(保)	70	1/27(月)	尾崎公一 教授(情)
17	5/10(金)	尾崎公一 教授(情)	40	8/21(水)	田中晃一 教授(保)	71	1/29(水)	春木直人 教授(情)
18	5/15(水)	田中晃一 教授(保)			田淵愉美 准教授(保)	72	2/05(水)	伊藤照明 教授(情)
19	5/17(金)	伊藤信之 教授(情)	41	8/28(水)	坂口浩一郎 助教(情)	73	2/14(金)	田中晃一 教授(保)
20	5/28(火)	末岡浩治 教授(情)	42	9/20(金)	伊藤信之 教授(情)	74	2/18(火)	村木克爾 教授(デ)
21	5/29(水)	山本登志子 教授(保)	43	9/24(火)	林秀紀 助教(デ)			船山俊克 准教授(デ)
22	5/29(水)	山本登志子 教授(保)	44	9/26(木)	田淵愉美 准教授(保)	75	2/20(木)	滝本裕則 准教授(情)
23	6/03(月)	山本登志子 教授(保)	45	9/27(金)	南川茂樹 准教授(デ)	76	2/21(金)	佐藤洋一郎 教授(情)
		岡崎愉加 准教授(保)	46	10/01(火)	田中晃一 教授(保)	77	3/02(月)	滝本裕則 准教授(情)
24	6/10(月)	山本登志子 教授(保)	47	10/03(木)	春木直人 教授(情)	78	3/13(金)	田中晃一 教授(保)
		岡崎愉加 准教授(保)	48	10/04(金)	伊藤信之 教授(情)			新田陽子 准教授(保)
25	6/12(水)	山本登志子 教授(保)	49	10/04(金)	伊藤信之 教授(情)			
26	6/12(水)	尾崎公一 教授(情)	50	10/04(金)	伊藤信之 教授(情)			

3. 2-3 学外組織との連携・協働活動

産学官連携推進センターでは金融機関、経済団体、産業支援機関等が主催するセミナー、交流会、相談会等のイベントに積極的に参加し、これらの活動を通じて本学シーズと社会ニーズとのマッチング、情報収集並びに人的交流を行っている。

(1) 各種支援機関との協働

① 岡山・産学官連携推進会議（会長：岡山県知事）

本会議は産学官の連携・協働の動きを強化し、県民力を結集して産業振興を図るための組織として、経済団体、行政、支援機関及び大学等県内の主要機関(20機関)が連携して平成15年に設立されたものである。「交流の場の提供」、「企業人材の育成事業」、「インターンシップ制度の充実」、「産学官連携情報提供」などを行っており、経済界6、大学等13、行政4、その他金融機関等9の計32機関で構成されている。

◆コーディネート力向上セミナー	令和元年 5月 27日(月)	岡山市
◆全体委員会	令和元年 7月 3日(水)	岡山市
◆岡山県 企業と大学との共同研究センター・オープン	令和元年 10月 1日(火)	岡山市
◆岡山・産学官連携推進会議産学官交流会	令和 2年 1月 30日(木)	玉野市

② 岡山リサーチパーク研究・展示発表会

岡山リサーチパークに関係する企業、大学、研究機関の研究成果を発表する。また、その成果を県内に広めるため交流・相談の場を提供し、事業化に向けた積極的な産学官連携を推進し、県内の産業に貢献することを目的として毎年行われており、第24回を迎えた本年度は本学から3件の展示が行われた。

◆研究・展示発表会

令和元年 12月 17日(火) 13時～16時 30分 於:テクノサポート岡山 合計展示数:6分野 54テーマ件

③ 県内支援機関

岡山県産業振興財団

◆岡山県自動車関連企業ネットワーク会議 総会・講演会	令和元年 6月 11日(火)	岡山市
◆先進技術導入セミナー	令和元年 7月 29日(月)	岡山市
◆岡山リサーチパーク研究・展示発表会	令和元年 12月 17日(火)	岡山市
◆OTEX2020	令和 2年 1月 23日(水) ～24日(木)	コンベックス岡山
◆支援制度説明会	令和 2年 2月 18日(火)	岡山市
	令和 2年 2月 19日(水)	津山市

④ 金融機関との連携活動

平成20年に中国銀行、トマト銀行、おかやま信用金庫の三つの金融機関と包括協定を同時に提携し、県内の中小企業を中心に産学連携活動を行っている。本年度は下記ビジネス交流会等に参加した。

◆おかやましんきんビジネス交流会

平成 31年 4月 18日(木) 岡山コンベンションセンター

◆トマト銀行 トマト・アグリフードフェア 2019

令和元年 7月 30日(火) 岡山コンベンションセンター

◆しんきん合同ビジネス交流会

令和元年 9月 11日(水) (コンベックス岡山)

◆しんくみビジネスマッチング(笠岡)

令和元年 11月 13日(水) 笠岡総合体育館



しんきん合同ビジネス交流会

⑤ 県立研究機関協議会

岡山県立研究機関及び地方独立法人法により設置される研究機関の試験研究に関する情報交換、技術交流等を通じて、技術の向上、研究開発の推進と研究機関の活性化を図り地域振興に資するため設置された協議会である。

◆第1回企画担当者会議	令和元年 5月 31日(金)	赤磐市林水産総合センター
◆機関長会議	令和元年 8月 19日(月)	岡山市
◆第2回企画担当者会議	令和元年 11月 27日(水)	赤磐市農林水産総合センター

⑥ さんさんコンソ（中国地域産学官連携コンソーシアム）

文部科学省のイノベーションシステム整備事業大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）に、岡山大学、鳥取大学が共同で応募し採択され、平成 20 年度から同受託事業として実施されてきた。平成 24 年度をもって文科省事業としては終了したが、平成 25 年度以降も両校が中心となり事業を継続し、中国地域の産学官連携活性化の一翼を担うべく活動している。

◆運営会議	令和元年 5 月 24 日（金）	岡山大学
◆2019 年度 産から学へのプレゼンテーション in 岡山	令和元年 11 月 27 日（水）	岡山市
◆共同研究の引合い	令和 2 年 1 月 24 日（金）	岡山市
◆共同研究の引合い	令和 2 年 2 月 27 日（木）	岡山市

⑦ 岡山県 企業と大学との共同研究センター

岡山県は、令和元年度の新規重点事業である「大学と連携した地域産業振興事業」において、大学など高等教育機関の知の活用により新たな技術課題に対応しながら成長・発展を目指す県内企業を積極的に支援していくこととしており、この事業の中核を担う拠点として「岡山県 企業と大学との共同研究センター」を 10 月 1 日に開設したことから、関係大学等が毎月定例のコーディネータ情報交換会を開催し、本学産学官連携推進センターのコーディネータも参加した。

◆コーディネータ情報交換会	令和元年 10 月 25 日（金）	岡山大学
◆コーディネータ情報交換会	令和元年 11 月 15 日（金）	岡山県工業技術センター
◆コーディネータ情報交換会	令和元年 12 月 20 日（金）	岡山大学
◆コーディネータ情報交換会	令和 2 年 1 月 21 日（火）	岡山大学
◆コーディネータ情報交換会	令和 2 年 2 月 21 日（火）	岡山大学

⑧ その他

その他に以下の機関が主催した交流会、セミナー、展示会に参加した。

◆イノベーションジャパン出展(JST)	令和元年 8 月 29 日(木) ～ 30 日(金)	東京(ビッグサイト)
◆川崎医科大学学術関連技術研究会	令和元年 8 月 3 日（土）	川崎医科大学
◆ヘルスケア・医療福祉機器技術研究会	令和元年 11 月 18 日（月）	中国地域創造研究センター
◆OUSフォーラム	令和元年 11 月 25 日（月）	岡山理科大学
◆KMSメディカルアーク出展	令和 2 年 2 月 6 日（木）	川崎医科大学

(2) 技術分野別産学官連携組織・研究会などの協働 マイクロものづくり岡山推進会議

① 解析シミュレーションネットOKAYAMA

本年度も岡山県立大学協力会主催で、本学において「画像解析に関する技術講習会」を開催した。

◆「画像解析に関する技術講習会(入門編)」	令和元年 11 月 30 日(土)	(参加者 19 名)
-----------------------	-------------------	------------

② おかやま生体信号研究会

本会は、ヒトの動き・脳波・筋電・心電・血圧など、ヒトをはじめとする生き物に由来する信号の総称である「生体信号」に関する技術の研究を対象としている。具体的には、生体信号の計測・処理技術、生体信号による機器制御技術、生体信号の診断応用・評価、並びにその応用技術などの研究を行っている。

◆幹事会・総会	令和元年 6 月 27 日（木）	岡山大学
◆第 33 回例会	令和元年 11 月 25 日（月）	美作大学

③ おかやま次世代産業関連技術研究会

第 1 回技術セミナー	令和元年 8 月 5 日（月）	岡山市
第 2 回技術セミナー	令和元年 11 月 5 日（火）	岡山市
第 3 回技術セミナー	令和元年 11 月 26 日（水）	岡山市
第 4 回技術セミナー	令和 2 年 2 月 26 日（水）	岡山市

3. 2-4 岡山県立大学協力会

(1) 設立の背景

岡山県の製造業に分類される企業は約3,500社であり、その90%強は従業員数100名未満の中小企業である(岡山県平成26年工業統計調査結果確報(平成28年2月29日公表))。特に、中小企業においては、オリジナル製品の開発や今後成長が見込まれる医療、環境分野への進出等、大企業への依存度の低減に向けた活動が行われているものの、それを推進するために、下記のような課題があるとの報告がある。

- ◇研究・開発に係る技術者人材の不足
- ◇アイデアの不足
- ◇アイデアがあってもそれを活かすためのプロジェクトマネジメント力の不足
- ◇デザイン力, ブランド力, マーケティング力の不足
- ◇技術動向の情報不足
- ◇IoT, ビッグデータ, AI等革新的技術の迅速な導入が困難 等

このような課題の解決に向けて、大学や公的研究機関からの支援を望む声が多いものの、大学に対しては“敷居の高さ”を意識し依頼を躊躇する、との意見がある。

岡山県立大学は、その建学の理念の中で、地域の産業の振興に寄与することを目的の一つに掲げている。しかし、ミクロものづくり岡山、岡山県食品新技術応用研究会、つやまデザインカレッジ等での教員個別の活動が大部分であり、大学としての主体的かつ組織的な取組みは十分でない状況にある。また、開発者人材の輩出について十分な状況にはない。例えば、製造業系企業に就職する学生が最も多い情報工学部では、約50%の学部生が県内企業に就職しているものの、絶対数は40~50名程度である。平成29年3月2日に本学で開催した合同企業説明会への参加企業が80社強であることを考えると、県内企業への就職率をさらに向上させる必要があり、そもそも、本学学生への県内企業の情報の周知が不十分であることも問題の一つにあげられる。このように、大学としても、下記のような課題があると考えている。

- ◇共同研究、技術相談等の能動的・組織的な取組みへの展開
- ◇工学教育への地元企業の参加による地域志向教育の取込みと実践的人材育成の推進
- ◇本学学生の地元企業への就職支援
- ◇研究シーズだけでなく教育シーズの有効活用

(2) 目的

本会の目的は、次の通りである。

「県内中小企業が感じている大学の敷居の高さを軽減し、本学に対して技術相談、共同研究等を依頼しやすい環境を整え、卒業生の就職も含め、県内中小企業と本学との強い連携・協働を促進すること」

また、本会の活動を通して期待される効果としては、

- I. インターシップ、企業説明会を通じた本学学生(OB・OGも含む)への魅力発信による地元企業への人材輩出の促進及びセミナーの開催や社会人ドクター受入等による産業人材の育成と確保
- II. 共同研究の推進、技術研究会等による企業の技術開発力の向上及び共同研究への学生参加による実践的人材育成(当該企業への就職も期待)
- III. 革新的最新技術の導入のためのセミナーや異業種間共同研究の推進による新規産業の創成

を想定している。

(3) 運営体制

本会は、企業会員を中心とする正会員と団体を中心とする賛助会員で構成される。本会の会議は、総会、運営委員会及び事業推進委員会である。運営委員会は、会長(1名)、副会長(若干名)、理事(10名以上)及び監事(2名)で構成し、本会の事業を企画し、これを執行する。事業推進委員会は、本学に置き、本学地域共同研究機構長、情報工学部長、産学官連携推進センター長及び同幹事で構成し、運営委員会からの指示に基づいて、事業の具体的な計画・立案・実施を行う。事務局も本学に置き、本会の活動にかかわる諸事務を行う。令和元年度の運営委員会及び事業推進委員会の委員名簿を、それぞれ、表3.2-4-1及び3.2-4-2に示す。

表3.2-4-1:運営委員会名簿

役員等	運営委員会	所属	役職	氏名
会長	委員長	(株)英田エンジニアリング	代表取締役社長	万殿 貴志
副会長	副委員長	コアテック(株)	取締役	山本 卓二
副会長	副委員長	岡山県経済団体連絡協議会	事務局長	神崎 浩二
副会長	副委員長	岡山県立大学	地域共同研究機構・機構長	佐藤 洋一郎

役員等	運営委員会	所属	役職	氏名
理事	委員	板野機工(株)	代表取締役会長	板野 恒一
理事	委員	オーエム産業(株)	業務本部 経営企画室室長	久保 藍良
理事	委員	(公財)岡山県産業振興財団	総務部長	横田 尚之
理事	委員	(一社)岡山工業会	専務理事(事務局長)	上田 哲也
理事	委員	(一社)システムエンジニアリング岡山	事務局長	楠戸 國正
理事	委員	ヒルタ工業(株)	取締役常務執行役員	小田 崇之
理事	委員	両備ホールディングス(株)	人財本部 グループリクルート部 アシエイト	内田 次俊
理事	委員	岡山県立大学	情報工学部・学部長	榊原 勝己
理事	委員	岡山県立大学	産学官連携推進センター・センター長	尾崎 公一
理事	委員	岡山県立大学	産学官連携推進センター・副センター長	村木 克爾
理事	委員	岡山県立大学	産学官連携推進センター・副センター長	伊藤 信之
監事	委員	シャープタカヤ電子工業(株)	総務部長	今井 眞二
監事	委員	岡山県立大学	名誉教授	亀山 嘉正

役員等	運営委員会	所属	役職	氏名
顧問	—	岡山県経済団体連絡協議会	座長	中島 博
顧問	—	岡山県立大学	理事長・学長	沖 陽子
顧問	—	岡山県立大学	理事・副学長(産学官連携担当)	末岡 浩治

表 3.2-4-2: 事業推進委員会名簿

	所属	職名	氏名
	地域共同研究機構・機構長	委員長	佐藤 洋一郎
	情報工学部・学部長	副委員長	榊原 勝己
	産学官連携推進センター・センター長	副委員長	尾崎 公一
	産学官連携推進センター・副センター長	副委員長	伊藤 信之
	産学官連携推進センター・副センター長	副委員長	村木 克爾
	産学官連携推進センター・副センター長	委員	田中 晃一
	産学官連携推進センター・運営委員	委員	春木 直人
	産学官連携推進センター・運営委員	委員	横川 智教
	産学官連携推進センター・運営委員	委員	中西 俊介
	保健福祉学部・教授	委員	山本 登志子
	情報工学部・教授	委員	渡辺 富夫
	情報工学部・准教授	委員	市川 正美
	情報工学部・准教授	委員	福田 忠生
	情報工学部・准教授	委員	山内 仁
	企画広報室長	委員	井上 知章
事務局	地域共同研究機構・機構長	事務局長	佐藤 洋一郎
	産学官連携推進センター・センター長	副事務局長	尾崎 公一
	産学官連携推進センター・副センター長	副事務局長	伊藤 信之
	事務局次長	副事務局長	小西 邦彦
	企画広報室長	副事務局長	井上 知章
	コーディネータ		森安 賢治
	コーディネータ		浦上 良巳
	コーディネータ		武田 吉弘

所 属		職 名	氏 名
事務局	コーディネータ		渡邊 守
	企画広報室員		青山 佳矢
	企画広報室員		増田 康平
	企画広報室員		垣内 優花
	企画広報室員		岡 正子
	事務員		赤木 貴子

(4) 活動計画

- (1) 産学官連携関係者間の情報交換及び交流並びに研究開発支援にかかわる事業
 - A. 教員及び学生による会員企業への訪問
 - B. 会員、教員及び学生を対象とした交流会の開催
- (2) 講演会、講習会、セミナー等の開催にかかわる事業
 - A. 最先端技術に関する講演会の開催
 - B. 画像技術講習会の開催
 - C. 講演会、講習会、セミナー等のテーマに関するニーズ調査
- (3) 県内産業の発展に資する人材の確保・育成にかかわる事業
 - A. 業種説明会の開催
 - B. 会員企業による会社説明会
 - C. 人材確保・育成に関するニーズ調査
- (4) 岡山県立大学の専門教育の充実に関する支援にかかわる事業
 - A. 学部及び大学院学生を対象とした技術者教育の計画
 - B. 企業参加型PBL教育の計画
 - C. 大学教育への要望に関する調査
- (5) 本会の情報管理や活動の企画・実施のための環境整備及び広報にかかわる事業
 - A. 本会のホームページの開設及び更新
 - B. 会報の発行
 - C. 事業実施報告書の作成
- (6) 会議等
 - A. 運営委員会の開催
 - B. 事業推進委員会の開催

(5) 活動実績

令和元年度の活動実績の一覧を表 3.2-4-3 に示す。

表 3.2-4-3: 活動一覧

日 時	内 容	場 所	参 加 者 等
6月4日(火)	総会	メルパルク岡山	
9月～	会員企業訪問		
10月2日(水)	最先端技術講演会	ローム・ワコー(株)	講師:情報工学部 佐藤教授 演題:ローム・ワコー社内セミナー「画像処理(第1回)」 参加者約25名
11月	環境整備・広報		協励会会員企業ガイド発行 協励会ホームページ開設
11月7日(木)	最先端技術講演会	ローム・ワコー(株)	講師:情報工学部 滝本准教授 演題:ローム・ワコー社内セミナー「画像処理(第2回)」 参加者約20名
11月18日(月)	第1回研究交流会	岡山県立大学	(1) 栄養学科関連企業による研究報告・会社説明 (オハヨー乳業(株)・備前化成(株)) (2) 栄養学科研究室紹介 (保健福祉学部 田中教授、山本教授) (3) 意見交換会 参加者37名

日時	内容	場所	参加者等
11月30日(土)	画像技術講習会 (基礎編)	岡山県立大学	講師:情報工学部 山内准教授、和歌山大学 中村教授、 大阪電気通信大学 小枝准教授 参加者 19名
12月6日(金)	第1回業種説明会	岡山県立大学	参加学生 94名 参加企業 39社
2月14日(金)	第2回業種説明会	岡山県立大学	参加学生 82名 参加企業 26社
3月28日(土) (中止)	画像技術講習会 (応用編)	岡山県立大学	講師:情報工学部 山内准教授、和歌山大学 中村教授、 大阪電気通信大学 小枝准教授

ア. 岡山県立大学協力会 令和元年度総会

日時:令和元年6月4日(火)15時30分～16時55分

場所:メルパルク岡山

出席者:正会員(36名)、賛助会員(6名)、大学関係者(25名)

【審議事項】

第一号議案 平成30年度事業報告及び平成30年度収支決算について

第二号議案 役員の選任について

第三号議案 令和元年度事業計画及び令和元年度予算について

【報告事項】

入会状況及び会員の募集方法について

【講演】

題目:「”おもしろえ直ぐやってみよう” は研究開発の原点」

講師:萩原工業株式会社 エンジニアリング事業部 笹原 義博 氏



イ. 会員企業訪問

日時:令和元年9月～1年間を予定

内容:下記の目的で、本学教員と産学官コーディネータのペアで訪問。

- ・大学教員と企業との技術相談、気さくなコミュニケーションを図る。
- ・産学連携や教育について意見交換を行い、交流を深める。
- ・企業が抱える技術的な課題の解決を支援する。
- ・共同開発、実用化への諸問題等を解決し、製品化を支援する。
- ・共同研究・開発案件等に限らず、技術相談に応じる。
- ・大学の研究シーズにより解決策を探る。
- ・共同研究には馴染まない企業の幅広いニーズに対応する。

ウ. 最先端技術講習会

画像処理に関する講演会を基礎編と応用編の2回にわたり会員企業であるローム・ワコー株式様の社内セミナーとして開催した。

第1回目は、画像処理の基礎知識となる「明るさの表現方法」「色の表現方法」「デジタル画像の構成」に続き、代表的な画像処理である画像変換(形や明るさなどを変える処理)についての講演。

第2回目は、自動運転や外観検査などの実応用を例に挙げ、画像から人や物などを見つけ出す、画像認識の仕組みについて講演。また、最近注目されている Deep Learning による AI として、画像認識に用いられる「畳み込みニューラルネットワーク」について、その概要と実利用の際の課題について説明。

【第1回】

日時:令和元年10月2日(水) 13:30～15:00

場所:ローム・ワコー株式会社

参加者:約25名

講師:岡山県立大学 情報工学部 人間情報工学科 佐藤洋一郎 教授

演題:ローム・ワコー社内セミナー「第1回 画像処理の基礎」



【第2回】

日時:令和元年11月7日(木) 14:00~15:30

場所:ローム・ワコー株式会社

参加者:約20名

講師:岡山県立大学 情報工学部 情報通信工学科 滝本裕則 准教授

演題:ローム・ワコー社内セミナー「第2回 画像処理の応用」

エ. 環境整備・広報

令和元年11月に会員企業の事業内容を在学生及び父兄等に周知することを目的とし、「企業ガイド」を作成した。また「協力会ホームページ」を開設し、会員企業の紹介ページを作成。

オ. 研究交流会

会員企業の業務内容、技術ニーズ、問題点などの把握、企業間の技術提携や産学連携、学生の企業理解、企業への大学シーズと人材紹介などを推進するために、学生と協力会会員企業とをつなぐ交流の場を提供することを目的。特に、ニーズや問題の焦点を絞り、活発かつ率直な意見交換を行うために、小規模グループによる交流会を実施。

【第1回研究交流会】

食品関連企業と栄養学科による研究交流会が本学講義室で開催され、企業、本学関係者、及び学生を含めて37名の方が聴講。最後に①大学の研究と企業の研究との相違について、②当該企業での研究員の占める割合、③研究員として企業への応募する際、面接での自己PRのノウハウ、④製品効果を検証するためのヒトを対象とした研究の難しさ等について意見交換。

日時 令和元年11月18日(月)15:00~17:00

場所 学部共通棟(東)8901 講義室

- 1.岡山県内企業による研究・会社説明(セミナー)・・・オハヨー乳業株式会社、備前化成株式会社
- 2.栄養学科研究室紹介・・・田中晃一研究室、山本登志子研究室
- 3.意見交換会

カ. 業種説明会

就職活動が本格的にスタートする前に地元企業の事業内容、事業展開等の説明を受け、業種・業界の魅力を直接感じること、本学学生の進路選択の一助となることを目的とし12月と2月の2回にわたり開催。

【第1回】

日時:令和元年12月6日(金)学生受付 13:15~、説明会 13:30~16:00

場所:岡山県立大学 情報工学部棟2203・2204 講義室、学部共通棟(北) 8203・8105 講義室

参加企業:協力会正会員39社

参加学生:94名

【第2回】

日時:令和2年2月14日(金)学生受付 12:30~、説明会 13:00~15:30

場所:岡山県立大学 学部共通棟(東) 8901・8902 講義室

参加企業:協力会正会員26社

参加学生:82名



キ. 画像技術講習会

おかやま COC+推進協議会、解析シミュレーションネット OKAYAMA 画像解析等グループと共同で、製造工程に画像処理を既に導入している、あるいは導入を検討している会員企業の他、会員外の企業・大学関係者が参加し熱心に受講していることから、昨年度に引き続き開講。

講師: 和歌山大学システム工学部 中村恭之 教授
大阪電気通信大学総合情報学部 小枝正直 准教授
岡山県立大学情報工学部 山内仁 准教授
場所: 岡山県立大学 学部共通棟(南) 1階 8122 室

第8回「画像解析に関する技術講習会(基礎編)」

日時: 令和元年 11 月 30 日(土) 13:00～17:00

参加者: 19 名

第9回「画像解析に関する技術講習会(応用編)」(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

日時: 令和2年 3 月 28 日(土) 10:00～16:00

3.3 地域連携推進センター

3.3-1 地域連携プロジェクト

本学における地域連携活動の推進及び産学官連携活動を通じた企業の人材育成に寄与する活動の支援を目的に平成29年度から新設した「地域連携推進事業」「企業人材育成事業」を実施し、支援を行った。

(1) 地域連携推進事業

岡山県内において本学と連携協力に関する協定を締結する自治体又はそれ以外の自治体を活動拠点とし、本学教員及び学生が行政機関、大学、経済団体、地域団体(社会福祉協議会、特定非営利活動法人、自治会等)と連携して実施する、①健康福祉関連、②子ども関連、③まちづくり関連、④アート・食育・ICT関連の事業について、学長が行う事業計画の承認や、その実施を支援している。

(2) 企業人材育成事業

岡山県内において本学教員が行政機関、大学、経済団体、企業、地域団体(マイクロものづくり岡山、解析シミュレーションネットOKAYAMA等)と連携して実施する、岡山県内に所在する企業等の、①技術力向上に資する育成プログラムの開発と実施、②技術力向上に資する講演会の開催、③技術力向上に資する技術講習会の開催、④その他学長が必要と認めた活動について、学長が行う事業計画の承認や、その実施を支援している。

(3) 事業決定実績

令和元年度分については、平成31年4月1日(月)～4月8日(月)まで募集し、申請のあった事業については査定を行い、5月28日付けで次のとおり事業決定した。

名称	申請件数	採択件数	配分額合計
地域連携推進事業	11件	10件	2,207,000円
企業人材育成事業	2件	2件	353,000円

①地域連携事業 事業一覧

代表者	活動の名称	活動する自治体	活動内容
保健福祉学部 看護学科 教授 住吉和子	健康チェックと最新の情報提供	総社市	健康福祉関連
保健福祉学部 看護学科 准教授 賞金栄	安心して看取りを迎えられる地域づくり	その他(岡山県下すべての保健医療福祉サービス従事者および民生委員、福祉委員、ボランティアなどのケアラー)	健康福祉関連
保健福祉学部 看護学科 准教授 名越恵美	ELNEC-J コアカリキュラム in 岡山県立大学 一質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアのために	その他(日本緩和医療学会)	健康福祉関連
保健福祉学部 看護学科 准教授 岡崎愉加	思春期の子育て支援	総社市	子ども関連
保健福祉学部 栄養学科 教授 久保田恵	地域住民を対象とした健康増進・食育推進活動	総社市	健康福祉関連

代表者	活動の名称	活動する自治体	活動内容
保健福祉学部 保健福祉学科 教授 近藤理恵	中学・高校生のための学習・体験プログラム	総社市 笠岡市 その他	子ども関連 食育関連
保健福祉学部 保健福祉学科 准教授 中野菜穂子	県大そうじゃ子育てカレッジ「親子で楽しむ音楽会—0歳からのコンサート」を通じた学生参加による親子の文化体験と交流提供	総社市	子ども関連
情報工学部 人間情報工学科 教授 綾部誠也	おかやま健康応援プロジェクト	その他(玉野市)	健康福祉関連
デザイン学部 デザイン工学科 助教 林秀紀	教育効果のある木育玩具の研究開発	その他(西粟倉村)	子ども関連
デザイン学部 造形デザイン学科 教授 野宮謙吾	笠岡市立図書館におけるピクトグラムを用いた館内デザイン改新プロジェクト	笠岡市	まちづくり関連

②企業人材育成事業 事業一覧

代表者	活動の名称	連携する団体	活動内容
情報工学部 情報システム工学科 教授 尾崎公一	岡山新材料技術融合フォーラム	地域団体(岡山新材料融合フォーラム)	講演会の開催
情報工学部 情報システム工学科 准教授 福田忠生	解析シミュレーションネット OKAYAMA 技術講習会	地域団体(解析シミュレーションネット OKAYAMA)	技術講習会の開催

3. 3-2 各種連携活動

(1) COC+における地域連携推進センターの役割

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、若者の東京一極集中に歯止めをかけ、地域に定着させることを目的として、高等教育機関、自治体、企業、NPO 等と協働して、学生にとって魅力ある雇用を創出・開拓すると同時に、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援するものである。本学が代表校として採択された事業は、「地域で学び地域で未来を拓く‘生き生きおかやま’人材育成事業」であり、教育改革、域学連携及び産学連携の3つの主要な活動で構成される(詳細は、本誌2.1「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を参照)。

地域連携推進センターでは、域学連携において、以下の項目を実施した(詳細は、本誌2.1-3を参照)。

① 地域の課題の掘り起こしと解決

大学、自治体、NPO 及び地域住民が、公開講座や地域協働講座を開催することで、課題の掘り起こしや解決策の検討を行った。

② 研究シーズの有効利用による地域の活性化

研究シーズの有効利用として、地域創生コモンズ等を活用したコミュニティキャンパスおかやまに参加した。コミュニティキャンパスおかやまでは、COC+の域学連携の一環として、地域創生コモンズの利用促進を目的に一般的な教員の講演だけでなく、学生も参加し、地域住民との関わりをもった講座を実施した。学生にとっては学外でのコミュニケーションを育む機会となり、充実した学びを得ることができた。また、実技を含む講座も設計したことで、参加した地域住民に対して、より有意義なプログラムを提供することができた。

(2) まとめと今後の課題

本年度も継続して、COC+の域学連携に係わる活動を行っており、COC+に対して、貢献できたことは大きな成果と言える。また、「岡山県立大学地域連携事業」により、本学教員による地域貢献活動も活発なものになりつつある。

また、本学教員の地域連携活動を認識できていない現状を打破するため、平成30年度から実施した地域連携活動の報告制度によって、大学全体の活動の見える化が進められた。さらに、平成31年4月には地域連携活動に関する知(地)のシーズ集を発行しており、地域に対して大学全体の地域連携活動の見える化を図ってきた。

しかし、これまですべての地域のニーズに応え切れていない現状や他大学との協働も十分行えているとは言えない状況である。

以上から、令和2年度に向けた主な課題を以下に列挙する。

- ◇地域連携活動における地方自治体や他大学との連携強化
- ◇岡山県立大学の地域連携活動の積極的な見える化
- ◇地域連携活動の新たなプロジェクトの模索
- ◇地域創生コモンズの利用促進
- ◇小さな地域連携活動の掘り起こしと支援

3. 3-3 各種研究会活動

(1) 地域看護学研究会

① 概要

本研究会は、地域看護の実践現場で遭遇する課題を研究的な視点から捉え、実践力を高めることを通して、地域の人々へのより適切な支援に資することを目的としている。

本年度は「岡山市中山間地域における地域包括ケアシステムの構築・推進」をテーマに学修し、過疎化する岡山市北区A地区の住民主体による互助を核とした社会資源の開発をめざして、保健・医療・福祉・労働等の観点から実態を明らかにし関係者と共有した。

② 実績

	日・場所	テーマ		内容	参加者
第1回	6月6日(日) 13～16時 県立大学保健福祉学部棟 6301 教室	地域のアセスメント	行政保健師、在宅看護関係者	文献および既存資料等から、地域包括ケアシステム推進に必要なアセスメントについて検討した。以後、各自情報収集し、メール等で共有することとした。	4名
第2回	11月22日(金) 9～12時 町内会長宅	インタビュー調査 町内会長	行政保健師、在宅看護関係者	A地区の歴史・地理等からコミュニティの概要を把握した。また、住民ニーズ把握の調査への内諾を得た。	2名
第3回	1月17日(金) 13～16時 地域包括支援センター及び町内会長宅	インタビュー調査 町内会長・民正委員	行政保健師、在宅看護関係者	A地区の保健福祉に関する現状と課題を把握した。住民ニーズ調査の具体について検討した。調査票については、メール等で共有することとした。	2名
第4回	1月20～2月上旬 A地区	アンケート調査 健康教室参加者等の住民	行政保健師、在宅看護関係者	「住み慣れた地域で最後まで暮らすために必要なこと(健康関連)調査」を実施した。	2名
第5回	3月30日 (コロナ対策等で日程調整つかず集会中止し書面審議に変更)	調査結果の集計分析・考察	行政保健師、在宅看護関係者	「住み慣れた地域で最後まで暮らすために必要なこと(健康関連)調査」の集計とインタビュー等から総合的な分析・考察について意見交換を行った。	4名

③ 今後の展望と課題

住民主体による互助を核とした地域包括ケアシステムの構築・推進には、当該地区に関係する保健・福祉等の専門職と住民代表の方々をつなぎ、めざす地域の姿と現有する地域の強みを共有し、ビジョンを可視化することにより、継続発展に活かす必要がある。

(2) コミュニティ家族ケア研究会

① 概要

本研究会は、多職種が連携し(IPE)、地域や学校における看護の実践および研究の発展と向上に努め、地域や学校で生活している子どもとその家族の心身の健康を支援することを目的として活動している。支援策を検討するために調査を行い、その成果を基に具体的な支援策を立案し、実施後の効果を評価している。また、研究や実践の成果を学会等で公表することにより、社会に貢献している。現在の活動メンバーは、大学や高校に勤務している助産師・看護師・養護教諭で構成されている。

今年度は、第64回日本学校保健学会にて発表した研究を論文にまとめて学会誌に投稿するための活動と、高校生のメンタルヘルスに関連した研究の成果をまとめ EAFONS2020 で発表した。また、助産師・看護師・養護教諭・看護学生等を対象として研修会を開催した。

② 実績

ア 研究会の開催

	月日・場所	内容	参加者
第1回	5月19日(日)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	今年度の活動計画の検討 投稿予定論文の内容検討 高校生のメンタルヘルスに関する研究について	4名
第2回	6月22日(土)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	摂食障害パンフレットの活用について 論文投稿について 高校生のメンタルヘルスに関する研究について	4名
第3回	8月4日(日)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	研究会のPRについて 論文投稿の準備について 高校生のメンタルヘルスに関する研究について	5名
第4回	9月15日(日)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	EAFONS2020の発表と参加について 論文投稿の準備について 月経リーフレット作成について	3名
第5回	10月27日(日)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	高校生のメンタルヘルスに関する研究の中間報告 アルコールパンフレットについて 今年度の研修会について	3名
第6回	12月8日(日)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	摂食障害1次予防パンフレットの作成について 今年度の研修会(第6回)について、次年度の予算要求について 高校生のメンタルヘルスに関する研究について アルコールパンフレットの活用について	3名
第7回	1月15日(水)14:00～ 岡山県立大学保健福祉学部棟 6315 実習室	投稿論文の査読結果と修正内容の検討 今年度の研修会(第6回)の計画、高校生のメンタルヘルスについて 「地域版シーズ集」への原稿提出について	3名
第8回	2月11日(火)10:00～、16:00～ 岡山県立大学共通棟(東) 8904 講義室	摂食障害1次予防パンフレットの構成の検討 EAFONS2020の発表と参加の報告、投稿論文の修正内容の検討 高校生のメンタルヘルスに関する研究報告	4名
第9回	2月22日(土)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	摂食障害1次予防パンフレットの内容の検討 投稿論文の修正内容の検討 今年度の研修会(第6回)の報告	4名
第10回	3月1日(土)14:00～ メール会議	論文投稿について 今年度の予算執行について 次年度の役員決定	5名
臨時	3月24日(火)16:00～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	論文の投稿先の検討 次年度の活動計画について	2名

イ 学会発表

令和2年1月10日(金)～11日(土)、タイ王国チェンマイのLotus Hotel Pang Suan Kaewにて開催されたEAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars)2020に3名が参加し、研究の成果として「Stress Management Methods Adopted by Senior High School Students」を発表した。



ウ 研修会開催

令和2年2月11日(火)13時～、令和元年度(第6回)研修会を岡山県立大学共通棟(東)8904講義室にて開催した。

参加者は、大学生7名、大学院生1名、養護教諭2名、看護教員5名、助産師3名、保健師1名、医師1名、合計20名であった。

内容は、研究報告「日本における若年女性の月経教育に関する文献検討」原直美、「月経が女子高校生の学校生活に与える影響」梶谷さとこ、「高校生のストレス対処法に関する基礎調査」山下亜矢子、「思春期男子の性に関する健康支援」岡崎愉加、講演「SRHに関する最近の話題」上村茂仁(ウイメンズクリニック・かみむら院長)、である。その後、本日の内容に関する意見交換を行った。



③ 今後の展望と課題

次年度の活動は、高校生のメンタルヘルスに関する研究の論文作成、健康教育パンフレットの作成と評価、研究成果の学会発表等を計画している。また、研修会では、外部講師を招いた講演会の実施を検討している。

(3) 岡山医療安全研究会

① 概要

本研究会は、研究会の開催、研究活動、会員相互の緊密な交流及び情報交換をとおして、地域の医療安全の推進に努めることを目的とした研究会である。

本年度は、同じミスを繰り返すスタッフへの対応をテーマとした研究会を開催した。県内全域の医療施設から多数の参加者がみられた。

研究会スタッフとして、倉敷・総社地域などの医療施設における医療安全管理者5名に企画・運営の活動に継続的に加わっていただいている。研究会のテーマの検討や研究について実行委員会を4回開催し、地域との幅広い交流を行った。

② 実績

日時・場所	テーマ	講師	内容	参加者
令和元年9月21日(土) 岡山国際交流センター 8階イベントホール	同じミスを繰り返すスタッフへの対応	朝倉 加代子氏 (社会医療法人財団白十字会佐世保中央病院 医療安全管理部次長・専従安全管理者)	講演およびディスカッション 「専従安全管理者の立場から」	166名
		佐藤 亜紀氏 (札幌市病院局市立札幌病院 看護部看護課)	講演およびディスカッション 「医療版失敗学の立場から」	

③今後の展望と課題

次年度は、実践につなげる医療安全に関する教育・研修の在り方をテーマとしたセミナーの開催を予定している。さらに、これまで継続してきた研究テーマ「RCAに基づいたインシデントレポートの分析と医療安全文化の変化」の研究成果を学会等で発表していく。また、研究会スタッフとして、倉敷・総社地域などの医療施設における医療安全管理者5名に企画・運営の活動に継続的に加わっていただいております。現場の視点に基づいた企画、研究の検討を進めていきたい。

(4) メンタルヘルス研究会

① 概要

岡山県内の福祉・行政・教育関係者と当事者のメンタルヘルスの現状に関する情報の共有と相互支援ネットワーク構築をねらいとして、サロン活動と研修会を開催した。

② 実績

ア スヌーズレン歌声広場

多感覚刺激装置(スヌーズレン)と集団歌唱を活用した様々な特性をもつ子どもの交流支援の実践方法を子育て関係者、保護者と共有することをねらいとして、年5回実施した。

- 第1回 5月18日(土)13時から15時 18名(保護者:6名、子ども:12名)
 第2回 7月20日(土)13時から15時 29名(保護者:11名、子ども:18名)
 第3回 9月28日(土)13時から15時 18名(保護者:6名、子ども:12名)
 第4回 10月19日(土)13時から15時 16名(保護者:7名、子ども:9名)
 第5回 11月9日(土)14時から16時「人と人がつながるコンサート2019」、保護者子ども8名、学生6名

イ 音楽交流活動

2月8日(土)リズムダンス室 10時から12時「歌で感じる日本の四季」、49名(保護者11名、子ども16名、学生9名、障害当事者3名、音楽ボランティア10名)

③ 今後の展望

「歌で感じる日本の四季」において副専攻の授業「地域保健福祉演習」を受講する学生参加支援を行ったことにより、多様な発達段階の子どもと父親を含む保護者のニーズに対応するプログラム開発ができた。一方で、来年度以降、組織改編等の事情により現体制での開催が難しいことにより、来年度以降は別事業で実施することを検討中である。

(5) エンド・オブ・ライフ・ケア研究会

① 概要

本研究会は、エンド・オブ・ライフ・ケア(最後の日々の痛みや苦しみが十分に治療され、本人が望むとおりにすごせるように支援する)に関する基本事項を網羅的に学習して、受講者自身の看護実践能力を高め、患者・家族に質の高い緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアを提供することができることを目的としている。本研究会の交流を通して認定看護師・看護師・介護士・学生が共に学び合える場となるよう事例検討や共同研究、外来講師による学習会を行い、施設を超えてつながりも強まってきた。今年度も、アドバンスケアプランニング(以下ACP)に焦点化した。

② 実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	6月1日(土) 13:30～15:00	1. オリエンテーション 2. ACP	名越恵美准教授 (岡山県立大学)	1. 今年度の予定 2. アドバンスケアプランニング:もしバナゲーム	9名
第2回	7月27日(土) 13:30～15:00	苦しむ人への援助と5つの課題	井上かおり助教 (岡山県立大学)	1. 苦しむ人への援助と5つの課題 2. 事例検討	8名
第3回	9月21日(土) 13:30～15:00	多職種連携で援助を言葉にする	山形真由美助教 (岡山県立大学)	1. 最期まで家で穏やかに過ごすために～多職種での援助を言葉にする～ 2. 事例検討	9名
第4回	1月25日(土) 13:30～15:00	地域と病院をつなぐ～がん患者・家族の在宅療養を叶える～	市川美和氏(水島協同病院 地域連携室 看護師)	「がん患者・家族の在宅療養を叶える」と題して人生の最終段階において、患者の望む療養場所を叶えるために、多職種連携の調整について具体的な事例を踏まえて講義された。	41名
第5回	2月29日(土)3月1日(土) 13:30～15:00 ⇒ 中止	エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座	小澤竹敏氏(エンドオブライフ・ケア協会 理事) 小森栄作氏(ももたろう往診クリニック 医師)他	2日間にわたり、人生の最終段階にある人とその人を支える家族・介護福祉職の支援に関する講義およびロールプレイを用いて、意思決定支援、症状緩和、多職種連携を学ぶ。(地域連携事業と共催) ⇒ コロナウイルス感染拡大防止を受けて中止	



③ 今後の展望と課題

在宅取りに向けては、介護福祉職と医療職及びボランティア等が連携しながら支援する必要がある。そのため、来年度は、多職種での事例検討を増やして具体的な方略の共有を行う。

(6) 介護福祉研究会

① 概要

介護福祉研究会は、求められる社会ニーズに対応するために介護福祉士(卒業生)が、より質の高い介護福祉士にキャリアアップしていくことを目指しており、本学を卒業した介護福祉士を対象として、相談窓口、再教育、情報発信、指導者としてのスキルアップをすることを目的としている。

本年度は、卒業生のニーズを確認しながら、講義、演習、情報交換を行った。

② 実績

	日時・場所	内容	卒業生 参加人数
第1回	7月13日(土) 13:30~16:40 学部共通棟(東)8904 講義室	医療的ケアについてミニ講義(原野准教授)、医療的ケア調査報告(佐藤准教授)を行い、今後取り上げたい課題について検討した。	19名
第2回	9月21日(土)13:30~17:00 学部共通棟(西)5107 講義室、 5109 演習室	ダイヤ工業(株)の小川和徳様より、会社紹介、商品紹介、動作支援ウェアの製品特徴等について講義していただいた。 受講者数名が DARWING PA-Jacket の試着をし、実際に重量物の持ち上げを行って動作支援ウェアの着心地、操作の実際を体験した。 福祉用具を用いた移乗介助について講義・演習(趙准教授)を行った。ロボット介護機器、SASUKE の操作方法の説明及びデモンストレーションも行った	16名
第3回	11月2日(土)14:00~16:00 学部共通棟(西)5108 講義室	認知症 VR 体験を行った。VR 体験の内容は、レバー小体型認知症の世界、丹野智文さん監修の当事者体験について体感した。 佐藤准教授のミニ講義、および認知症の症状のある利用者への対応方法についてディスカッションを行った。	6名
第4回	2月13日(木)13:30~15:30 部共通棟(西)5108	卒業研究発表会聴講、事例検討、情報交換 事前に提供のあった事例について検討を行った。事例提供者からの事例説明、参加者からの情報追加に対する質疑応答がされ、該当利用者のニーズの抽出、目標設定およびケアの方向性について検討した。	3名

③ 今後の展望と課題

卒業生のニーズを明らかにし、情報提供、情報交換を行い、相談窓口、再教育、情報発信、指導者としてのスキルアップにつながるような企画運営を行う。さらに介護福祉現場での課題について実践研究に繋がられるような支援を目指す。



(7) 看護事例研究会

① 概要

看護事例研究会は看護実践の質の向上を目的として、臨床の看護師が困難と感じる事例や良い看護実践ができたと考えられる事例について考察し、看護研究に繋げている。研究会は2か月に1回水島協同病院で開催している。年に1回糖尿病看護認定看護師を対象とした研修会を開催している。

② 実績

《看護事例研究会》

- ①5月28日(14:00～17:00)、②8月5日(14:00～17:00)、③10月7日(14:00～17:00)、④12月10日(14:00～17:00)、
- ⑤3月16日(14:00～17:00)

事例検討会で検討した良い看護実践について学会参加の支援を行い、2019年度は4名が全国学会での発表を行った。

《糖尿病看護認定看護師を対象とした研修会》

2020年2月22日に会田薫子先生(東京大学)、綾部誠也先生(岡山県立大学)の教育講演と事例検討を含む研修会を企画していたが、新型コロナウイルスのため開催を延期している。

③ 今後の展望と課題

看護事例検討会の参加者が限られた施設の参加者のみであるため、参加者を広く募り多施設での情報共有が可能な研究会を目指す予定である。特に良い看護実践事例を共有することが参加者の看護に対する動機づけに繋がっていることから、良い看護実践事例について広く共有ができる場にしたと考える。

糖尿病看護認定看護師を対象とした研修会は、全国から参加者がいることを考慮して、Webでの研修会の開催について検討する予定である。

3. 3-4 岡山県立大学子育てカレッジ

(1) 概要

大学を核とした産・学・官・民協働による子育てカレッジは、岡山県独自の子育て支援の取組である。開設 10 年目となる今年度は、親子交流広場と授業との連携や親子交流のための企画を推進し、また専門的な学びの機会である「保育ステップアップ講座」、地域の子育て支援活動を支えるネットワーク研修会等を実施した。

(2) 実績

① 子育てカレッジの実施体制

子育てカレッジを地域連携推進センターの事業に位置づけ、その運営は「県大そうじや子育てカレッジ実行委員会」が中心となって実施している。実行委員会は、本学教職員、地域子育て支援者、総社市、備中県民局、チュッピーひろば利用者等で構成され本年度は計 4 回の実行委員会を開催し事業の充実を図った。

② 子育てカレッジの取組内容

1. 大学の学生が参加して実施する親子交流等
2. 保育士、幼稚園教諭、地域の子育て支援サービスの提供者に対する質的向上の取組
3. 子育てや子育て支援に関する相談の実施
4. 子育てや子育て支援に関する情報発信
5. 子育て支援に関するボランティア・NPO や企業の活動への支援
6. 地域の子育て支援関係者の情報交換
7. その他子育て関連事項の調査等

③ 親子交流広場の設置

親子交流広場(チュッピーひろば)を週に 1 回程度、年間 57 日開設し、1494 名、753 組の親子(延べ)の利用があった。利用実数は 197 組の親子(総社市内:149 組、市外:48 組)である。

④ 協働授業

ア「保育内容(言葉)」

日 時:令和元年 6 月 4 日(火)

名 称:おはなしの会 2019

内 容:乳児がことばや音を楽しめるようなプログラムの企画と実践。
手遊び歌、パネルシアター、おはなし劇を行った。

参加者:子ども学専攻 2 年生 20 名、親子 5 組

担 当:保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻 講師 樟本千里

イ「公衆栄養学実習 I」

日 時:令和元年 7 月 16 日(火)、24 日(水)、31 日(水)

内 容:ライフステージ別演習の一環として備中県民局及び総社市の子育て支援事業の現状や支援体制への理解と母子の実態について学ぶため、子育てひろばのスタッフや参加している母親及びその子どもとの交流を図った。

参加者:親子 18 組(3 日間延べ)、栄養学科 3 年生 46 名

担 当:保健福祉学部栄養学科 教授 久保田恵

ウ「乳児保育 II」

日 時:令和元年 7 月 30 日(火)

名 称:赤ちゃん先生

内 容:0 歳児と保護者を大学に招き、赤ちゃんとの触れ合い体験授業を行った。
学生が制作したおもちゃを活用して親子と触れ合った。

参加者:子ども学専攻 3 年生 21 人、大人 12 人、子ども 17 人

担 当:保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻 教授 柏まり

エ「保育内容 II (総合表現)」「音楽 I (声楽)」「体育 I (表現運動)」など、表現系授業

日 時:令和元年 8 月 2 日(金)

名 称: 子どものためのアートパフォーマンス 2019
内 容: 劇、ダンス、合奏などの発表を行った。
参加者: 親子 30 組 子ども学専攻1～4年生 80 名
担 当: 保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻 准教授 新山順子 特任教授 岡崎順子 講師 樟本千里

オ 「保育内容 I (健康)」

日 時: 令和元年 9 月 13 日 (金)
名 称: チュッピーひろばの夏まつり
内 容: しゃぼん玉コーナー、パラバルーンコーナーなどの企画・運営
参加者: 親子 50 組 子ども学専攻 2 年生 20 名
担 当: 保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻 准教授 新山順子

カ 「保育内容 I (人間関係)」

日 時: 令和元年 10 月～11 月のひろば開設日
名 称: チュッピーひろばの参観
内 容: 令和元年 12 月に実施するクリスマス会の準備として、チュッピー広場を利用する親子の遊びの様子の観察や、親御さん
やスタッフの方への聞き取りを行った
参加者: 子ども学専攻 1 年生 21 名
担 当: 保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻 准教授 京林由季子

キ 「体育 II (運動遊び)」

日 時: 令和元年 11 月 20 日 (水)
名 称: チュッピーひろばでからだわくわく遊び
内 容: 室内プレイパークを作り、運動的な遊びの援助を行った。
参加者: 親子 25 組、子ども学専攻 3 年生 19 名
担 当: 保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻 准教授 新山順子

ク 「保育内容 I (人間関係)」

日 時: 令和元年 12 月 10 日 (火)
名 称: 親子で楽しむミニミニクリスマス
内 容: 親子がクリスマスの雰囲気を楽しめるような自由遊びの環境構成と、学生によるパネルシアターや合奏などの出し物を
企画し実践した。
参加者: 午前の部参加者: 親子 20 組 (大人 21 人、子ども 23 人)、子ども学専攻 1 年生 21 人、4 年生 4 人
午後の部参加者: 親子 17 組 (大人 19 人、子ども 20 人)、子ども学専攻 1 年生 21 人、4 年生 4 名
担 当: 保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻 准教授 京林由季子

ケ 「子ども臨床特論 VI 演習」

日 時: 令和元年 12 月 20 日 (金)
名 称: 子育て支援講座—おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に—
内 容: なかよし広場 ぴよこっこにて授業内で作成した子育て支援ガイドブックを活用し、子育て支援講座を行った。
子育ての今と昔、簡単運動あそび、身近な材料のできる工作を行った。
参加者: 保健福祉学研究科 博士前期課程保健福祉学専攻 1 年生 2 人、子ども学専攻 4 年生 4 人、3 年生 3 人、
親子 7 組 (祖母 4 組)
担 当: 保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻 教授 柏まり

⑤ スヌーズレン歌声広場

ア 定例会

日 時 (参加者): 令和元年 5 月 18 日 (土) 18 名 (親: 6 名、子: 12 名)
令和元年 7 月 20 日 (土) 29 名 (親: 11 名、子: 18 名)
令和元年 9 月 28 日 (土) 18 名 (親: 6 名、子: 12 名)
令和元年 10 月 19 日 (土) 16 名 (親: 7 名、子: 9 名)

場 所: チュッピーひろば
内 容: 童謡やわらべうた、音楽遊び等による交流
担 当: 保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻 特任教授 岡崎順子 教授 坂野純子

イ 「人と人がつながるコンサート2019」

日 時: 令和元年11月9日(土)
場 所: 講堂
内 容: 歌、楽器演奏等による交流
参加者: 親子8名・学生6名
担 当: 保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻 特任教授 岡崎順子 教授 坂野純子

⑥ 保育ステップアップ講座

子育てカレッジの取組内容2として、保育士、幼稚園教諭、その他の子育て支援者に対し、今日的なテーマや課題、現場の保育に直結する実践的な講座を大学内で開催した。

令和元年度保育ステップアップ講座

日 時: 令和2年1月25日(土)14:30～16:00
場 所: 岡山県立大学 8901室
テーマ: 保育の場で子どもの遊び心をはぐくむ
講 師: 三重大学教育学部 教授 富田昌平先生
参加者: 一般25名・子ども学専攻学生40名・本学教員4名

⑦ 総社市委託：親子支援及び子育て支援者研修事業

総社市から委託を受け、親子支援および子育て支援者研修事業として下記の事業を実施した。

ア NP(ノーバディーズパーフェクト)プログラム

日 時: 令和元年9月2日(月)、9日(月)、17日(火)、24日(火)、30日(月)、10月7日(月)、令和2年1月20日(月)
場 所: 岡山県立大学 講堂内会議室
参加者: 12名(延べ63名)、託児数: 14名(延べ84名)、学生ボランティア数13名(延べ18名)

イ 親子で楽しむ音楽会 ～0歳児からのコンサート～

日 時: 令和元年10月27日(日)11:00～12:10
場 所: 岡山県立大学 講堂
主 催: 県大そうじゃ子育てカレッジ、公益財団法人岡山シンフォニーホール
出 演: 岡山フィルハーモニック管弦楽団、保健福祉学科子ども学専攻学生
内 容: 乳幼児期の子育て期にある親子に、音楽および歌を通じた親子交流の大切さを伝えることを目的に岡山フィルハーモニック管弦楽団の協力を得て親子で楽しむクラシックコンサートを開催した。オッフエンバック作曲の喜歌劇「天国と地獄よりカンカン」、フンパーディンク作曲のヘンゼルとグレーテル:プレリュードなどのクラシックの名曲に加え、子どもが参加できる指揮者体験コーナーもあり、聞くだけではなく、身体でも音楽を感じることができる音楽会となった。子ども学専攻の学生は、全体の司会進行を務めると共に、歌のお兄さんお姉さんとしてフロアで歌ったり、踊ったり子どもたちと交流した。今年の人気曲パブリカを始め、アンパンマンマーチやチュッピーでハッピーをオーケストラの伴奏と素敵な歌に合わせて披露し、会場全体で楽しむことができた。特に、学生が扮するご当地キャラクターが登場し、愛嬌を振りまくと会場も大いに盛り上がった。
参加者: 約610名



ウ 総社市子育て支援ネットワーク研修会

日 時: 令和2年3月6日(金) 10:00~11:30

場 所: 岡山県立大学 学部共通棟(東)8904 講義室

テーマ: 「障害のある子どもの理解とかかわり方」

対 象: 総社市を中心として活動する子育て支援拠点スタッフ他

講 師: 岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科 准教授 京林由季子

参加者: 20名

→ 「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針(令和2年2月25日)」を踏まえ、開催を中止し参加者への資料送付により研修とした。

⑧ 備中県民局関連事業

ア 備中子育てカレッジネットワーク会議

日 時: 令和元年12月7日(土) 13:30~15:45

場 所: 備中県民局第2庁舎

出 席: 岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科 准教授 中野 菜穂子

内 容: 備中県民局管内の子育てカレッジの活動活性化を図るとともに、今後の連携協働のきっかけづくりとする。

各カレッジ関係者による子育て支援活動の情報および意見交換

イ 備中子育てカレッジ学生ネットワーク推進事業

日 時: 令和元年10月20日(日) 10:00~12:00

場 所: 里庄町福祉会館

テーマ: あつまれ おかやまっこ! ~いっばいあそぶでえ~

内 容: 製作遊び、コーナー遊び、ダンス、親子ふれあい遊びなど

参 加: 子ども学専攻 3年生2名 4年生2名

日 時: 令和元年11月24日(日) 10:00~12:00

場 所: アクティブライフ井原 メルヘンホール

テーマ: あつまれ おかやまっこ! ~いっばいあそぶでえ~

内 容: 製作遊び、コーナー遊び、ダンス、親子ふれあい遊びなど

参 加: 子ども学専攻 3年生2名 4年生4名

⑨ 視察等

ア 総社高校

日 時: 令和元年5月29日(水)

人 数: 生徒10名

イ につぼん子育て応援団

日 時: 令和元年10月21日(月)

人 数: 2名

(3) 評価と来年度の課題

県大・そうじゃ子育てカレッジは、開設 10 年目を迎えた。開設来、産・学・官・民の協働による取り組みを重ねることにより定着し安定的な評価を得ているといえる。

大学構内に開設した「チュッピーひろば」は、「親子への支援」と「学生の学びと実践」の両面による有効な取り組みであり、毎回 10 組以上の親子の利用がある。「親子で楽しむ音楽会～0 歳児からのコンサート～」は乳幼児対象の希少な音楽会として毎回盛況であり、参加者の満足度もたいへん高く継続を望む声が多い。継続可能な音楽会開催について、経費面、役割分担面から検討が必要である。

「保育ステップアップ講座」では、保育現場での遊びの展開について、豊富な事例やデータに基づく子どもの発達段階と遊びの姿の関連が詳細に解説され、保育の質向上に直結する内容で、事後アンケートにおいても大変好評であった。また「総社市子育て支援ネットワーク研修会」のように、地域の子育て支援活動を支える取り組みが学内で行われることの意義は大きい。

備中子育てカレッジネットワーク会議では他大学との意見交換が活発になされた。各地域の特性や既存資源の状況に合わせた活動の展開についての情報交換は有益であった。併せて「備中子育てカレッジ学生ネットワーク推進事業」に子ども学専攻 3・4 年生有志学生が企画段階から参加し、カレッジ間ネットワークの推進を図るとともにカレッジのない備中管内市町において子育て応援イベントを行い、好評を得た。

今後も、協働による地域貢献と学生の学びの「場」の創造を念頭に、学生の更なる参加の推進と産・官・学・民一層の連携を視野に事業の継続実施にあたってゆく所存である。

3. 4 社会連携教育推進室

3. 4-1 副専攻「岡山創生学」の推進

本推進室の主な所掌業務は次のとおりである。

- (1) 副専攻「岡山創生学」の修了に必要な授業科目の企画及び開発
- (2) 前号の授業科目のうち学部教育科目のカリキュラム案の作成支援及び実施支援
- (3) 共通教育科目の社会連携のカテゴリーに配置される授業科目のカリキュラム案の作成及び実施
- (4) 前号の授業科目に係る予算案の作成並びに施設及び機器等の整備(共通教育部の所掌するものを除く)
- (5) その他第1号及び第3号の授業科目に関連する業務(共通教育部及び各学部の所掌するものを除く)

今年度は、副専攻「岡山創生学」の開始から4年目を迎え、昨年度に全ての科目を開講して新たに確認できた課題を踏まえて、改善を重ねながら「岡山創生学」を推進した。

(1) 概要

副専攻「岡山創生学」の授業科目は、共通教育科目に加え、各学部の学部教育科目で構成されており、現在、共通教育科目の社会連携カテゴリーに配置されている全ての授業科目が、副専攻を構成する科目になっている。副専攻「岡山創生学」では、学びの中で地域の魅力に触れ、コミュニケーションや協働の中で地域課題を認識し、ともにその解決までのプロセスを体験することで地域への愛着の形成や共感力を高め、それを基盤として専門性を存分に発揮して地域の持続的発展のために貢献することができ、社会の変化に対して高い適応能力をもつ人材を育てるものである。このような人材になるために修得すべき能力を次のように設定している。

- (1) 地域「おかやま」の実態を体験的に学び、「おかやま」の魅力を発信する力
- (2) 実践的学習の中からアクション・ラーニングのプロセスを通じて課題を認識する力
- (3) 地域で人とコミュニケーションを取りながら協働して課題解決に取り組む力
- (4) 学部・学科の専門性を活かし、自律的に課題解決法を考える応用力
- (5) 持続可能な地域「おかやま」の未来を展望し、一市民としてまた専門家として社会に参画する力

(2) 教育プログラムの推進

副専攻「岡山創生学」は、「おかやまを学ぶ」と「おかやまボランティア論」が1年次の必修であり、学生の主体的な学びを促すためアクティブ・ラーニングを取り入れ、毎回授業の内容に関する簡単なレポートの提出を求めた。それぞれ400名以上が履修し担当は地域共同研究機構所属の客員准教授と保健福祉学部所属の准教授(兼任)であり、担当教員のみで各回のレポートを確認することは困難を極めていた。そこで、今年度から各学科2名以上のサポート教員の協力の下、所属学科の学生が毎回提出するレポート課題のチェックを担当した。これにより、担当教員は外部講師との講義内容や進行方法、配付資料などの連絡調整に時間を充てることができ、授業内容の充実を図ることができた。

また、選択の演習科目「おかやまボランティア演習」と「地域協働演習」においては、科目担当教員として担当以外に7名と8名が、それぞれ地区別に分かれた学生の指導にあたった。「おかやまボランティア演習」は6自治体10団体の学生受け入れがあり、学生は13グループに分かれて事前学習、学外におけるボランティア実践、事後学習を同時に進行した。担当教員は1~2の団体を担当し、学生の指導にあたった。また、幅広い地域やボランティア内容による実践からの学びを目指し、今年度から大学へ募集のあったボランティアや、社会福祉協議会がとりまとめているボランティアへも積極的に申し込むよう奨励し、20団体以上へ39名の学生が各自で連絡をとり、ボランティアを申し込み実践した。「地域協働演習」は、学外における協働を通して地域の課題を発見し、解決に向けた取り組みを実践するもので、学生は7地区に別れ、事前学習から実践、事後学習まで同時に進行するため、各地区担当の教員以外にサポート教員が巡回指導などを担当することで、緻密な指導体制を構築した。指導にあたった科目担当およびサポート教員は次表の通りである。

表 令和元年度社会連携カテゴリー科目指導にあたった教員一覧

(○は主担当、上段:担当教員、下段:サポート教員)

おかやまを学ぶ 417名履修	○小畑千晴客員准教授、高戸仁郎教授、樋笠勝士教授、岩満賢次准教授、佐藤洋一郎教授 實金栄准教授、佐々木純子准教授、久保田恵教授、山本孝司教授、岸原充佳准教授、小松弘明教授、綾部誠也教授、船山俊克准教授、柴田奈美教授、南川茂樹准教授、石王美助教
おかやまボランティア論 419名履修	○岩満賢次准教授、小畑千晴客員准教授、高戸仁郎教授、樋笠勝士教授 實金栄准教授、佐々木純子准教授、川上祐生准教授、大倉高志講師、岩橋直人教授、芝世武助教、綾部誠也教授、河合大介准教授、柴田奈美教授、南川茂樹准教授、石王美助教
おかやまボランティア演習 184名履修	○岩満賢次准教授、高林範子助教、松田実樹助教、高戸仁郎教授、大山剛史助教、畠和宏助教、小畑千晴客員准教授、樋笠勝士教授
地域協働演習 55名履修 7テーマ(7団体)	○高戸仁郎教授、小畑千晴客員准教授、福濱嘉宏教授、泉晋作助教、樋笠勝士教授、都島梨紗講師、朴貞淑准教授、三原鉄平准教授、荒井剛助教 関根紳太郎教授、柏まり准教授、デスマレス・エリック講師、大田慎一郎准教授、中西俊介准教授、我如古菜月助教、森下賢幸准教授
地域インターンシップ 12名履修 5自治体	○高戸仁郎教授、小畑千晴客員准教授、三谷健一准教授、樋笠勝士教授

これら以外にも、社会連携カテゴリーでは企業の経営者による講義(企業の組織と活動)や、実際に起業経験のある講師による講義(起業の条件)、地方自治体職員による講義(地方自治論)など、各界のトップランナーが講師を担当することで、地域で活躍するために必要な地域の理解と、他者との協働性に関する理解を深める科目群となっている。

3. 4-2 副専攻「岡山創生学」のカリキュラム改革

平成 28 年度に始まった副専攻「岡山創生学」は文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」採択を受けて、本学が代表校となって取り組む教育改革の一環で開設された。この事業は今年度で終了するため、次年度からは教育効果を担保し、持続性も考慮した新たなカリキュラムが必要と判断し、カリキュラムの再検討を行った。本カリキュラムについては、平成 30 年度から教育改革 WG で検討が進められていたものを、社会連携教育推進室が継承した。前提条件として、本学に社会連携教育、サービス・ラーニング(社会活動を通して市民性を育む教育)を専門とする専任教員が不在であることが挙げられる。そのため、現在の専任教員で実施可能と考えられる範囲での改革とならざるを得ない。更に、演習科目ではコーディネーターの役割が重要であり、教育担当コーディネーター1名(あるいは、域学・教育担当兼務を2名)以上が安定的に雇用される事も必須条件である。これらの制約の中で検討された令和 2 年度以降のカリキュラム案を以下に示す。

社会連携要論(仮称)

「おかやまボランティア論」の後継科目として、重点内容をボランティア活動から地域創生、社会連携へ移す。キャリア教育の導入部とも連携の上、社会人基礎力、地域における大学の役割、大学生に求められるもの、サービス・ラーニングの重要性を含むものとする。学部・学科を越えたメンバーによるグループワークやアクティブ・ラーニングを取り入れる。

地域創生演習(仮称)

「おかやまボランティア演習」および「地域協働演習」の内容を集約し、事前学習、受入先での体験活動、事後学習により構成し、2単位科目とする。特に、事前学習、事後学習をより強化し、学外者との協働に不可欠なマナーなども指導する。担当教員数に応じて履修制限を設ける事も検討する。

地域資源論(仮称)

「おかやまを学ぶ」の後継科目として、岡山県の地域資源(自然環境、歴史、社会、産業、文化、教育、観光など)を題材として、地域資源に関する基礎的な知識や、地域資源を活用した地域づくりの事例を学び、地域創生の可能性を探る。学部・学科を越えたメンバーによるグループワークやアクティブ・ラーニングを取り入れる。なお、社会連携要論に集約して削減することも検討する。

地域創生実践論(仮称)

1年次における「社会連携要論」、「地域資源論」での学びを踏まえ、地域創生、地域活性化に向けて活動するNPO、民間企業、自治体が、どのような課題に対して、解決に向けてどのような活動を実践しているかを「ひと」、「もの」、「こと」、「情報」などの視点から系統的に学習し、次のステップに向けた地域資源を活用した提案を、実践者と共に考える。また、社会や地域は、異なる文化や環境に根付いた多種多様なコミュニティで構成されており、自らもコミュニティの一員であることを自覚させる。

更に、長期のインターンシップ、実習、演習が3年次に集中していたのを解消することで、専門教育への接続がよりスムーズになるように「地域インターンシップ」を2年次開講とした。下図にこれらの科目で構成される副専攻のコースツリーを示す。

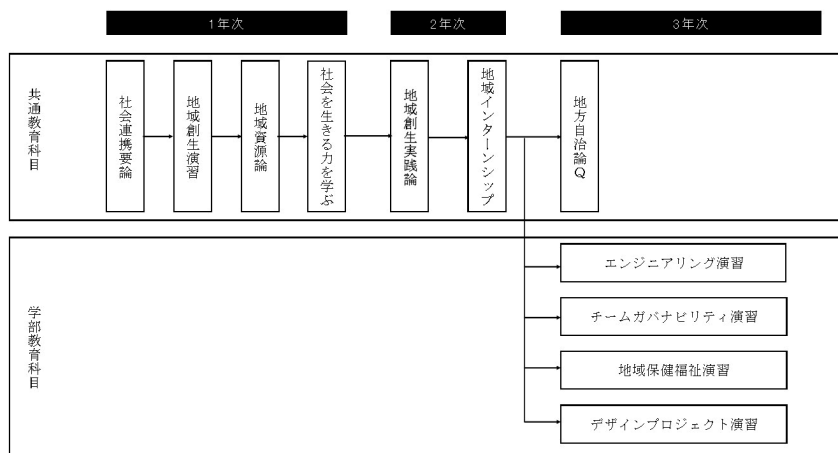


図 新たに提案する副専攻「岡山創生学」のコースツリー

3. 4-3 地域創生推進士

地域「おかやま」への深い理解と熱い情熱を持ち、地域「おかやま」の創生に貢献したいという強い意思を持った学生に平成30年度から授与している称号であり、認定を受けるために先述の副専攻「岡山創生学」の必要単位を取得し、さらに公開イベント等において発表を行うことを認定の要件としている。これらの学修を通じて地域創生推進士は次のような資質を備え、地域での活躍が期待されている。

＜地域創生推進士の資質＞

- 地域貢献に関する深い理解と実践力
- 社会に出て活躍できる社会人基礎力
- 地域を活性化するエネルギッシュな情熱と活力

今年度は令和2年3月2日に認定証の授与式を実施し、27名の地域創生推進士二期生(保健福祉学部17名、情報工学部8名、デザイン学部2名)が誕生した。授与式後のアンケート(回収数20)から、副専攻「岡山創生学」を受講したことによって、課題解決に向けて、様々な人とコミュニケーションを取りながら協働することの重要性を認識し、共に活動する力が十分高められたと回答した割合が65.0%(受講前と変わらない、少し高められた、高められた、十分高められた、の四件法、以下同じ)、地域社会にさまざまな問題が潜んでいる事について視野を拡げることが十分できたと回答した割合が55.0%、地域社会の身近な問題に対し、課題解決法を自ら考えたり、支援しようという意識が十分高められた割合も55.0%であった。県内地域における課題解決に向けたさまざまな取り組みについて、知識を得たりその意義について理解を深めることができたかという問いに対しては、十分できたと回答した割合が35.0%にとどまった。また、これらの力や意識について今後も高めていきたいと思うかとの問いに対し、地域社会にさまざまな問題が潜んでいる事について視野を拡げる力と、課題解決に向けて、様々な人とコミュニケーションを取りながら協働することの重要性を認識し、共に活動する力について80.0%がとても思うと回答し(思わない、少し思う、とても思う、の三件法、以下同じ)、地域社会の身近な問題に対し、課題解決法を自ら考えたり、支援しようという意識については60.0%がとても思うと回答した。知識が高められた割合が35.0%にとどまった、県内地域における課題解決に向けたさまざまな取り組みについての知識やその意義についての理解に対しては70.0%がとても思うと回答しており、今後のカリキュラム推進への重要な示唆が得られた。地域創生推進士は3年間にわたり、毎年度地域活動を行う演習を履修しており、自己の成長を感じ取ることができた一方で、実際の地域課題の複雑さ、課題解決への困難さを認識できたことが、今後の前向きな姿勢へと反映されているのではないかと考えられる。

4. 外部資金

4. 1 令和元年度の実績

4. 2 科学研究費

4. 3 今後の課題

4. 外部資金

4.1 令和元年度の実績

本学の外部資金は、科学研究費、共同研究費、受託研究費、教育研究奨励寄附金等の4つに分類される。平成19年度から令和元年度までの合計獲得実績は、図1と表1のとおりで、令和元年度は、前年度と比較して獲得件数、獲得金額ともに、減少した。

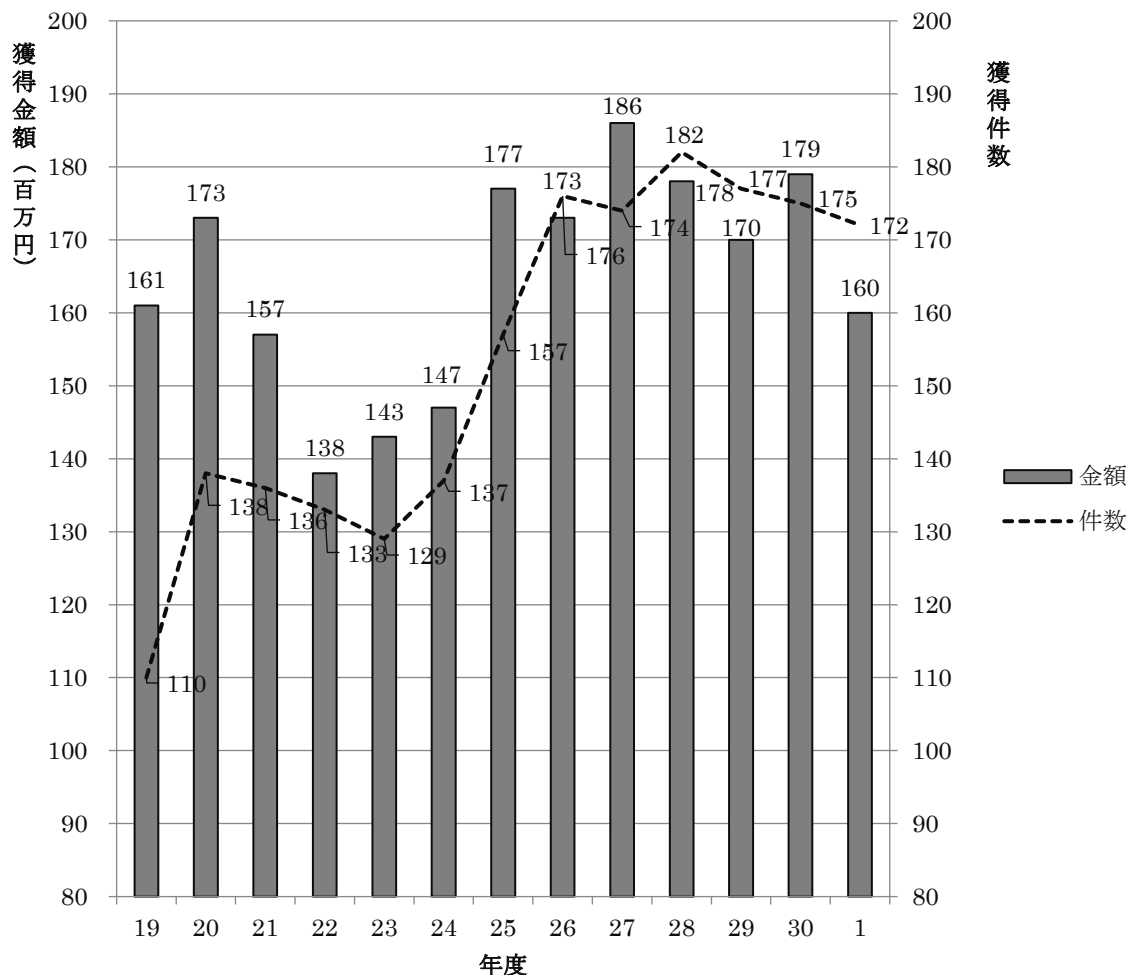


図1 外部資金獲得実績の推移

表1 外部資金獲得実績の推移(金額の単位は百万円、それ未満は四捨五入)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
件数	110	138	136	133	129	137	157	176	174	182	177	175	172
金額	161	173	157	138	143	147	177	173	186	178	170	179	160

外部資金の種類別のデータは表2のとおりである。

表2 外部資金獲得実績(金額の単位は千円で、千円未満切捨)

年 度	科学研究費		共同研究		受託研究		教育研究奨励寄附金等		合計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
H19	34	73,725	23	11,575	21	61,499	32	13,782	110	160,581
H20	39	84,503	31	12,100	38	62,248	30	14,636	138	173,487
H21	35	67,376	31	12,125	45	67,397	25	9,639	136	156,537
H22	42	70,110	33	13,490	26	39,027	32	15,427	133	138,054
H23	47	73,177	24	8,338	26	40,633	32	20,873	129	143,021
H24	51	84,727	32	10,288	26	35,514	28	16,012	137	146,541
H25	57	87,100	38	20,928	23	43,923	39	25,453	157	177,404
H26	55	90,381	42	24,536	29	32,592	50	25,787	176	173,296
H27	57	82,917	46	31,649	27	52,959	44	18,153	174	185,678
H28	67	89,440	48	21,000	18	45,926	49	21,716	182	178,082
H29	55	78,151	46	24,366	24	38,781	52	29,632	177	170,930
H30	64	90,675	43	17,872	20	48,678	48	22,639	175	179,864
R1	62	78,130	50	24,301	16	40,049	44	18,270	172	160,750

表2中で網掛けの部分が過去最高の件数と金額であるが、今年度の共同研究の獲得件数は過去最高になった。第3期中期計画、令和元年度計画及び獲得実績の一覧は表3のとおりである。令和元年度計画と獲得実績を比べると、件数は目標に及ばなかったが、獲得金額は目標を上回った。また、科学研究費については、採択率が目標を大きく上回る結果となった。

表3 中期計画および年度計画の目標との比較(金額の単位は千円)

種別	中期計画		R1 年度計画		R1 年度実績	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究・ 受託研究・ 教育研究 奨励寄附金等	130 以上	100,000 以上	115 以上	80,000 以上	110	82,620

種別	中期計画		R1 年度計画		R1 年度実績	
	採択率	金額	採択率	金額	採択率	金額
科学研究費	27%以上	85,000 以上	24%以上	80,000 以上	30.3%	78,130

4.2 科学研究費

科学研究費は獲得件数、獲得金額の推移は図2のとおりであり、令和元年度は、前年度と比較すると、獲得件数、獲得金額ともに減少した。

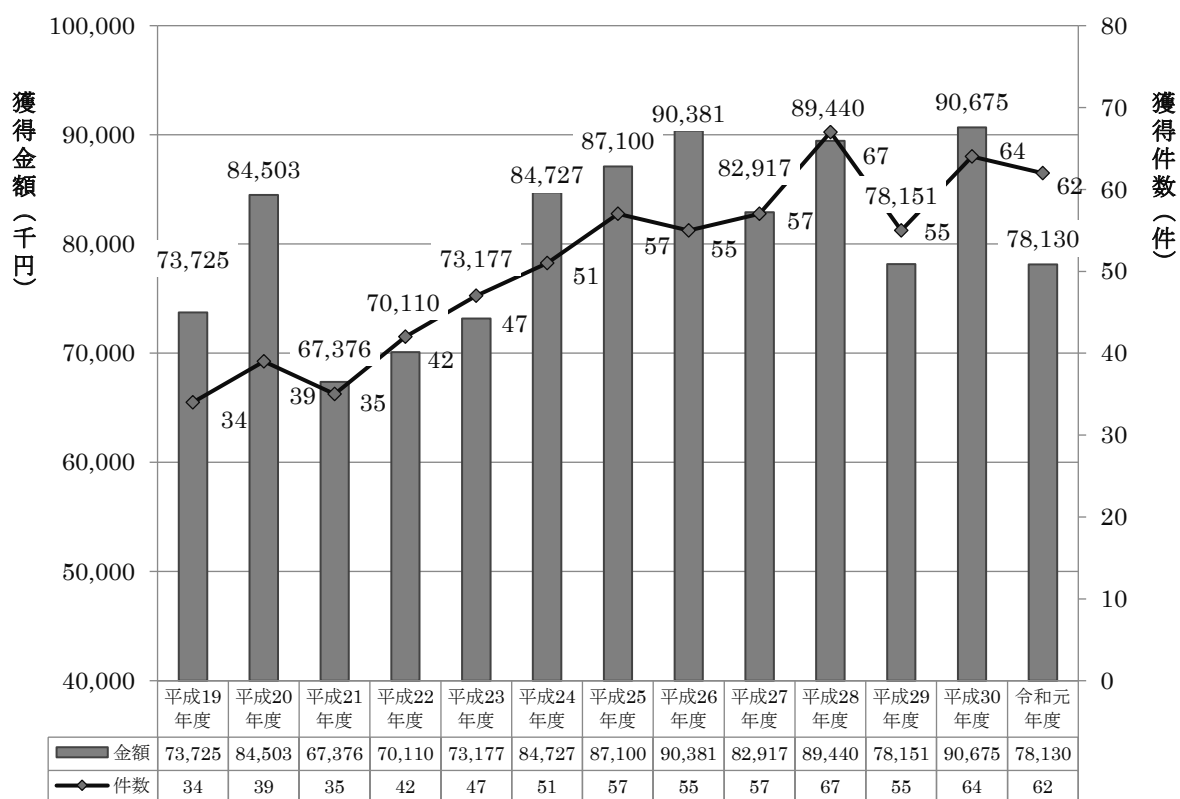


図2 科学研究費の獲得推移

4.3 今後の課題

これまで述べたとおり、令和元年度の本学の外部資金は、共同研究が過去最高件数となったが、前年度と比較した受託研究及び教育奨励寄附金の獲得件数、獲得金額はともに減少した。また、科学研究費の獲得件数および獲得金額についても前年度と比較して減少している。

今後、運営費交付金等の削減に伴う研究資金不足により研究の質を低下させないためにも、外部資金及び競争的資金の獲得をさらに進めるための環境づくり・組織づくりを継続していく必要がある。

卷末資料

2. 3-3 各種委員の応嘱（行政関係）

講師派遣（行政関係）

2. 6-1 各種委員の応嘱（行政関係以外）

講師派遣（行政関係以外）

非常勤医師（行政関係以外）

非常勤講師・役員（行政関係以外）

参考資料

2. 3-3 各種委員の応嘱（行政関係）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田 隆英	岡山県・岡山市教育委員会	岡山県・岡山市教員等育成協議会委員
	矢掛町教育委員会	矢掛町三者協議会委員
池田 理恵	総社市	平成 31 年度総社市妊産婦支援検討会議スーパーバイザー
伊東 秀之	岡山県	岡山県環境審議会委員
		岡山県農林水産総合センター生物科学研究所外部評価委員会委員
井上 幸子	岡山市教育委員会	岡山市問題行動等対策委員会委員
	総社市	総社市障害支援区分認定審査会委員
井上 里加子	文部科学省 科学技術・学術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク専門調査員
岩満 賢次	総社市	総社市国民健康保険運営協議会委員
	愛知県小牧市	小牧市高齢者保健福祉計画推進委員会委員
		令和元年度第 3 回小牧市地域包括センター運営協議会委員
柏 まり	岡山県	岡山県備中県民局協働事業審査委員会委員
川上 祐生	岡山県	岡山県農林水産総合センター農業研究所外部評価委員会委員
京林 由季子	総社市	総社市人権教育推進協議会委員
久保田 恵	岡山県	岡山県食の安全・食育推進協議会委員
	岡山市教育委員会	岡山市学校給食運営検討委員会委員
	備前市	備前市健康づくり推進協議会委員
近藤 理恵	岡山県	岡山県人権政策審議会委員
		岡山県公益認定等委員会委員
		岡山県保健福祉学会理事
	笠岡市	笠岡市子ども・子育て推進会議委員
	総社市	総社市子ども・子育て会議委員
		全国屈指福祉会議
		総社市総合計画審議会委員
総社市庁舎建設市民ワークショップ委員		
坂野 純子	岡山県	岡山県職業能力開発審議会委員
	総社市	総社市男女共同参画推進審議会委員
佐々木 純子	岡山県	岡山県建築審査会委員(公衆衛生分野)
	総社市	総社市介護認定審査会委員
佐藤 ゆかり	浅口市	浅口市介護認定審査会委員

氏名	従事先	従事内容
周防 美智子	岡山県危機管理課	岡山県国民保護協議会委員
	岡山県	「顔が見える子どもの人権サポーター事業」に係る子どもの人権サポーター
	岡山県教育委員会	「スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業」におけるスーパーバイザー
	総社市	総社市都市計画審議会委員
	高梁市教育委員会	高梁市いじめ問題対策専門委員会委員
	滋賀県守山市	守山市いじめ問題第三者委員会調査委員会委員
	奈良県教育委員会	平成31年度奈良県スクールソーシャルワーカー活用事業に係るスーパーバイザー
	奈良県生駒郡三郷町	三郷町介護保険運営協議会委員
住吉 和子	岡山市	岡山市国民保護協議会委員
		岡山市防災会議委員
高戸 仁郎	岡山県	倉敷、井笠地区福祉有償運送運営協議会会長
		備前市・赤磐市・和气郡和气町福祉有償運送運営協議会委員及び会長
		令和元年度バリアフリー相談検討会座長
	岡山市	岡山市スポーツ推進審議会委員
	倉敷市	倉敷市バリアフリー市民会議委員
浅口市	浅口市障害支援区分認定審査会委員	
高橋 徹	岡山県	岡山県公衆浴場入浴料金審議会委員
竹本 与志人	岡山市、(一社)はるそら	岡山市協働のまちづくり推進事業 認知症援助業務・支援内容のニーズ調査とモデル事業の技術指導、意見聴取及び倫理審査
	早島町	認知症初期集中支援チーム検討委員会委員
中野 菜穂子	岡山県	岡山県社会福祉審議会委員
中村 光	岡山県	岡山県介護保険審査会委員
二宮 一枝	岡山県	岡山県自然環境保全審議会委員
		岡山県医療審議会委員
		岡山県都市計画審議会委員
		岡山県医療費適正化推進協議会委員
		岡山県備中保健所運営協議会委員
	津山市	津山市健康づくり推進審議会委員
	総社市	総社市建築審査会委員
		総社市介護保険運営協議会委員
総社市自殺対策連絡協議会委員		

氏名	従事先	従事内容
二宮 一枝	総社市	総社市医療費適正化推進委員会委員
	早島町	早島町子ども・子育て会議委員
		早島町都市再生協議会委員
平松 智子	総社市	総社市働く婦人の家運営委員会委員
藤井 保人	総社市	総社市男女共同参画推進審議会委員
村社 卓	岡山県	岡山県介護保険審査会委員
		岡山県介護保険制度推進委員会委員
		岡山県災害弔慰金等支給審査会委員
		岡山県保健福祉部指定管理者候補選定委員会委員
		岡山県障害者施策推進審議会委員
		岡山県自立支援協議会委員
		岡山県障害者差別解消支援地域協議会委員
		岡山県発達障害者支援地域協議会委員
	岡山県広域特別支援連絡協議会委員	
総社市	総社市生涯現役促進協議会委員	
山下 広美	岡山県	岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議委員
山本 登志子	岡山県農林水産総合センター	外部知見活用型・産学官連携研究事業に係る評価委員
樂木 章子	総社市	日本語教育事業運営委員会委員

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
有本 和民	岡山県総務部財産活用課	岡山県ファンリティイマネジメント支援システム提供サービス業務業者選定委員会における特別委員
石井 裕	備前市	備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会
稲井 寛	岡山県	岡山県高度情報化推進協議会幹事
	岡山市	岡山市ホームページ管理システム構築・保守等包括外部委託総合評価一般競争入札に係る学識経験者
尾崎 公一	岡山県	岡山県大規模小売店舗立地審査会
	総社市	総社市環境審議会委員
菊井 玄一郎	総務省 GCP 研究開発委員会	「多言語音声翻訳技術」研究開発運営委員会委員
	(独)日本学生支援機構	官民協働海外留学支援制度選考委員会委員
	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構	農業 AI 化の研究開発における知識情報解析等に関する技術指導
	(国研)社会共有知研究センター	社会共有知研究センター セミナー 講師
	岡山県	岡山県高度情報化推進協議会幹事

氏名	従事先	従事内容
菊井 玄一郎	岡山県	おかやまIoT 推進ラボ協議会委員
		岡山県本人確認情報保護審議会委員
齋藤 誠二	内閣府政策統括官	2019年度「心の輪を広げる障害者理解促進事業(心の輪を広げる体験作文及び障害者週間のポスター)」審査委員
	(独)日本学生支援機構	令和元年度障害学生就学支援に関する合同ヒアリングについて
佐藤 洋一郎	備前市	行政評価市民委員会市民委員
杉村 藍	浅口市教育委員会	浅口市長杯中学生英語スピーチコンテストの審査及び講評
滝本 裕則	文部科学省 科学技術・学術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク専門調査員
但馬 康宏	文部科学省 科学技術・学術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク専門調査員
	岡山県総務部財産活用課	岡山県ファンリティアマネジメント支援システム提供サービス業務業者選定委員会における特別委員
	(独)日本学生支援機構	官民協働海外留学支援制度選考委員会委員
渡辺 富夫	岡山県工業技術センター	岡山県工業技術センター外部評価委員会委員
	(独)日本学生支援機構	官民協働海外留学支援制度選考委員会委員

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
嘉数 彰彦	岡山県	岡山芸術文化賞選考委員会委員
		景観アドバイザー
	瀬戸内市	瀬戸内市景観審議会委員
	赤磐市	あかいわ魅力発見フォトコンテスト審査委員会委員
齋藤 美絵子	岡山県	景観アドバイザー
	岡山市	岡山市浸水対策推進協議会委員
		岡山市本庁舎整備検討会会員
		岡山市都市・消防政策審議会委員
		岡山市景観審議会委員
		路面電車乗り入れを含めた岡山市駅前広場のあり方検討会 デザイン部会委員
	総社市	総社市放送番組審議会委員
浅口市	浅口市都市計画審議会委員	
柴田 奈美	岡山県	岡山県文化振興審議会委員
	美咲町教育委員会	「第23回さくらのうた」俳句部門審査員
西川 博美	岡山県	岡山県建築士審査会委員
	岡山市	岡山市環境影響評価審議会委員

氏名	従事先	従事内容
西川 博美	倉敷市	倉敷市都市計画審議会委員
		倉敷市都市景観審議会委員
		倉敷市空家等対策協議会及び 倉敷市空家等対策審議会委員
	総社市	総社市空家等対策協議会委員
		総社市都市計画審議会委員
早島町	早島町都市計画審議会委員	
西田 麻希子	岡山県	「令和元年度岡山県統計グラフコンクール」審査員
		「禁煙啓発ポスターコンクール」審査員
朴 貞淑	倉敷市	STOP 温暖化くらしき実行委員会委員
	三重県亀山市	亀山市総合環境研究センター研究員
畠 和宏	瀬戸内市	瀬戸内市景観審議会委員
福濱 嘉宏	岡山市	岡山市景観審議会委員
	倉敷市	倉敷市都市景観審議会委員
		倉敷市琴浦公民館建替事業者選定委員会委員
向山 徹	愛媛県今治市	今治市本庁舎整備事業専門委員
山下 明美	岡山県	岡山県環境影響評価技術審査委員
		岡山県都市計画審議会委員
		岡山県土地開発審査会委員
	倉敷市	倉敷市都市景観審議会委員
山下 万吉	総社市	総社市放送番組審議会委員
吉原 直彦	岡山県	岡山県屋外広告物審議会委員
	総社市	総社市総合計画審議会委員

2. 3-3 講師派遣（行政関係）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田 隆英	総社市教育委員会	総社市就学前教育研修会講師
伊東 秀之	岡山市高松公民館	岡山市高松公民館主催講座講師
井上 幸子	総社市	総社市働く婦人の家講習会講師
井村 圭壯	岡山県消防学校	消防学校教育課程「社会福祉原論」講師
大倉 高志	倉敷市保健所	「生きる支援」研修会シンポジウムコーディネータ
柏 まり	岡山県総合教育センター	岡山県総合教育センター研修講座講師
	岡山市岡山っ子育成局	2019年度岡山市教職員研修講座講師
	総社市教育委員会	就学前教育研修会講師
		きよね認定こども園園内研修会講師
		いじりの認定こども園園内研修会講師
美作市教育委員会	美作市子育て講演会及び幼保合同研修会講師	
川下 菜穂子	倉敷市立市民病院	倉敷市立市民病院での助産業務
	新見市	妊孕性講座講師
京林 由季子	笠岡市	就学前教育・保育研修講座講師
周防 美智子	岡山県総合教育センター	岡山県総合教育センター教職員研修講師
	岡山県	第2回おかやま子ども・若者サポートネット実務者会議模擬ケース検討会ファシリテーター
	玉野市教育サポートセンター	令和元年度就学前スクールソーシャルワーカー活用研究事業講師
	滋賀県大津市教育センター	教科等領域別研究会、教育相談部会公開研修講座講師
	滋賀県大津市教育委員会	令和元年度大津市学校保健主事会研修会講師
住吉 和子	岡山県備前保健所東備支部	糖尿病性腎症重症化予防のための保健指導研修会講師
高戸 仁郎	岡山市保健所	南地域愛育委員会研修会講師
		令和元年度北市民健康づくり会議交流会講師
竹本 与志人	倉敷市保健福祉局	令和元年度社会福祉法人役員研修会講師
田淵 真愉美	真庭保健所	給食施設従事者研修会講師「給食施設における栄養管理と調理のポイント」
新山 順子	岡山市岡山っ子育成局	2019年度岡山市教職員研修講座講師
	浅口市教育委員会	浅口市放課後児童クラブ連絡協議会ワークショップの講師
二宮 一枝	岡山県	公衆衛生看護学実習指導者研修会講師
	岡山県備前保健所	令和元年度東備地域愛育委員リーダー研修会講師
平松 智子	岡山県備北保健所	令和元年度備北保健所新見栄養改善協議会研修会講師
	岡山県備中保健所	令和元年度井笠愛育委員連合会・栄養改善協議会合同研修会講師
山本 孝司	岡山県保健福祉部	第26回岡山県保健福祉学会の研究発表座長

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部 誠也	総社市	“歩得”健康商品券 健康講座
渡辺 富夫	岡山県立美術館	「目の目 手の目 心の目Part2 展」関連事業「おとな時間トークセッション」講師

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
嘉数 彰彦	岡山県備前県民局	「瀬戸内クリエイターin 玉野」講座 講師
		「瀬戸内クリエイターin 赤磐」講座 講師
齋藤 美絵子	岡山県	景観対策推進アドバイザー
島田 清徳	岡山県立美術館	「目の目 手の目 心の目Part2 展」関連事業ワークショップ「テープ!TAPE!てーぶ! 2019 夏」講師
		「目の目 手の目 心の目Part2 展」関連事業「おとな時間トークセッション」講師
関崎 哲	倉敷市立美術館	実技講座講師「銅版画・石版画」実技講座(前期)
		実技講座講師「銅版画・石版画」実技講座(後期)
	総社市	「秋の吉備路でスケッチ体験」講師
津田 勢太	岡山県警	災害警備対策資機材制作に伴う制作指導
南川 茂樹	岡山県立美術館	「目の目 手の目 心の目Part2 展」関連事業ワークショップ「木の積層」講師
吉原 直彦	岡山県	岡山県屋外広告物講習会講師

参考資料

2. 6-1 各種委員等の応募（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田 理恵	(公社)岡山県看護協会	社会経済福祉委員会委員
		就労環境改善研修会開催用務
	(公社)日本看護科学学会	日本看護科学学会英文誌編集委員会委員
井上 祐介	(一社)日本老年学的評価研究機構	日本老年学的評価研究機構研究員
	(福)総社市社会福祉協議会	総社市社会福祉協議会評議員
井村 圭壯	(福)岡山県共同募金会	評議員・配分委員
	日本福祉図書文献学会	学会評議員
		「福祉図書文献研究」査読委員
中国四国社会福祉史学会	学会理事	
岩満 賢次	(福)総社市社会福祉協議会	総社市生活困窮支援センター協議会委員
	(福)早島町社会福祉協議会	「早島町地域福祉活動計画」評価委員
岡崎 愉加	(公社)岡山県看護協会	学会委員会
荻野 哲也	岡山大学医学部	岡山大学病理専門研修プログラム管理委員会委員
沖本 克子	岡山県看護教育施設代表者会	岡山県看護教育施設代表者会議
	岡山大学大学院	岡山大学大学院保健学研究科教育外部評価委員会委員
	(公社)岡山県看護協会	2019年日本看護協会通常総会・全国職能別交流集會に参加する代議員の研修会
		令和元年度岡山県看護協会通常総会出席
	(公社)日本看護協会	2019年度日本看護協会通常総会及び全国職能交流集會出席
日本小児がん看護学会	第17回日本小児がん看護学会学術集會実行委員	
近藤 理恵	日仏社会学会	日仏社会学会理事、学会誌編集委員長
	総社市社会福祉協議会	生活困窮者支援センター協議会委員
佐々木 純子	岡山県訪問看護ステーション連絡協議会	課題検討委員会委員
佐々木 新介	(公社)岡山県看護協会	学会委員会
佐藤 ゆかり	(福)総社市社会福祉協議会	総社市生活支援サービス検討委員会委員
周防 美智子	(福)総社市社会福祉協議会	総社市ひきこもり等支援検討委員会委員
	岡山県立岡山盲学校	第2回いじめ対策委員会指導・助言
住吉 和子	(一社)日本糖尿病教育・看護学会	日本糖尿病教育・看護学会 理事・編集委員会委員・研究推進委員会委員
	(一社)日本糖尿病療養指導士認定機構	試験委員
	岡山糖尿病懇話会	世話人

氏名	従事先	従事内容
住吉 和子	岡山市肥満糖尿病対策事業	委員
関根 紳太郎	(一社)日本メディア英語学会	第9回年次大会打ち合わせ、第4回理事会
高戸 仁郎	東北文化学園大学	大学院博士論文審査委員
	岡山県ハンドボール協会	岡山県ハンドボール協会の常任理事
	中四国学生ハンドボール連盟	男子第58回・女子第46回中四国学生ハンドボール春季リーグ戦副委員長
		男子第58回・女子第46回中四国学生ハンドボール秋季リーグ戦副委員長
(一社)公立大学協会	LINKtopos2020 企画チーム委員	
高橋 吉孝	(一社)日本経済団体連合会	「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」 今後の採用とインターンシップの在り方に関する分科会委員
	(公財)ウエスコ学術振興財団	ウエスコ学術振興財団評議員
竹本 与志人	日本学術会議	日本学術会議連携会員
	(一社)日本社会福祉学会	日本社会福祉学会機関紙「社会福祉学」査読委員
	(一社)日本認知症ケア学会	代議員
	(公社)日本医療社会福祉協会	社会福祉振興・試験センター助成事業 「ソーシャルワーク・ケアワークの専門性に関する研究事業」委員
	日本在宅ケア学会	日本在宅ケア学会実践・研究助成委員会委員
都島 梨紗	日本犯罪社会学会	関西幹事会出席
中野 菜穂子	岡山県立成徳学校	岡山県立成徳学校苦情解決要領に基づく第三者委員
中村 光	日本高次脳機能障害学会	日本高次脳機能障害学会代議員
	(福)総社市社会福祉協議会	第三者委員(苦情解決委員)
	日本コミュニケーション障害学会	学会理事
		「コミュニケーション障害学」編集委員
	(一社)日本言語聴覚士協会	代議員選挙管理委員
		学術誌編集委員会委員
生涯学習部部員		
名越 恵美	(公社)岡山県看護協会	研究倫理審査委員会委員
	(一社)日本看護研究学会	日本看護学会雑誌専任査読委員
	(一財)日本看護学教育評価機構	日本看護学教育評価機構評価研修委員
新田 陽子	岡山科学技術専門学校	教育課程編成委員会委員
二宮 一枝	岡山県老人クラブ連合会	健康づくり推進委員会委員
	(公社)岡山県看護協会	岡山県看護協会理事
		会長・副会長会議及び訪問看護ステーション運営会議委員
		保健師職能委員会委員

氏名	従事先	従事内容
二宮 一枝	(公社)岡山県看護協会	2019 年度日本看護協会通常総会・全国職能別交流集會に参加する代議員の研修会 G20 岡山保険大臣會合開催記念事業「生きるを、ともに、作る看護」運営
	(公社)日本看護協会	2019 年度日本看護協会通常総會及び全国職能交流集會出席
	岡山県母性衛生学会	岡山県母性衛生学会役員會
原野 かおり	(公社)日本介護福祉学会	学会理事 研究活動支援委員
	(公財)社会福祉振興試験センター	介護福祉士試験委員
松田 実樹	(社)旭川荘	平成 31 年度愛育寮第三者委員
村社 卓	(一社)日本社会福祉学会	日本社会福祉学会機関紙「社会福祉学」査読委員
	(一社)日本ソーシャルワーク学会	日本ソーシャルワーク学会機関紙「ソーシャルワーク学会誌」査読委員
	(福)ももぞの学園	評議員委員
	(福)吉備の里	評議員委員
	(福)岡山県社会福祉協議會	岡山県福祉人材センター運営委員会委員
森本 美智子	日本環境感染学会	日本環境感染学会評議員、日本環境感染学会学会誌査読委員
	日本感染看護学会	日本感染看護学会評議員
	日本防菌防黴学会	日本防菌防黴学会評議員

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
伊藤 照明	(一社)日本機械学会 生産システム部門	生産システム部門97期運営委員
	(一社)日本機械学会 設計工学・システム部門	設計工学・システム部門97期運営委員
	(一社)日本機械学会 英文ジャーナル Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing (JAMDSM)	編集委員
	JSME Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing (JAMDSM)	特集号 (Vol.14, No.2) Editor
	(公社)日本工学教育協會	編集・出版委員
	JSME iDECON/MS2019 国際會議	iDECON/MS2019 組織委員長
伊藤 信之	(一社)電気学会	連合大会 第 1 回大会委員会委員(代理出席)
	(一社)電子情報通信学会	ソサエティ論文誌編集委員会査読委員
大久保 賢祐	電子情報通信学会エレクトロニクスソサエティ	大学発マイクロ波論文特集編集委員会

氏名	従事先	従事内容
大久保 賢祐	電子情報通信学会マイクロ波研究会	TJMW2019(タイ開催)現地実行委員会
		TJMW2020(タイ開催)現地実行委員会
		2019年度マイクロ波研究専門委員会
	IEEE Japan Council	2019年度 IEEE Japan Council 理事会
	2019APMC 国内委員会	2019 国内委員会
	電子情報通信学会エレクトロニクスソサエティ マイクロ波研究専門委員会	2019年度マイクロ波研究会
IEEE 広島支部	IEEE 広島支部総会	
尾崎 公一	(公社)日本鑄造工学会中国四国支部	第35期日本鑄造工業会支部理事
金崎 真人	(一社)日本複合材料学会	第44回複合材料シンポジウム実行委員会委員
	(公社)日本材料学会、(一社)日本複合材料学会	第11回日本複合材料会議(JCCM-11)実行委員会委員
菊井 玄一郎	中国情報通信懇談会	中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブルメンバー
岸原 充佳	(一社)電気学会	「量子ビームによるナノ構造形成とその医療・バイオ応用技術調査専門委員会」委員
齋藤 誠二	九州大学大学院	九州大学大学院博士学位論文審査に係る学外審査員
	(一社)人間生活工学研究センター	人間生活工学製品機能認証 担当審査委員
	(一社)日本人間工学会	日本人間工学会第6期編集委員
坂口 浩一郎	日本表面真空学会関西支部	第21回日本表面真空学会関西支部市民講座小委員会委員長
佐藤 洋一郎	岡山県立総社南高等学校	学校評議員
末岡 浩治	(一社)日本経済団体連合会	「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」地域活性化人材育成分科会委員
杉村 藍	日本英文学会中国四国支部	学会誌「中国四国英文学研究」の編集委員
高林 健人	電子情報通信学会中国支部	学生会顧問
	(一社)電子情報通信学会	通信ソサイエティ ヘルスケア・医療情報通信技術専門委員会 幹事補佐 英文論文誌 B Special Section on Information and Communication Technology for IoT/CPS in Medical and Healthcare 編集幹事
徳永 義孝	(一社)電気設備学会中国支部	理事として第80回・81回役員会への出席 ほか支部活動
	(一社)電気学会	論文委員として、論文審査を実施
春木 直人	(公社)日本伝熱学会	第58期理事(中国四国支部)
	(公社)日本伝熱学会	第58期学生会委員会幹事
	(公社)日本伝熱学会中国四国支部	副支部長
	(一社)日本機械学会	2019年度代表会員

氏名	従事先	従事内容
春木 直人	日本熱物性学会	第13期編集委員会編集委員
福田 忠生	レスキューロボットコンテスト実行委員会	第19期レスキューロボットコンテスト実行委員会実行委員
山内 仁	(公社)計測自動制御学会	システムインテグレーション(SI)部会 インテリジェントビークル部会委員
	レスキューロボットコンテスト実行委員会	第19期レスキューロボットコンテスト実行委員会実行委員
横川 智教	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	同機構の2018年度委託又は助成金交付した研究開発事業の支出実態調査協力
渡辺 富夫	(公財)岡山工学振興会	岡山工学振興会評議会
	(一社)日本経済団体連合会	Society5.0 人材育成分科会
	(一社)電気学会	連合大会 第2回大会委員会委員

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
岩本 弘光	(社)日本建築学会	第2回作品選定委員会事前審査
		第2回作品選集委員会委員
	(社)日本建築学会 中国支部	日本建築学会中国支部・設計審査委員会委員
柴田 奈美	(公社)岡山県文化連盟	岡第54回岡山県文学選奨審査員
	(公社)倉敷市文化振興財団	第23回倉敷市民文学賞俳句部門第1回審査員
	九州大学大学院比較社会文化学府	博士論文予備調査委員
		博士論文審査委員
(学)みつ朝日学園朝日塾中等教育学校	朝日塾“ゆめ”俳句大賞選考委員	
島田 清徳	岡山県天神山文化プラザ	天プラ・セレクション推薦委員
助川 たかね	(公財)日米教育交流振興財団	日米教育交流振興財団評議員
	(公財)ウエスコ学術振興財団	研究活動助成 選考委員
関崎 哲	(一社)二紀会 岡山二紀支部	二紀会平成31年度定時社員総会
津田 勢太	(一社)岡山県建築士事務所協会	岡山県建築物耐震診断等評価委員会委員
	岡山県建築住宅センター(株)	構造計算適合性判定専門委員
樋笠 勝士	美学会	『美学』東西合同編集委員会・東西合同委員会

2. 6 - 1 講師派遣（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
網野 裕子	(一社)岡山県訪問看護ステーション連絡協議会	小児訪問看護研修会講師
池田 隆英	瀬戸内市保育協議会	瀬戸内市保育協議会保育研究委員会講師
	倉敷市保育協議会	倉敷市保育協議会公開保育講師
池田 理恵	(公社)岡山県看護協会	看護研修センター教育研修講師 「看護研究の実践」
	(公財)大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院	2019年度看護研究研修会講師
	岡山県立倉敷古城池高校	研究内容の紹介及び県立大学保健福祉学部の紹介
伊東 秀之	クロマトグラフィー科学会	第26回クロマトグラフィーシンポジウム(岡山)講師
井上 かおり	川崎医科大学総合医療センター	「ELNEC-J」コアカリキュラム看護師教育プログラム講師
井上 幸子	(公社)岡山県看護協会	看護研修センター教育研修講師 「保健師助産師看護師実習指導者講習会 看護論、看護論演習」
	岡山県立総社高等学校	土曜講座「看護とその将来性について」
井上 里加子	総社市保育協議会	総社市保育協議会こども園研修会講師
井村 圭壯	(公社)山陽放送学術文化財団	シリーズ・シンポジウム「慈愛と福祉の先駆者たち」第7回シンポジウム講師
	エフエムゆめウェブ(株)	ラジオ番組出演 アルコール・ハラスメントについて
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑦「笠井信一と済世顧問制度」について
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑧ 石井十次と岡山孤児院について
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑨ 養護老人ホーム・報恩積善会:大正編
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑩ 妙善尼と釈尊修養院
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑪ 養護老人ホーム・報恩積善会:昭和戦前編
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑫ 富田象吉と石井十次
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑬ 岡山県の養老院史
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史」シリーズ⑭ 「山室軍平と山室機恵子」
		広島県立西城紫水高等学校
	岡山県立邑久高等学校	「福祉に関する様々な仕事、教育・医療との関連、社会福祉系学部で学べること、高校時代にやっておくこと。」
	岡山県立勝間田高等学校	講師「福祉・医療・保育等の専門職の魅力と重要性について」
	岡山商科大学附属高等学校	履修科目「産業社会と人間」での講義
岡山県立倉敷中央高等学校	講師「福祉・医療・保育系進路の魅力と大学の学び」	

氏名	従事先	従事内容
入江 康至	岡山県立倉敷南高等学校	学校設定科目「キャリア I」学問の哲人講座の講師
岩満 賢次	(福)総社市社会福祉協議会	令和元年度ジュニアボランティア養成講座講師
	中央法規出版	社会福祉士国家試験模擬問題作成・解説作成
	岡山県立総社高等学校	「福祉とその現状・将来性について」
岡崎 愉加	就実高等学校	性教育講演会講師
	山陽女子高等学校	性教育講演会講師
	岡山県立瀬戸南高等学校	性教育講演会講師
沖本 克子	(公社)岡山県看護協会	看護研修センター教育研修講師 「保健師助産師看護師実習指導者講習会」
	岡山大学大学院	岡山大学大学院保健学研究科オープンフォーラム 2019 の講師
	(一社)岡山県訪問看護ステーション連絡協議会	小児訪問看護研修会講師
柏 まり	(一財)香川県私立認可保育園連盟	施設長・保育士対象の研修会講師
	岡山市保育協議会	岡山市保育協議会 5 ブロック研修会講師
		岡山市保育協議会 5 ブロック研究委員会講師
	美咲町保育協議会	美咲町保育協議会研究部会講師
	(公財)岡山県市町村振興協会	新規採用保育士(後期)研修講師
	久米苦田地区保育協議会	平成 31 年度久米苦田地区保育協議会研修会講師
	岡山県国公立幼稚園・こども園教育研究会	岡山県国公立幼稚園・こども園教育研究会玉野支部研修会講師
総社市立総社北幼稚園	「PTA 人権教育講演会」講師	
久保田 恵	(福)山手保育園	参観日講演会講師
	総社市ファミリーサポートセンター	保育サービス講習会講師
佐々木 純子	(公社)岡山県看護協会	平成 31 年度訪問看護師養成講習会講師
		看護研修センター教育研修講師 「在宅看護の世界をのぞいてみませんか？」
佐々木 新介	(公社)岡山県看護協会	看護研修センター教育研修講師 「看護研究の実践」
		平成 31 年度岡山県看護協会支部研修会講師
	(公社)赤磐医師会病院	赤磐医師会病院看護部看護研究の講師
	岡山県立総社高等学校	土曜講座「看護師とその将来について」
佐藤 ゆかり	(一社)岡山県介護福祉士会	認定介護福祉士養成研修事前打ち合わせ会
	服部地区地域づくり協議会	講演「認知症予防、認知症とともに生きる」
周防 美智子	(一社)滋賀県保育協議会	第 63 回保育研究集会講義
	滋賀県大津市立青山中学校	大津市青山学区保幼小中合同教職員全員研修会講師

氏名	従事先	従事内容
周防 美智子	(一社) 奈良県社会福祉士会	スクールソーシャルワーカー養成講座講師
	(特非) 日本放課後児童指導員協会	令和元年度放課後児童専門育成支援師資格認定講習会講師
		令和元年度 岡山県新・放課後子ども総合プラン合同研修会講師
		令和元年度放課後児童支援員認定資格研修講師
	岡山県立岡山東支援学校	いじめの問題に関する研修会講師
		PTA 人権教育研修会講師
	岡山県立岡山瀬戸高等支援学校	いじめ防止研修会講師
	広島ひきこもり相談支援センター 中部・北部センター	令和元年度ひきこもりセミナー講師
	(株) システムブレイン	安芸高田市八千代人権福祉講演会講師
(一社) 岡山県精神保健福祉協会	第 57 回「岡山県精神保健福祉大会」講演	
(福) 滋賀県社会福祉協議会	「令和元年度 生活困窮者自立支援事業 引きこもり支援研修会」講師	
高戸 仁郎	(一社) 岡山県介護福祉士会	認定介護福祉士養成研修事前打ち合わせ会
	岡山県立岡山南高校	「介護予防について」の講義・実技指導
		「高齢者の健康」について
竹本 与志人	(公社) 岡山県社会福祉会	認定社会福祉士制度スーパービジョンのスーパーバイザー
	中央法規出版	社会福祉士国家試験模擬問題作成・解説作成
田淵 真愉美	(株) インターメディカル	2020 年(第 34 回国試対策) 管理栄養士国家試験全国統一模擬試験の問題と解説作成
		2021 年(第 35 回国試対策) 管理栄養士国家試験全国統一模擬試験の問題と解説作成
趙 敏廷	(福) 稔福社会	介護福祉士国家試験受験対策学習支援の講師
都島 梨紗	日本子ども社会学会	日本子ども社会学会第 26 回大会講演
	宮崎公立大学	令和元年度自主講座講師
中野 菜穂子	岡山大学大学院	岡山大学大学院保健学研究科講師 『「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム 19』の講演
中村 光	(株) gene	株式会社 gene 主催セミナー講師 「失語症の評価と訓練」大阪会場
		株式会社 gene 主催セミナー講師 「失語症の評価と訓練」東京会場
		株式会社 gene 主催セミナー講師 「失語症の評価と訓練」名古屋会場
		(一社) 日本言語聴覚士協会
	愛媛県言語聴覚士会	令和元年度愛媛県言語聴覚士会専門講座講師
(一社) 岡山県言語聴覚士会	「失語症者向け意思疎通支援者養成研修講座」講師	
名越 恵美	(公社) 岡山県看護協会	看護研修センター教育研修講師
		「保健師助産師看護師実習指導者講習会看護過程」

氏名	従事先	従事内容
名越 恵美	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「人生最終段階での支え合い」
	心臓病センター 榊原病院	看護研究指導の講義
	日本重症心身障害学会	第45回日本重症心身障害学会学術集会講師
	川崎医科大学総合医療センター	「ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム」講師
	岡山県立倉敷南高等学校	学校設定科目「キャリア I」学問の哲人講座の講師
二宮 一枝	(公社)山陽放送学術文化財団	シリーズ・シンポジウム「慈愛と福祉の先駆者たち」編集担当者
	岡山県民生委員児童委員協議会	「2019年度地域見守り活動推進セミナー」講師
	(公社)岡山県看護協会	平成31年度看護大会記念講演座長
原野 かおり	(一社)岡山県介護福祉士会	2019年度実務者研修教員講習会講師
		介護福祉士実習指導者講習会講師「介護過程の理論と指導方法」
實金 栄	(公社)岡山県看護協会	看護研修センター教育研修講師「看護研究の実践」
	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「人生最終段階での支え合い」
	(公社)岡山県看護協会	「介護保険施設看護管理者育成研修」フォローアップの講師
		岡山県看護協会井笠支部看護研究発表会の講師
森本 美智子	(公財)中国地域創造研究センター	「2019年度第3回ヘルスケア・医療福祉機器研究交流会」講演会講師
山本 孝司	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「若草物語の教育論」
	岡山県立総社高等学校	土曜講座「福祉とその現状・将来性について」
山本 登志子	日本農芸化学会中四国支部	第29回若手シンポジウム講師

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
伊藤 照明	岡山新材料技術融合フォーラム	第40回岡山新材料技術融合フォーラム セミナー講師
	Hasanuddin University (インドネシア)	UNHS・OPU ワークショップ講師
尾崎 公一	日本材料科学会 関西・中国支部	日本材料科学会関西・中国支部 第2回支部講演会における講演
	(株)日立産業制御ソリューションズ	第20回ADSTEFAN ユーザー会講師
金崎 真人	日本機械学会中国四国支部	第131回講習会「工業用材料の基礎と応用」講師、題目「複合材料の基礎と応用」
菊井 玄一郎	岡山県立操山中学校	第一学年校外調べ学習に係る訪問について(受入れ)
	(公財)岡山県産業振興財団	「AI-IoTに関わる異業種交流会」講師
齋藤 誠二	兵庫県立大学	「減災復興教育・研究における大学間連携ワークショップ」での発表
芝 世式	(大)岡山大学自然科学研究科	第5回岡山大学AI研究会

氏名	従事先	従事内容
穂苅 真樹	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「日常生活に係るセンシング」
	日本表面真空学会関西支部	第21回日本表面真空学会関西支部市民講座講師
渡辺 富夫	(公社)山陽技術振興会	山陽技術振興会技術交流会(講演)・交流会
	(一社)日本機械学会 生産システム部門	生産システム部門運営委員
	(一財)デジタルコンテンツ協会	第2回 認知的インタラクション支援技術プロジェクトシンポジウム講師
	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「身体コミュニケーション」
	ナカシマプロペラ(株)送致事業部 装置設計	「人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術」
	姫路大学	看護学研究科FD研修会

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
尾崎 洋	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「生活の中のデザイン」
北山 由紀雄	(公社)岡山県文化連盟	おかやま文化芸術アソシエイツ「文化芸術交流実験室」講師
柴田 奈美	高校生文芸道場おかやま2019	応募作品の審査および俳句分科会講師
関崎 哲	日ようび子ども大学(大学コンソーシアム岡山)	「はながであそぼう」講師
石 玉美	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「ウェブデザイン」
西川 博美	(株)毎日文化センター	「レトロ台湾の魅力 ～都市と建築と美術館～」講師
樋笠 勝士	西田幾多郎記念哲学館	「哲学入門講座」講師
船山 俊克	金光学園	高2探究活動中間発表会助言者

2. 6 - 1 非常勤医師 (行政関係以外)

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
萩野 哲也	(一社)岡山市医師会総合メディカルセンター	病理医(生検材料・外科材料の診断等)
	三原赤十字病院	生検材料・外科材料の診断・臨床各科との症例検討
高橋 徹	(医)盛全会 岡山西大寺病院	麻酔科医師として手術症例の術前・術中・術後管理
	(医)三樹会 梶木病院	日本麻酔科学会認定麻酔科指導医・専門医
	(医)水和会 水島中央病院	麻酔科医師として手術症例の術前・術中・術後管理および卒後研修医に対する教育指導

2. 6 - 1 非常勤講師・役員（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
安久津 太一	就実学園就実大学	「初等教育ゼミナールⅣa」
	星槎大学	通信制大学共生科学部 「芸術との対話」、「幼稚園における教育力の向上をはかる」
池田 隆英	岡山赤十字看護専門学校	「教育学」
池田 理恵	就実学園就実大学	「子どもの保健Ⅱ」
井上 里加子	(株)タニタヘルスリンク	岡山淳風会タニタ食堂カウンセラー
岩満 賢次	愛知学院大学	春学期 「社会福祉・教育」 秋学期 「言語聴覚心理評価学」
	(学)弘徳学園豊岡短期大学	面接授業、通信授業、実習巡回指導
岡崎 順子	岡山大学	岡山大学教育学部 「幼児の音楽表現(1)(2)」、「幼児音楽Ⅱ(1)(2)」
柏 まり	就実学園就実大学	「教育課程特論」、「人間関係指導学特論」、「乳児保育Ⅱ」
	(学)弘徳学園姫路大学	教育学部通信教育課程レポート添削及びブスケーリング講義
	兵庫大学	「男女共同参画社会の構築」「集団施設保育の現状と課題」
樟本 千里	川崎医療福祉大学	春学期 「発達心理学」 秋学期 「幼児理解の理論と方法」
		「発達心理学」
佐々木 純子	倉敷看護専門学校	「在宅看護概論」
澤田 陽一	中国短期大学	「社会心理学」
周防 美智子	就実学園就実大学	「福祉心理学」
関根 紳太郎	岡山大学	「英語コミュニケーション6-1, 2」
高戸 仁郎	岡山大学	「するスポーツ演習」
	朝日医療大学校	「体育」
高橋 徹	岡山大学医学部	ドラッグ・リポジショニングを応用した急性肺障害に対する治療法の開発
竹本 与志人	(株)ミネルヴァ書房	MINERVA「保健医療と福祉」編集
		MINERVA「保健医療と福祉」執筆
		MINERVA「高齢者福祉」執筆
	(一社)日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版「社会福祉調査の基礎」「ソーシャルワークの理論と方法」(社会・精神共通)執筆
	中央法規出版(株)	中央法規出版「社会福祉調査の基礎」編集委員
中央法規出版「ケアマネジメント事典」執筆		
田中 晃一	山陽学園短期大学	「食品衛生学」
田淵 真愉美	理工図書(株)	「給食経営と管理の科学」の改訂及び執筆
都島 梨紗	玉野総合医療専門学校	「教育原理」、「教育学方法論」

氏名	従事先	従事内容
都島 梨紗	東亜大学	「特別活動の指導法」
	(株)ミネルヴァ書房	MINERVA「小学校教育辞典」執筆
デスマレス・エリック	岡山大学	「英語コミュニケーション5-1, 2」
中野 菜穂子	岡山大学	「社会的養護内容」、「児童家庭福祉(1)(2)」
	岡山大学大学院	「リプロダクティブ・ヘルス演習 I」
中村 光	(一社)操風会 岡山旭東病院	言語聴覚士としての臨床業務(リハビリテーション課 言語聴覚部門)
名越 恵美	岡山労災看護専門学校	「看護研究の基礎」
	倉敷看護専門学校	「倫理学」
	山陽学園大学	山陽学園大学大学院看護学研究科特別講師
新田 陽子	岡山大学	岡山大学教育学部「食物調製の科学(1)(2)」
二宮 一枝	岡山労災看護専門学校	「公衆衛生学」
	ノートルダム清心女子大学	「家庭看護学」
原野 かおり	ノートルダム清心女子大学	「こころとからだの理解 I、II」
	(株)富士データシステム	介護ビッグデータの分析及びAI解析におけるアドバイザー
藤井 保人	ノートルダム清心女子大学	「こころとからだの理解 I」
森本 美智子	山梨大学大学院	大学院総合教育部医学域講師「感染看護学特論」
山形 真由美	岡山県済生会看護専門学校	「在宅介護援助論 I (症状別看護)」
山本 孝司	神戸親和女子大学	通信教育部添削指導員
	鹿児島純心女子大学	「教育原理」
	熊本大学	教員免許状更新講習会講師「教育の最新事情」
	九州看護福祉大学	教員免許状更新講習講師「教育の最新事情」
「教育原理」		
山本 登志子	香川大学医学部	「生化学」

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部 誠也	(学)就実学園就実大学	「スポーツ 1」、「スポーツ 2」
伊藤 信之	慶應義塾大学理工学部電子工学科	理工学研究科講義「システム LSI 設計」
岩橋 直人	玉川大学	脳科学研究所非常勤特別研究員
大久保 賢祐	岡山理科大学	「電気電子計測」
金崎 真人	(学)金沢工業大学	革新複合材料研究開発センター客員研究員
菊井 玄一郎	(株)三井 E&S ビジネスサービス	自然言語処理、及び、情報検索にかんする技術指導
國島 丈生	明石工業高等専門学校	「データベース」

氏名	従事先	従事内容
小椋 清孝	(大)岡山大学	「情報処理入門2」
		「微分方程式1」、「微分方程式2」
榊原 勝己	岡山理科大学	「コンピュータネットワーク」
佐藤 洋一郎	岡山理科大学	「情報処理工学Ⅱ」
芝 世式	(株)ドワンゴ	将棋の形勢を評価する人工知能にかんする技術コンサルタント
忻 欣	(大)神戸大学	「計算生体力学」
	(大)岡山大学	「機械システム工学セミナーⅠ」
春木 直人	(大)岡山大学	「微分積分1,2」
山内 仁	(一社)アール・アンド・コミュニティー	レスキューロボットコンテストをはじめとする事業の計画・立案・実施およびこれに関する業務

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
河合 大介	慶應義塾大学	「美学特殊ⅡD」
西川 博美	京都造形芸術大学	「環境デザイン演習[建築]Ⅱ-1/Ⅱ-2」
	関西大学総合情報学部	「景観デザイン」
西田 麻希子	関西学院大学	「目的をもって伝えるグラフィックスデザイン」
朴 貞淑	(学)美作学園 美作大学	「韓国語Ⅰ(前期)」、「韓国語Ⅱ(後期)」
樋笠 勝士	慶應義塾大学	「美学芸術学特殊研究ⅠA」、「美学芸術学特殊研究ⅡA」、「美学概論Ⅰ」、「美学特殊ⅡC」
船山 俊克	仁愛大学	「デザイン文化論(集中講義)」
ブルネリ・アンソニー	岡山大学	「英語コミュニケーション4-2」、「上級英語」、「英語コミュニケーション5-1」、「英語コミュニケーション5-2」
益岡 了	成安造形大学	「空間デザイン論2C」
向山 徹	広島工業大学	「建築設計演習」、「建築意匠・技法」、「建築設計製図Ⅱ」、「建築史」
山下 明美	倉敷市立短期大学	「カラーコーディネーター論(前期集中)」
	倉敷芸術科学大学	「色彩学(集中講義)」
山下 万吉	吉備国際大学	「アニメーション概論(春学期)」、「動画像基礎」(秋学期)

岡山県立大学 社会貢献年報 2019

発行日 令和2年6月
編集 岡山県立大学 地域共同研究機構
発行 岡山県立大学
〒719-1197 岡山県総社市窪木 111 番地
TEL 0866-94-2111
URL <https://www.oka-pu.ac.jp/>
印刷 サンコー印刷株式会社